

2015年度事業報告目次

	ページ
法 人	1
平 生 園	15
さ くら の 苑	21
高齢者グループホームわらしべ	26
恵 生 園	30
あ っ た か プ ラ ザ	36
真 生 園	38
和 生 園	42
グループホームもみの木・かしの木	46
北但広域療育センター	49
エスポワールこじか	53
神 戸 聖 生 園	57
グループホームながみね	63
グループホームしおや	66
グループホームたいのはた東	70
せいれいやさかだい	73
神 戸 愛 生 園	78
すま障害者地域生活支援センター	85
神 戸 友 生 園	89
神 戸 光 生 園	94
グループホームみなみたもん	101
神 戸 明 生 園	104
ケアホームきたすま	108
神戸市立ワークセンターひょうご	
神戸市障害者就労推進センター	110
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者就職拡大推進事業	
ひょうご障害者地域生活支援センター	115
神戸市発達障害者中部相談窓口	120
神戸市障害者基幹相談支援センター	124
神戸市立障がい者デイセンターひょうご	128
インクルージョンひょうご	133
神戸市立自立センターひょうご	137
ワークセンターわかまつ	143
別表1（事業実績）	147
別表2（設備整備実績）	149

## 2015年度 事業実績報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
理事長 水野 雄二

### I. 2015年度の歩み

#### はじめに

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」

(ヨハネによる福音書 15:12)

2015年6月20日にホテル舞子ビラで開催された創立40年記念礼拝において、この聖句が読まれました。神戸聖隷福祉事業団を生み出した西神戸教会の尾堂拓哉牧師から、この聖句に基づいて記念の説教がなされ、40年前の始業の原点に回帰する機会が与えられた一年でした。

時代の変化は激しく、急激な少子高齢社会の進行や乱高下の続く経済状況などを背景に、地域社会は大きく変容しています。社会福祉を取り巻く環境や課題も様々に変化中、神戸聖隷福祉事業団も大きなチャレンジを受けた時を過ごしてきました。利用者支援の根幹である法人基本理念を広く周知し定着させること。制度変更や単価見直しが進む中で、更なる支援内容の充実と共に法人経営の安定を図ること。支援の要である職員を適正に確保し養成すること。法人の歩むべき方向を定めた第2期中期計画の完遂と次期中期計画策定に向けて準備すること。これらの大きな課題に向けて、果敢に取り組みを進めることができました。

大きな成果の一つとして、「虐待防止基準表」の作成と研修がなされ、その成果は年度末に総合職員研修の場で共有されました。今後、これらを活かして更に利用者主体の支援の充実が期待されます。また、事業としては、新しいグループホームとして「グループホームたいのはた東」が2016年2月に開所しサービスの輪が広がりました。そして、「神戸聖隷総合相談センター」(2016年4月開所)、障害者短期入所施設「アクシスひょうご」(2016年4月開所)、地域密着型特養「新さくらの苑」(2017年4月開所予定)のそれぞれの開設に向けて適切な準備が進められました。

大きく変化していく時代にあっても、「互いに愛し合いなさい。」と聖書に示された愛と奉仕の実践を目指す基本的な姿勢を変えることなく、次の50年を目指した歩みをスタートすることができました。

#### 1. 法人基本理念の周知と理解に基づく事業推進

「神戸聖隷は40年—ともに生きる社会を目指して」のスローガンの下に開催された創立40年記念式典の記念講演では、二ノ宮アキエ先生から「神戸聖隷が社会変革のリーダーとして、利用者中心のインクルーシブなコミュニティーを創造してほしい」と力強いメッセージをいただきました。またこの機会に作製した記念誌『40Years' History』と記念映像DVD『隣人愛の業』で、創始の精神を振り返るとともに共生社会実現への意思を新たにしました。

一方日々の福祉現場で、各施設は法人基本理念に沿い讃美歌、聖書に親しみ、ご利用者に寄り添う気持ちを施設基本方針に表して実践に向かいました。特に、コンプライアンスの中心に虐待防止と成年後見制度活用推進において、安全で安心できる福祉サービスの提供を誠実に行いました。

## 2. 時代に即した経営への取り組み

2015年度の介護報酬及び障害福祉サービス自立支援給付費は、事業者にとっていずれもマイナス改定となり、特養の本体報酬でマイナス5.6%、障害福祉サービスでも入所施設で2.5%程度の減収を見込まざるを得ませんでした。反面、電気料金が12%値上げされたことで水光熱費の増加を見込みました。

決算状況としては、全職員の努力で事業活動収入が52百万円増となり減収は免れました。報酬の厳しさと事業の持続性のはざままで各施設長の経営管理意識が働いた結果です。また水光熱費も一部施設の照明LED化と早い秋の到来等の効果で、前年度（一昨年対比1.2%アップ）並みに抑えることができました。一方、多数の施設が大規模改修工事を行う中で、2014年4月の消費増税が、実質経費増につながり経営上の重荷となっています。

社会福祉法人経営に重大な影響を及ぼす出来事として、社会福祉法の一部改正法案が、4月3日に国会に提出され2016年3月末に成立しました。2016年4月と2017年4月に分けて法人経営組織と財務管理の在り方の大改革が行われます。これについて法人は、7月の評議員会で当法人組織の新法への対応の方向性を示し、その後も情報の収集と理解を進めて、評議員会・理事会、施設長会等への発信に努めました。

制度改正により、社会福祉の主たる担い手として多様な福祉サービスを提供できる創意工夫と地域公益活動に取り組むことに、私たちは一層強い使命感を持って取り組まねばなりません。幸い、地区別施設長会や課長・施設長合同の次期経営計画策定学習を通じて多彩なアイデアが提起されています。また社会福祉法人批判の重大な要点である事業運営の透明性の確保については従来から取り組んできたところです。

## 3. 職員育成研修と職員確保

2014年度に発足した新人事制度に基づく「人事評価制度」の定着のために、1次考課者である副主任以上の職制者による「人事制度運用委員会」（5次20回）、施設毎の「評価審議会」（8回）、「地区別審議会」（2回）を開催しました。そして、評価結果に基づいて、課長・施設長が全正規職員に対して個別育成面談を実施しました。

職員研修は、恒例の「副主任・主任研修」と「課長研修」、また初の「上級一般職員研修」を開催しました。常に、神戸聖隷福祉サービスを基本理念に立って提供する役割を追求しました。マネジメント分野の研修として、2016年度に取り組む第3期中期計画策定に必要な実践手法を課長と施設長が合同で、兵庫県立大学経営学部の當間克雄教授から学びました。

採用では、初めて高校生求人を行い3名の2016年度入職者を得ました。大学生の採用活動では法人施設での実習やグループホームでのアルバイト経験を、人材の獲得につなぐように努めました。これらのことを含め3次の採用選考を行って、計10名の新人を採用しました。また、非正規職員から7名を正規職員として登用しました。新人のOJTにはメンター（エルダー）制度で取り組みました。

## 4. 法人中期計画事業の推進

利用者の高齢化から生活支援の必要性が高まっています。一方で、障害があっても出来る限り働いて自己実現を目指す方もあります。第2期中期計画の重要な狙いの一つとして、そのような個々のニーズに応えられる支援の提供があります。その一つとして、ワークセンターわかまつのせきもり事業所を生活介護事業に事業変更するとともに神戸聖生園所属に変更しました。

これに引き続き、2015年度にせいいいやさかだいの生活介護部門の神戸聖生園への合体と、

神戸友生園とせいれいやさかだいの就労継続支援B型事業の統合を実施する予定にしていました。しかし、友が丘の事業用地（神戸市所有）については、単に事業の再編成に止まらない活用方法を「ランドデザイン」として提案するようとの市長助言を受けたことにより、さらに検討することになりました。

働くニーズに応えるために、受注作業の一括受け入れと、法人内施設作業配分、利用者支援の協働と相互補完の取組みを神戸友生園とワークセンターわかまつが主になって推進しました。

利用者の地域移行（グループホーム）支援について、6月に北須磨の住宅地で中古住宅を購入、改修工事を施したうえで2016年2月に「グループホームたいのはた東」（定員5名）を開設しました。その入居者選考の際には法人神戸地区事業所から22名の応募者があり、今後一層グループホームを設置する必要があることがわかりました。これに関して、2016年度に向けて、垂水区福田で土地所有者の「建て貸し」による開設が可能か検討を進めています。

但馬地区では、2014年度から用地買収を進めてきた地域密着型特養の建設計画で、事業敷地に係る権利関係が確定し、朝来市の協力を得て整備補助金申請も順調に進んでいます。しかしながら、建築物価の高まりが資金計画を圧迫する可能性があることから、2016年度に予定していた恵生園と真生園の大規模改修工事を延期して、当特養整備に集中することになりました。また、但馬信用金庫の旧店舗を買収して竹田で進めている法人歴史資料館は2016年11月23日に開所する予定で進捗中です。

## 5. 法人機能

### (1) 理事長の交代

越智靖理事長の退任に伴い1月11日に水野雄二理事長が就任しました。水野理事長は就任後、積極的に利用者・家族、法人職員との交わりを進めました。また、多分野のリーダーの方々と法人との接点を持ちました。

### (2) 常務理事体制

吉田和夫理事が4月から常務理事として副理事長の職務を引き継ぎました。事務長業務と兼任ですが、各常任理事の協力を得て運営業務を行いました。

### (3) 常任理事会

月例会を12回、臨時会を6回開催して、法人経営に関する評議員会・理事会上程議案の検討、重要人事の検討並びに人事の承認、各施設事業の順調な運営に関わる検討・調整・承認などを行いました。

### (4) 理事会

第171回から第176回までの理事会を6回開催し、法人運営に関する重要事項を審議、決議すると共に各種の報告を行いました。特に、12月5日に開催された第174回理事会において、1月から任期が始まる新たな評議員が選任され、1月11日に開催された第175回理事会において水野雄二理事長が選任されました。

### (5) 評議員会

第115回から第119回までの評議員会を5回開催し、法人運営に関する重要事項を審議、決議すると共に各種の報告を行いました。特に、12月5日に開催された第118回評議員会において、1月から任期が始まる新たな理事・監事が選任されました。

### (6) 監事監査（藤本辰也監事・古野健治監事・鈴木博和監事）

会計監査 平生園・さくらの苑・わらしべ（11月17日）、神戸友生園・自立センターひょうご（11月18日）

業務監査 但馬地区本部長・さくらの苑施設長・わらしべ施設長（11月17日）、神戸  
友生園施設長・自立センターひょうご施設長（11月18日）

(7) 施設長会

ア) 全体施設長会

4月と奇数月に、計8回開催しました。主要審議事項は以下の通りです。

- 4月：2015年度法人事業計画及び地区事業方針、虐待防止の取組み方針の件
- 5月：決算及び事業報告、2014年度虐待防止取組みのまとめ、2015年度改修工事、創業40年事業の件
- 7月：第2平生園整備事業計画、2016年度職員募集、資格取得支援、5月評議員会・理事会議事録の再検証の件
- 9月：メンタルヘルス対策推進、特定個人情報（マイナンバー）安全管理措置、経営計画策定学習実施、虐待防止取組み、デイセンターひょうごショートステイ事業、友が丘計画の件
- 11月：両地区の課題、虐待防止チェックリスト集計報告、研修未受講介護職員による医療行為、虐待防止基準表作成担当者会議報告の件
- 1月（6日）：越智理事長退任あいさつ、障害者雇用推進の件、一般上級職昇格推薦、EPA介護福祉士候補者受入れ、マイナビ活用の件
- 1月（12日）：水野理事長就任あいさつ、2015年度監事監査・内部監査結果報告
- 3月：2016年度職員確保状況、2016年度事業計画、法人情報SNS活用、女性活用推進法対応、新人事制度定着推進の件、谷秀親施設長退職挨拶

イ) 地区施設長会

但馬地区では施設長と課長が合同で「地区連絡会」を月例で開催し、情報の共有と事業の推進を担いました。特に、地域老人クラブとの「神戸聖隷杯グランドゴルフ大会」開催や、朝来市内の小中高校との手話教室の開催は地域から大きい期待を担って実施しました。

神戸地区は施設長による地区施設長会を月例開催して、ワーキンググループによる中期計画推進を支援しました。神戸地区は知的障害者の支援が中心であるため、利用者・家族視点の事業展開を常に考えています。おいでやすカーニバル、神戸光生園30年記念式典を開催しました。

(8) 課長による成年後見制度活用推進

法人の成年後見制度活用推進委員会は法人全課長が担って活動しています。4年の着実な取組みが、法人全体の本制度への意識の高まりにつながっており、2015年度には利用者・ご家族向け基礎研修会と、職員向け実務研修会を開催しました。今後もその役割が期待されます。

具体的な課題への対応

	目標	課題	実績
施設・事業所	事業体系の多様化・専門化	就労継続 B 型事業再編成のための本部会議室の建替えによる整備計画	ア) 友が丘市有地活用を神戸市へ諮ったが、神戸市長から「グランドデザインを提案せよ」とのアドバイス イ) 神戸市当局も「地域生活支援拠点」の在り方を模索中 ウ) 重度、生活支援、医療支援等の必要に応える機能を再検討する方向
		グループホームの増設と運営センター設置	ア) 2016 年 2 月、グループホームたいのはた東を開所 イ) 垂水区福田での 2016 年度設置計画 ウ) 身体障害者の一人暮らし希望に応えるグループホームも視野に エ) CH きたすまと GH みなみたものサービス管理責任者を一本化
		地域密着型特養設置	ア) 朝来市・兵庫県協議、境界協定、敷地測量、地盤調査、基本計画、補助金申請まで順調に進捗
利用者・保護者の安心	虐待防止	防止責任者の活動	ア) ポスター・標語掲示 イ) 虐待防止委員会開催 ウ) 報道事案の検証・支援の適切性の検証
		チェックリスト実施	ア) サービス・事業担当者会議によるチェックリスト活用を年 2 回実施、適切な支援であるかを検証
		虐待防止基準表作成	ア) 判定基準表作成担当者が「虐待防止の為の判定基準表」を策定
	成年後見制度	取組体制	ア) 「成年後見制度活用推進状況調査」を実施し、緊急度が高い方の 4 親等内の親族の有無の把握
		成年後見制度の理解を深めるための職員研修、家族説明会	ア) 利用者及びご家族向けの「成年後見制度活用推進基礎研修」実施（神戸地区 2 月、但馬地区 3 月） イ) サービス管理責任者等の職員向けの「実務研修」実施（本部 3 月）
		成年後見制度活用を通して可能な相談支援の推進	ア) 「みまもり通信」発行 イ) すま障害者地域生活支援センター及びひょうご障害者地域生活支援センターで、成年後見制度利用相談に対応
	支援の質の向上	第三者評価	ア) 2015 年度受審施設名 ・北但広域療育センター ・エスポワールこじか ・神戸明生園 ・デイセンターひょうご 累計 14 事業所が受審済

研修・人事制度・労務管理	研修	上級一般職研修の実施	ア)実施日：2016/1/22 と 2/5 イ)目的：「利用者主体の支援を継続していくために、自らの利用者支援を振り返り、理念にある『人権尊重』を再確認する」 ウ)講師：津田耕一評議員 エ)テーマ「専門性としての権利擁護の再確認」 オ)参加人数：50名。
		職制別（副主任、主任、課長）研修会の実施	(1)副主任・主任研修 ア)実施日：8/21 イ)講師：稲松真人理事 ウ)テーマ：「支援することを学ぶ（理念の実践）」 エ)内容：「対人援助（スーパーバイズ）応用」 オ)参加人数：24名  (2)課長研修 ア)実施日：11/27～28 イ)目的：「管理職としてマネジメント力を高める」 ウ)講師： ・吉田常務「課長に期待すること」 ・社労士松井一恵氏「労務管理の基礎」 ・法人総務課長3名「予算管理（収入）について」 ・有川・西山理事「中期計画の取組み～第3期中期計画に向けて～」 ・村山施設長「社会福祉法人の公益的取組みについて」 エ)グループ討議：「私が考える公益的取組について」 オ)参加課長18名
		総合職員研修会（研究発表会）の開催	ア)2/27「利用者主体の支援」をテーマに全施設から19題の取組みを発表 イ)参加職員数118名 ウ)神戸市障害者就労推進センター「利用者企画から見えた利用者の主体性」が金賞
		管理職セミナー	第3期中期計画策定に向けた学習 ア)兵庫県社協実施「経営計画策定支援・指導者派遣事業」受講 イ)指導者：當間克雄兵庫県立大学経営学部教授 ウ)開催日：10/20、11/20、1/19、2/23の4回 エ)全課長をふくめ40名
	人事制度	評価制度の適切な運営	ア)評価に携わる副主任以上の職制者による「人事制度運用委員会」を5次20回開催、施設毎の「評価審議会」を8回、「地区別審議会」を2回開催 イ)人事考課についての職員アンケート実施、集計、公表

研修・人事制度・労務管理	人事制度	目標管理制度による指導職育成	ア)管理職（指導側）の目標管理状況に施設及び当事者の温度差の課題が大 イ)2016年度からの一般職への拡大は、ア)の改善を優先し先送り
		評価結果の処遇連動における適正な運用	ア)評価結果のばらつきは昨年度より縮小したものの施設間格差が確認されるため、賞与並びに次年度賃金等へは不反映
		マイナンバー制対応	ア)特定個人情報取扱規程及びフローマニュアルを独自に整備
	労務	職員の健康確保のための長時間労働の抑制	ア)時間外労働実態として、全体平均、長時間労働者名をデータ化 イ)抑制方法は検討中。
		働きやすい職場づくりのための適切な労務管理の推進	ア)全体施設長会で多離職者数施設の雇用管理・管理職の関わり方を検討、
		個々の職員との対話の推進	ア)人事ヒアリング、評価ヒアリングを実施
	採用	大学等の実習の積極的な受入れ	ア)但馬2、神戸9施設で年間114名の実習を受入 (うち社福士31、高校介護員養成22、介福士0)
		多様な学科学学生を対象にした求人活動	ア)2017年度募集でマイナビを活用
		高卒生の採用	ア)2016年度正規職員採用で但馬地区高校から3名採用
	経営	予算管理会計	ア)予算月次管理の導入 イ)予算学習会と予算ヒアリングの開催 ウ)管理会計、経営分析勉強会の実施
財務管理の推進		ア)長期修繕計画に基づく修繕整備の実施 イ)施設創設計画に対応した補助金及び留保金計画策定 ウ)効率的な資金運用	ア)次枠の通り計画的に実施。建設費環境変化による入札不調にも対応 イ)2015年度積立資産計上額 建設積立資産（2,215千円） 修繕積立資産（138,900千円） 減価償却積立資産（46,461千円） 人件費積立資産（12,119千円） 備品積立資産（18,000千円） ウ)運用委員会、評議員会等の審議を経て、金融債1億円、電力債1億円で運用
改修工事実施		2015年度改修工事実施	○工事費合計272,699千円 ・恵生園：空調改修工事・給湯改修工事・ナースコール・トイレ改修工事他（113,400千円） ・真生園：空調改修工事・改修・給湯改修工事他（64,800千円） ・わらしべ：浴室改修工事・照明LED化工事（18,360千円） ・神戸聖生園：トイレ改修・厨房空調・自火報装置（14,040千円）

	改修工事実施	2015 年度改修工事实施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸愛生園：自動火災報知設備及び PHS 更新（2,149 千円）</li> <li>・神戸友生園：自動火災報知設備及び PHS 更新（2,278 千円）</li> <li>・神戸光生園：1 階作業室床及び照明 LED 化。2 階食堂床及び壁補修並びに LED 化・1 階男子更衣室間仕切り変更その他（14,472 千円）</li> <li>・神戸明生園：空調改修工事・照明 LED 化工事・天井補修工事（43,200 千円）</li> </ul>
	広報	法人全体の積極的広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関紙「洗足」第 11 号（9 月）、第 12 号（3 月）を発行</li> <li>・40 年記念 DVD の制作と配布</li> <li>・SNS 活用の検討（マイナビ、フェイスブックの準備）</li> </ul>

## 2015 年度サービス・事業担当者会事業報告

サービス・事業担当者会

委員長：西郷 昌一

2015 年度のテーマ：「支援することを学ぶ」（理念の実践）

研修方針：

担当者会：種谷、高瀬、加藤、谷、西郷、伊崎、掃部、中江、井上

（座長）西郷、（副座長）伊崎

### 1、総括

前年度と同様、理念に基づく利用者支援のあり方について、学ぶ一年とし、各職制・階層別の研修を実施しました。また、虐待防止チェックリストを実施しました。

研修としては、階層別の研修を実施しました。内容として、一年間の支援の集約としての総合職員研修、新たに採用された職員の研修として、新採用職員研修及び半年後に実施するフォローアップ研修。また、人事・財務・総務チームで行っているキャリアアップのための研修との関係を踏まえながら、主任（副）・課長の各研修を実施しました。主任・副主任研修では、経験年数別とし、振り返りを含め、職制で果たすべき役割を再認識しました。これは、キャリアアップの副主任・主任の有るべき姿を基本としています。

また、上級一般職で 10 年以上の経験者に研修を実施しました。今年度と来年度の 2 年跨ぎで今年度は基礎的学びをしました。

虐待防止関係の取り組みとして虐待防止チェックリストを用い、年間を 2 期に分け支援の振り返りと改善策の取り組みを各施設単位で行いました。第 1 期は 4 月～7 月に支援を行ったものに対する振り返りを 8 月に、第 2 期は 10 月～1 月の支援を行ったものに対する振り返りを 2 月に実施しました。また、本年度は第 1 期の実施結果の内、不適切な支援や改善のある事柄について取り組みを実施しています。

更に、虐待防止関係に視点を充て、今年度一年間にされた各施設の取組みをまとめています。

3 月に実施された新採用職員入団前研修（本部主催）では、新採用職員の研修フレーム見直しにより、基本理念の理解を勤務に先立てて実施し、4 月以降に備えました。

なお、講師を吉田和夫常務理事が担当しました。

サービス管理責任者会議は、年間 13 回開催しました。（全体 2 回、地区別 11 回：神戸 4 回、但馬 7 回）参加人数 28 名（神戸 11 名、但馬 7 名）

会議内容は、各施設サービス内容の把握、不適切支援を考慮した支援実施書の活用方法の検討を行いました。「個別支援計画策定の意義とサビ管の役割」については、各施設への出向いて行つての研修を実施しています。

2、研修報告

日時・場所	研修名及び内容	人数	講師
5月8日～9日 コープこうべ協同学苑 宿泊	新規採用職員研修 ・神戸地区各施設見学 ・法人理念、キリスト教徒社会福祉、コミュニケーション、個別支援計画	19名	吉川牧師、竹内牧師、越智理事長、稲松理事、有川本部長、木南課長
7月1日～2日 コープこうべ協同学苑 宿泊	副主任・主任（5年以下） 新副主任研修 ・基本理念の理解 ・人事制度評価者研修 ・メンタルヘルスライン研修 ・スーパービジョンの基本	新副主任 7名 主任・副主任 17名 （5年以下）	越智理事長、種谷本部長、(株)経営開発センター阿野参与、社労士梅村隆子氏、稲松理事
8月21日 コープこうべ協同学苑	主任・副主任研修（6年以上） スーパービジョンの基本	主任・副主任 24名 （6年以上）	稲松理事
10月25日～26日 但馬長寿の郷宿泊	新規採用職員フォローアップ研修 ・成年後見制度 ・メンタルヘルス ・先輩からの一言（虐待防止の観点から） ・但馬地区各施設見学 ・地の塩伝道所礼拝参加 ・自分自身の振り返り ・親睦	11名	中江施設長・大橋課長・伊藤主任（ひょうご障害者地域生活支援センター） 実近主任（ひょうごデイ）
11月27日～28日 スペースアルファ神戸	課長研修 ・課長に期待される事 ・労務管理の基礎 ・予算管理 ・中期計画の取組み ・社会福祉法人の公益的取組み ・グループ討議	18名	内山牧師、吉田常務、松井社労士、総務課長（予算管理）、有川本部長、西山副本部長、村山施設長

1月22日、2月5日 コープこうべ 協同学苑	「権利擁護の再確認」として、「利用者支援の専門性」「援助関係の形成」「コミュニケーション」	50名	津田評議員
2月27日 コープこうべ協同学苑	総合職員研修 (全施設による取り組みの発表)	約130名	内山牧師

### 3、虐待防止チェックリストの取り組み

別紙

2016年5月21日

報告事項

2015年度人事・総務・財務担当者会事業報告

人事・総務・財務担当者会  
委員長 久木田 憲彦

担当者：但馬地区 久木田（委員長）、西山、太田  
神戸地区 村山（副委員長）、有川、谷上、吉田、吉本、谷

新人事制度の円滑な運用を目的として、今年度も継続して株式会社経営開発センターの支援を得ながら、地区、施設ごとに運用委員会を開催し、目標管理制度と共通要素評価に加え、専門要素評価にも着手しました。

また、50名以上の事業所に義務付けられるストレスチェック制度について、法人全体で取り組むこととなり「メンタルヘルス対策WG」を組織し、次年度からの実施に向けた計画・体制等の検討を行いました。

加えて、マイナンバー制度の開始に伴う個人情報管理規程の見直しや、給与規程の改訂等についての検討を行いました。

記

・全体会議（合計6回開催）

2015年5月13日、7月2日、8月3日、9月11日、2016年1月6日、2月23日

・メンタルヘルスワーキング（合計7回開催）

2015年7月23日、8月27日、9月24日、11月2日、11月30日  
2016年1月26日、3月11日

・人事制度運用委員会

第1回運用委員会（5月：前年度総括と門年度計画 地区別実施）

第2回運用委員会（6月：施設事業計画に基づく個人目標設定 施設別訪問実施）

第3回運用委員会（9月：今年度人事考課の進め方とスケジュール 地区別実施）

第4回運用委員会（11月：施設別評価審議会の実施 施設別訪問実施）

地区別評価審議会（12月：地区ごとに人事考課結果の確認 地区別実施）

第5回運用委員会（12月：人事考課結果総括とフィードバック面接 地区別実施）

第6回運用委員会（3月：今年度総括と次年度へ向けた課題確認 地区別実施）

以上

## 2015 年度但馬地区事業報告

2016 年 5 月 21 日

但馬地区本部長

種谷啓太

神戸聖隷福祉事業団但馬地区は会議・委員会組織図にある 8 つの会議・委員会活動を通して運営しました。

① 施設連絡会（施設長・副施設長 8 名、課長 5 名で 13 回開催）

法人・但馬地区の情報共有・交換や諸問題への取組み方針の確認・協議を行いました。

② 第 2 期中期計画関連報告

i 第 2 平生園（仮称）準備プロジェクトチーム（20 回開催）

土地取得をおこない、設計建物、施設運営など検討を重ねました。

ii サービス展開部会（8 回開催 \*内 1 回は見学）

2017 年度からのデイサービスセンターさくらの苑跡地利用と朝来市、養父市での共同生活援助グループホームの設置について企画検討しました。また第 2 平生園（仮称）での総合相談窓口設置について協議しました。

iii 地域交流部会（10 回開催）

天空の城音楽祭に参加（けんちん汁で出店）、竹田地区住民対象のグランドゴルフ大会を企画開催（121 名参加）、法人創立 40 年記念イベントとしてあったかプラザにて夕涼み会実施、市内 5 小中学校対象の福祉体験学習を実施、和田山高等学校にてボランティア実践点字教室 6 回実施。

③ 防災委員会（3 回開催）

さくら川（さくらの苑前）の清掃、但馬地区一斉緊急連絡網訓練、普通救命講習会実施。

④ 医務連絡会（年 4 回開催）

夜間電話連絡対応確認、薬品在庫管理について、医療廃棄物処理法マニュアル確認等を実施。

⑤ 研修委員会（内部研修担当者会）（12 回開催）

但馬地区職員対象で「会議の進め方」研修（参加 25 名）実施。外部向け研修として「くらす」をテーマに特別支援学校進路指導教員、障害者就労・地域生活支援センター職員、発達障害者支援センター職員を講師に実施。

⑥ 事務連絡会（7 回開催）

事例検討、マイナンバー取扱い事務研修等の情報共有を実施。

## 2015年度神戸地区事業報告

2016年5月21日

神戸地区本部長

有川 洋司

### 実施内容

1. 神戸地区施設長連絡会は中期計画の進捗状況、各施設運営状況の報告等を中心に10回開催しました。

### 2. 第2期中期計画の実践推進

#### ① グループホーム担当部会（6回開催）

課長、主任で編成したワーキングチームで、昨年度実施したニーズ調査をまとめ、それをもとに中・長期的な展望に立ったグループホームの開設に向けた取り組みについて検討しました。サービス管理責任者で編成したチームでは、現行の各グループホームの現状についての情報共有とバックアップセンター構築にむけて移動支援事業と居宅介護事業の開設について検討しました。担当部会では、建て貸し方式によるグループホーム開設にむけてこの方式について実績のある積水ハウス（株）を仲介役とし神戸市垂水区福田町の土地所有者と具体的なプランについて検討を行い、神戸市の指定担当係と認可のための留意事項等について確認を行いました。また、神戸聖生園がバックアップ施設として地域住民の方の理解を粘り強く求め2月に「グループホームたいのはた東」を開設しました。

#### ② 事業再編担当部会（3回開催）

ワーキングチームにおいて①共同受注体制の検討②せいれいやさかだい、神戸聖生園、神戸友生園の利用者ニーズの調査について重点的に取り組みました。①については神戸友生園を窓口として複数の施設で受けることで受注先、受注量の拡大に繋がりました。②については利用者ニーズの調査を実施し、その結果から利用者ニーズに沿った事業再編の方向性について具体的に絞り込む検討を行いました。

#### ③ 相談支援事業担当部会（11回開催）

神戸聖生園、神戸光生園よりひょうご、すま各支援センターに兼務職員を配置し、それぞれの施設利用者のサービス等利用計画案を作成し、計画相談の推進に努めました。また「特定相談」「一般相談」を核とした「総合相談窓口」の開設準備を進め、「神戸聖隷総合相談センター」として2016年4月より開設することになりました。

#### ④ 複合施設準備部会（3回開催）

「重度者を対象としたグループホーム」「相談支援事業」「障害のある方と地域の高齢者の協働の場」「地域の方の交流スペース」等を取り入れた複合施設を友が丘敷地内に建設することについて検討し、神戸市担当課長らと意見交換を行いました。神戸市側の要望や市長から「ランドデザイン」を求められたことなどを踏まえ、再度内容について検討を行いましたが、2015年度内に纏めるには至りませんでした。

⑤ 中部在宅障害者福祉センター3階での重症心身障害者を対象とした単独型短期入所の開設にむけて神戸市と調整を進め、神戸市の指定管理事業として「アクシスひょうご」を2016年4月より開設することになりました。

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 平生園  
 文責 施設長 掃部 久美代

総括.

- (1) [新]さくらの苑設立のための土地買収が終了し、設計図書についてもほぼ完成しました。  
 また、地域への説明も行い協力を要請しました。
- (2) 施設内各種委員会の活発な活動により、各委員会主催の施設内研修会を複数回開催して職員の知識と意識の啓発に努めました。
- (3) 人生の終末期を支援する施設として、ターミナルケアについてご家族に説明すると共に、ご本人やご家族の意向を反映して看取りを実施しました。
- (4) 居宅介護支援事業所においては、高齢者相談センターの充実を目指し、昨年度以上の実績を上げるにより朝来市より報酬増との高評価を受けました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・地域密着型特養（サテライト型）新設への対応	①新設及び移設事業所の事業申請と変更申請は次年度となるため、それぞれの申請時期について確認。 ②新規事業規模を決定すると共に、竹田区長会と地域住民への説明実施。 朝来市から兵庫県への2016年度地域介護拠点整備補助金申請を確認すると共に、朝来市と密に連絡を取り施設新設と移設の情報を共有。 黒田建築設計事務所と頻回に打ち合わせを実施して建物の概要を決定。
	・施設改修	①隔月にアサヒファシリティズ(株)による建物設備調査を実施。
	・オンリーワンのサービスの提供	①アセスメントに基づいて作成したケアプランに沿った支援の提供とモニタリングの実施。 ②誕生日の個別の希望メニューや、個人に適した食事形態の検討の実施。個々のニーズに沿った外出の実施
	・地域との交流の促進	①法人但馬地区施設で連携を取り、市内小中高校に出向しての福祉体験学習を実施。 ②地域との交流を目的として、各種イベントに積極的に参加。 法人但馬地区施設合同の地域交流部会として、高齢者を対象としたグラウンドゴルフ大会や小学生を対象とした夕涼み会を主催。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平生園独自のターミナルケアの構築・定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担当介護員による利用者・家人ニーズの聞き取り 45名と囑託医による家人面談を41名実施。</li> <li>②看取り後のミニカンファレンスを13件実施。うち1件は家族も参加。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会活動を活用したサービスの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医療研修委員と看護師を中心に、学習会（4月-医療の基礎知識、9月-外部講師による認知症の基礎知識、1月-外部講師による口腔ケアの基礎知識）を3回実施。</li> <li>②利用者担当介護員にて45名のターミナル時のニーズの聞き取りを実施。ニーズ（食事、外出/外泊、環境整備）に沿った支援の提供。</li> <li>③専門書籍からの知識により、おむつゼロ移行に向けた準備の実施。定期的に排泄表を見直し利用者個々の排泄リズムや尿量を把握し、おむつに頼る排泄介助からトイレ誘導主体の排泄介助へ徐々に移行。職員2名を「オムツはずしことはじめセミナー研修会」に派遣。</li> <li>④事故防止については毎月会議を開催し、早急な対策が必要な事例については検討結果を周知徹底。</li> <li>⑤毎月委員会にて身体拘束状況の確認、拘束解除に向けた取り組みについて報告、検討。外部研修会への参加（8月、9月）。虐待防止ポスターや虐待チェックリストにより虐待防止について周知と予防を徹底。</li> <li>⑥感染症委員と看護師を中心に、学習会（6月-感染症予防、11月-ノロウイルス、インフルエンザ）を実施。「感染症予防研修会」に職員を派遣。</li> <li>⑦毎月の全国の駅弁シリーズ、季節ごとの行事食、楽しみのあるおやつバイキングを実施。</li> <li>⑧こども園や市内ボランティアグループ、家族による余暇活動を実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護のための支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①成年後見制度活用推進委員会に職員を派遣。但馬地区と神戸地区にて開催の成年後見制度基礎研修と神戸地区で開催の成年後見制度実務研修に多数の職員を派遣。</li> </ul>
経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増収への対応とコスト削減光熱費削減への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相見積によりおむつ業者を変更し、単価の見直しを実施。</li> <li>②今年度4名の介護度変更申請実施。（報酬増）</li> <li>③職員への経費削減意識を高め電気代昨年度比約7%削減。</li> <li>④次年度に3種の新規加算取得ための実績達成。</li> </ul>

人材育成	・キリスト教理念に則った介護の具現化	① 朝礼時の讃美歌賛美、聖書・日毎の糧朗読及び職員会議での法人理念を唱和。 ②キリスト教福祉講座2名派遣。 キリスト教事業同盟高齢者施設研修会2名派遣。
	・リーダーの育成	①新人職員の業務遂行上の指導・相談役を中堅職員（エルダー）が担うことで早期習得に繋げると共に中堅職員自身もリーダーとして成長。 ②各委員会のリーダーに中堅職員を充てる事で、責任を持って委員会活動を遂行できる能力を習得。業務では主任のもとリーダー的立場での確な支援・指示ができる能力を習得。
	・職員の専門性の向上	①外部研修（ケアマネ関係、県社会福祉研究所、長寿の郷、その他団体）但馬地区内部研修等へ専門知識や技術の習得を目的に積極的に参加。 ②外部研修会参加者による伝達研修会を実施。 ③但馬長寿の郷PTの派遣でポジショニングや個別対応、認知症についての指導・講義を受け、共通認識とするため報告書で全職員に周知。

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 介護老人福祉施設

課題	実施内容
・オンリーワンサービスの提供と充実	①入所時、ターミナルケア時のアセスメントを実施。ケアプラン更新やモニタリング実施による本人及び家族の満足度や意向を把握した個別支援を提供。 ② 自己決定機会の提供および、自己選択できるよう開かれた質問の意識付けを実施 ③意向に沿った個別外出、外泊支援を実施（自宅、墓参り、買い物、食事、地域散策等） ④誕生日の食事に希望メニューを提供。フロア全員でお祝いし写真を掲示。 ⑤各担当にてニーズの聞き取りを実施した上での個別余暇活動を実施。 ⑥定期的に排泄表を見直し利用者個々の排泄リズムや尿量を把握し、おむつに頼る排泄介助から、トイレ誘導主体の排泄介助へ徐々に移行。 ⑦意向確認のための聞き取りを実施し、可能な限り意向に沿ったターミナルケアの提供と、振り返りのために13件のカンファレンスを実施。うち1件は家族も参加。
・レクリエーションの充実	①事故予防目的の入浴介助人員増と下半期職員減により、余暇活動機会が減少。

・季節感あふれる空間の演出および行事の計画・実施	①季節毎に利用者と共同による壁面装飾を作成。 ②花見会、夏祭り、祝いろいろ会、運動会、クリスマス会、お正月、節分等の季節を感じる行事を提供。 ③各行事やオンリーワン支援実施後に、行事委員と利用者担当職員にて行事写真を掲示。 ④旬の食材を使用した季節感あふれる食事を提供。
--------------------------	--

ii) 短期入所生活介護

課題	実施内容
・オンリーワンサービスの提供と充実	①業務分担にて送迎やサービス担当者会議、アセスメントに介護員が参加して家族と情報を共有。 ②誕生日希望メニューを提供(22名)及び記念写真を家族へ配布。 ③個別の生活パターンを把握し可能な限り在宅と同じリズムで過ごせる支援を実施。 ④9時から18時の間で希望を伺い柔軟に送迎時間を調整。 ⑤利用2日前に利用期間や体調、身体機能等の変化を電話により確認。家族及び本人の意向や状態に合わせた受け入れ準備と周知を徹底。 ⑥可能な限り本人や家族のニーズに沿った介護員による生活リハビリを実施。
・短期入所独自のプログラムの構築	①日課の見直しを図り利用者に寄り添う時間を確保。 ②折り紙、体操、ちぎり絵、塗り絵等の個別及び集団でのレクリエーションを充実。

iii) 居宅介護支援事業

課題	実施内容
・介護支援専門員の資質向上	①介護保険制度法令遵守。 ②スーパーバイザー養成講座参加。 ③介護支援専門員研修計画（朝来の医療と介護を考える会・ケアマネジメント支援会議等）に沿って研修参加。 ④医療連携マニュアルに沿っての連携実施。
・朝来市高齢者相談センターの充実	①元気作り教室への参加（15回/年） ②訪問 421 件/年 総合相談 1,133 件/年実施。
・マニュアルの見直し	①マニュアルの見直しと不足分を作成。
・認知症サポーター養成講座開催	①10/22「わらしべ」で認知症サポーター養成講座開催。 2/17 和田山高校での認知症サポーター養成講座へキャラバンメイトとして参加。

2. 研修

法人全体で取り組んでいる虐待防止や成年後見制度に関連した法人内外の研修会に職員を派遣することで、知識と意識を高める事ができました。また、それぞれの委員会と部署から各分野専門的な研修会に職員を派遣し、学んだ知識や技術を伝達研修することで、個人のスキルアップを図ると共に共通認識を持つことで統一した支援に繋がりました。

内部研修 (法人内)		外部研修 (法人外)	
内容	実施月	内容	実施月
新採用職員研修	4月	但馬ブロック施設長研修	4月
医療研修学習会	年3回	認定調査講習会	5・10月
新採用職員研修	5月	老人福祉施設新任職員研修	6月
対人援助に関する勉強会	年8回	難病と障害福祉制度を理解するための研修会	6月
認知症キャラバンメイト	5月	たんの吸引1号研修	6・8・10・1月
接遇向上学習会	7月	高齢者虐待防止研修会	7・12月
副主任・主任研修	7・8月	高齢者ケアマネジメントに係る研修	8月
感染症学習会	6・11月	たんの吸引2号研修	8・9月
会議の進め方	9月	高齢者虐待対応力向上研修	9月
神戸聖隷但馬地区研修会	9月	日本キリスト教社会事業同盟研修会	10月
経営計画策定「トータルコース」	年4回	介護福祉士実習指導者講習会	10・11月
2015年度新規採用職員フォローアップ研修	10月	朝来市気づきの事例検討会オープン研修会	10月
キリスト教福祉講座	年3回	介護支援専門員更新研修A後期	10・11月
法人課長研修	11月	感染の予防の基礎を学ぶ	11月
ターミナル学習会	12月	福祉介護職員のターミナルケア研修	11月
上級一般職員研修	1・2月	苦情解決セミナー	11月
成年後見制度実務研修	2月	拘束なき介護に向けての研修会	11月
法人総合職員研修	2月	但馬ブロック直接処遇職員研修	11月
虐待/拘束/事故防止委員会学習会	3月	介護支援専門員実務従事者基礎研修	12月
成年後見制度基礎研修会	3月	主任ケアマネ研修	1・2月
		オムツはずしことはじめセミナー	1月
		朝来市高齢者施設合同連絡会職員研修	3月
		但馬ブロック看護職員研修会	3月

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
5 件	介護老人福祉施設（内部での伝達機能について）	5 件	0 件
	〃（居室の配置について）		
	短期入所生活介護（部屋割りについて）		
	居宅介護支援事業所（個人情報の漏洩について）		
	〃（住宅改修の遅延について）		

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
91 件	11 件	447 件

※事故報告の病院受診の多くが転倒によるものであり、年度後半の事故の多くは、感染症による隔離対応中の見守り不足によるものでした。利用者の身体的機能の低下と認知症進行での利用者の行動を、職員が予測できなかった事が要因の一つと考えられます。

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
水害予防対策	さくら川清掃	5 月
避難訓練	日中火災想定避難訓練	10 月
緊急連絡網伝達訓練	緊急連絡網を使用した伝達訓練	1 月
避難・通報訓練	夜間火災想定避難訓練	3 月
避難応援訓練	福祉村合同避難訓練	3 月
避難・消火訓練	南但消防本部にて（火災）総合避難訓練	3 月

### 4. 地域交流

法人但馬地区施設の地域交流部会を中心に地域交流に努めました。5 月に竹田地区老人会を対象とした法人主催の「グラウンドゴルフ」、8 月に地域の小学生を対象とした「夕涼み会」を企画開催しました。また、「城祭り音楽祭」での出店、年間を通して市内 1 高校 3 中学と 3 小学校を対象とした福祉体験学習を実施しました。これは、事前に学校と協議して要望通りのプログラムにて学校を訪問しての学習会となりました。

#### (1) ボランティア

ア) 個人：利用者の似顔絵描き 13 回 延べ 13 人

イ) 団体：

団体名	回数	延べ人数	団体名	回数	延べ人数
芙蓉の会	9 回	36 人	竹田区民生児童委員	1 回	31 人
さざなみ会	9 回	53 人	おとめの会	4 回	12 人
あさご要約筆記サークル	2 回	17 人	踊りと歌のボランティア	1 回	4 人
竹田子ども園交流会	1 回	—	竹田地域自治協ふれあい	1 回	23 人

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 さくらの苑  
 文責 施設長 掃部 久美代

総括.

- (1) 黒田建築設計事務所と頻回に打ち合わせを行い、設計図書や備品について検討して 2017年度の地域密着型通所介護事業所移転に向けた情報収集に努めました。
- (2) 市内居宅介護支援事業所に苑での行事やプログラム、取組み等を伝え、新規利用者の確保に努めました。
- (3) 利用者個々のニーズ（医療的・介護方法・その他要望）に応えるため、職員会議内でケアについても話し合いを行いニーズに対応しました。
- (4) 今年度の目標利用率 88.0%でしたが、実績としては利用率 73.1% (昨年度比-6.5%) となり厳しい経営状況となりました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・新築移転	①新規事業規模を決定すると共に、竹田区長会と地域住民への説明実施。 黒田建築設計事務所と頻回に打ち合わせを実施して建物の概要を決定。 ②朝来市のデイサービス部会に参加し、地域密着型通所介護事業の情報を収集。
	・利用者のニーズに応える	①利用者満足度アンケートは未実施。 ②職員からの提案や利用者との普段の会話の中で、ニーズを収集して日中活動を提供。 ③入浴個別対応の継続、ゆとりを持った入浴の実施。 ④長時間利用（7～9時間）を推進し、実績としては長時間利用率 95.6%。 ⑤要支援利用者の利用回数増希望を受け、自費利用を実施。また、入浴のみの受入れ希望等、柔軟な利用受け入れを実施。
	・地域交流	①見学希望の家族を随時受入れ。 ②地域交流、福祉教育として、地域中学生の「トライやるウィーク（福祉体験）」の受入れを実施。終了後、ボランティアとしての受入れも実施。 法人但馬地区施設合同の地域交流部会として、高齢者を対象としたグラウンドゴルフ大会や小学生を対象とした夕涼み会を主催。

サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別対応を含めたサービス</li> </ul>	<p>①担当者ケア会議に出席して計画書の見直しを行い、担当者会議録と職員間連絡帳での援助情報の共有を図ることで、利用者の個別援助の周知と統一した援助を実施。</p> <p>②外出行事：桜の花見、藤公園の花見、紅葉ドライブを実施。 季節行事：七夕、縁日、敬老（写真のプレゼント）、運動会、クリスマス礼拝・祝会を実施。 ボランティア開拓については、外部からだけでなく、利用者による踊りの希望も受け入れ。</p> <p>③長寿の郷のPT・OTの派遣事業により運動プログラムを作成して、それに沿った運動を定期的を実施。また、認知症利用者対応についても指導を受け支援に活用。</p> <p>④ゆっくり入浴をしていただくために、午前午後に分け、時間にゆとりを持った入浴支援を実施。</p> <p>⑤夕食の提供は、ニーズ把握が実施できず未検討。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体調管理</li> </ul>	<p>①新しい書式の連絡帳に全員変更して、体調や要望等家族との情報共有を実施。</p> <p>②利用者の体調変化に関しては、家人への連絡を基盤に関係事業所（訪問看護、居宅介護支援事業所等）と連絡を取り対応。</p> <p>③運動器機能向上訓練を実施。 朝来市転倒予防事業を受け、機能評価や訓練プログラム作成・評価について派遣されたPT・OTより指導。また、利用者の訪問リハビリや、PTによる運動器機能向上プログラムをデイサービス利用中に実施するなど柔軟に対応。</p> <p>④感染症拡大防止のため、ノロウイルスの対応用具や使用方法を職員会議で確認。インフルエンザ流行時のマスク着用や送迎時の体調確認。お知らせ文書での啓発を実施。 事業所内の感染症マニュアル見直しを実施。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 権利擁護のための支援</li> </ul>	<p>①成年後見制度活用推進委員会に職員を派遣。 但馬地区と神戸地区にて開催の成年後見制度基礎研修と神戸地区で開催の成年後見制度実務研修に職員を派遣。</p> <p>②虐待防止の知識習得と啓発のため、職員会議での周知を行い、年2回虐待チェックリストによる確認を実施。</p>

経営	・報酬改定に伴う介護給付費減収への対応	①長時間利用（7～9時間）実施に取り組み、95.6%の方が利用。 ②新規利用者増加を目指し、居宅介護支援事業所への報告や情報提供を行い、今年度の新規利用登録は16名。（前年度18名） ③利用率増を目的に、曜日によっては定員を越えた利用者を登録。 ④追加・代替え利用の受け入れを柔軟に対応。
	・設備面の老朽化	①老朽化によりエアコンの故障やボイラーの不具合が多数発生するも早急に対応。
人材育成	・キリスト教理念の具現化	①職員会議で法人理念を唱和。 ②キリスト教福祉講座1名派遣。
	・専門性の向上	①外部研修、法人主催の内部研修を受講。 ②リスクマネジメントの視点から、職員会議で個々の利用者の送迎や移乗、サービス内容留意点を検討し共有。 ③法人内外主催の認知症の研修会に参加し、専門的知識を習得。 ④地域密着型通所介護事業所移転に向け、他法人の施設見学を実施。 ⑤成年後見制度、利用者支援等の研修会に職員派遣。また、介護福祉士資格取得のための研修会参加に助成金支給。 ⑥介護福祉士の資格取得者1名。

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 通所介護・介護予防通所事業

課題	実施内容
・利用率の向上	①長時間利用（7～9時間）に向けて勤務形態を2分化。 ②掃除の時間やミーティングの時間を変更し、利用者の見守りや支援ができる体制を確保。 ③継続利用に繋げるための1日体験利用を実施し、新規利用者を獲得。 ④居宅介護支援事業所へ苑の情報を提供して連携強化を促進。 ⑤居宅介護支援事業所と連絡をとり、空き状況をお知らせして新規利用者の確保に努力。 ⑥ベッド使用者や特浴使用者の人数を踏まえた利用曜日の調整を実施。 ⑦苑をPRするためのチラシを作成して、居宅介護支援事業所に毎月配布。

<p>・サービスの質の向上</p>	<p>①安全で安心な入浴提供を目的に、午前と午後に分けた上で利用者の個別状況に応じた入浴を実施。</p> <p>②利用者個々のニーズに合わせた一日のスケジュールを立て、レクリエーションや運動を実施。</p> <p>③通所介護計画書のサービス内容をケア会議などで確認して、サービス提供を実施。</p> <p>④担当者会議録と職員間連絡帳で援助方法統一のための情報を共有。</p> <p>⑤業務分担を明確にし、円滑に業務が遂行できる体制を構築。</p> <p>⑥委員会を中心に活動することで、利用者が1日を安全安心に利用し有意義に過ごせるように支援。</p>
-------------------	---

## 2. 研修

認知症の研修会や利用者支援に関する研修会に参加し知識を習得することで、利用者支援に反映できるように努めました。

内部研修 (法人内)		外部研修 (法人外)	
内容	実施月	内容	実施月
主任・副主任研修	7月	若年性認知症研修	7月
会議の進め方	9月	デイサービス研修	12月
キリスト教福祉講座	10・11・12月	個別援助計画作成研修	12・1月
口腔ケア研修	1月	病院・福祉施設防火研修	3月
総合職員研修	2月	朝来市施設職員研修	3月
成年後見制度基礎研修会	3月		

## 3. リスクマネジメント

### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
1件	①個人情報の漏洩	1件	0件

### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
13件	0件	45件

※今年度は病院受診の事故報告はありませんでした。

### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
水害予防対策	さくら川清掃	5月
避難訓練	火災、地震時の職員対応と利用者避難誘導の訓練	3月
緊急連絡網の確認	緊急連絡網を使用した伝達訓練	3月
避難応援訓練	福祉村合同避難訓練	3月
避難・消火訓練	南但消防本部にて(火災)総合避難訓練	3月

#### 4. 地域交流

##### (1) ボランティア

ア) 個人：利用者の似顔絵描き 14回 延べ14人

イ) 団体：

団体名	回数	延べ人数	団体名	回数	延べ人数
おとめの会	11	54	たんぽぽ	5	24
ふたりとその仲間たち	9	50	フラダンス	1	7
智の会	2	9			

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 高齢者グループホームわらしべ  
 文責 施設長 太田 敦子

総括.

- (1) 中期計画に掲げた浴室改修が実現し、温かく快適な入浴環境を整えました。
- (2) 地域医療機関の協力を得て初めての看取りを実施し、個別支援としてご利用者、ご家族の思いの実現に取り組みました。
- (3) 年間計画を立て地域交流を積極的に実施。また施設内にて認知症サポーター養成講座の開催や学校からの就業体験等受け入れを行い、交流や地域貢献に繋げました。
- (4) 下半期に事故が多く発生。年齢による身体の衰えや突発的な行動等個々の状態安定が難しく、対応策に非常に苦慮しました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	(地区) ・使いやすい浴槽への改修	① 工夫された温かく快適な浴室に改修完了
	・その人らしい暮らしの提供	① 個々の暮らし方の要望等を確認し、起床や朝食時間等状況に応じた対応を実施。また広告等掲示し個別支援に繋げた
	・地域交流と貢献	① 地域の方々からの相談への対応や地域住民を交えた認知症サポーター養成講座開催(11月/26名) ② 空床情報を居宅事業所等へ積極的に提供 ③ 高校の就業体験や認知症実践者研修の実習受け入れ、神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会への参加
サービス	・個別支援の充実	①・②ご利用者・ご家族の要望に応じた支援を実施。(買物・毛染め・喫茶外出・コンサート・受診等) ③ 毎月の計画見直し、状態変化に応じた「ちょっと会議」にて情報の共有と統一したサービスの提供実施 ④ 毎月近況報告発送。突発的な受診等についても迅速な報告の徹底
	・安心安全な生活の提供	① 真生園診療所医師、恵生園看護師の健康管理の実施と地域医療機関(8月～)や訪問看護ステーション(9月)との連携等初めての取り組み実施

	・安心安全な生活の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 平生園管理栄養士による勉強会(7月)や栄養アセスメントに基づく栄養指導(3月)実施</li> <li>③ 健康体操等により機能維持を試みるも下半期工事等による騒音や日課変更等より継続できず</li> <li>④ 感染症研修参加(10月)と予防接種、消毒の徹底。</li> <li>⑤ 自主避難訓練(9回)・AED訓練実施。普通救命研修等へも参加し緊急時に備えた</li> <li>⑥ 事故再発防止の原因究明と早期対策検討実施</li> </ul>
	・地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 朝来市・養父市合同グループホーム風船バレーボール大会への全員参加と外出等を実施し、地域交流や日中支援に繋げた</li> <li>②・③ 来訪依頼を積極的に実施し年間計画に基づいた行事参加や定期的な交流を実施</li> </ul>
	・権利擁護のための支援と虐待防止への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者虐待・身体拘束研修参加</li> <li>②・④ 虐待防止チェックリスト(2回)の実施とゼロに向けた毎月の振り返りを実施</li> <li>③ 職員から募った虐待防止標語を毎日朝礼時に読み意識づけを実施</li> </ul>
経営	・利用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 短期利用実施(6名延べ66日利用)</li> <li>② 毎食後の口腔ケアを徹底。運動等習慣化できず。</li> <li>③ 要介護度変更2名実施</li> <li>④ 待機者選考早期実施するも家族都合等による空床発生</li> </ul>
	・経費削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 光熱水費グラフ化により意識付けを実施。昨年度より減少。LED改修工事完了(3月末)</li> <li>② 個別支援による送迎費用の有料化を実施</li> </ul>
人材育成	・法人理念の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員会議には法人理念、基本方針を唱和</li> <li>② キリスト教福祉講座参加</li> </ul>
	・専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 認知症研修2名参加し実践に生かす。認知症実践者研修1名受講修了</li> <li>② 朝来市内グループホームへの体験実習4名行い資質向上・自施設の振り返り等実施</li> <li>③ 接遇マナーに関する話し合い実施</li> <li>④ 資格取得(介護支援専門員)のための研修等参加奨励</li> </ul>

(2) 各事業の課題・対策

i) 認知症対応型共同生活介護

課 題	実施内容
利用者主体の支援	① 調理、掃除等できる事への継続支援の実施 ② 催し物の案内や掲示をする事により自己決定できる機会の提供と家族との連携実施
日中活動の充実	① ドライブ・買物・食事等個々のニーズに沿った外出等実施(36回延べ133人参加) 工夫をこらした毎日の季節行事の実施 ② ご利用者の声を活かしユニット毎に得意な事、やってみたい事を実施(調理、外出、遊び等)

2. 研修

認知症に関する専門研修や権利擁護、感染症等職員全員が色々な研修に偏りなく参加。また、実技を伴う施設内研修には利用者も交えた研修を実施。しかし特に外部研修による伝達研修が不十分であり課題となりました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
主任・副主任研修	5月	ADL研修	5月
会議の進め方研修	5月	甲種防火管理者新規講習	5月
但馬地区研修会	9月	認知症研修	9月
キリスト教福祉講座	10・11月	グループホーム体験介護実習 (木の香・竹原野・たんなん・遊友館)	7・8・10 12月
経営計画策定支援	10～2月	レクレーション研修	7月
上級一般職員研修	1月	ターミナル研修	9月
総合職員研修	2月	キリスト教高齢者福祉研修会	10月
病院・福祉施設等防火研修会	3月	高齢者虐待防止研修	10月
成年後見人制度研修	3月	認知症サポーター研修	10月
		認知症介護実践研修	10～3月
		苦情解決セミナー	11月
		感染症研修	11月
		要介護者に対する口腔ケア等 指導研修	1月
		普通救命講習会	2月
		高齢者介護の理念(認知症状 態の人への関わり方)研修	2月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
62件	8件	27件

※事故内容：転倒 26 件・滑落 6 件・尻餅 5 件・打撲 1 件・誤薬 5 件・その他薬関係 15 件  
備品破損 1 件・名前書き間違い 1 件・無断外出 1 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難訓練等	夜間想定避難訓練、職員による火災報知機の操作手順及び利用者誘導訓練	5～11月 1・3月
水害予防	わらしべ建物周辺溝掃除・さくら川清掃	6月
但馬地区合同緊急連絡網訓練	大規模地震発生。職員の安否確認を行うため緊急連絡網に従って連絡(各施設にて)	1月
福祉村合同防災避難訓練	夜間の火災想定訓練館 (立雲の郷 グループホームたけだ遊友館)	3月
福祉施設等防火訓練	講義・消火訓練(南但消防本部)	3月

4. 地域交流

朝来市・養父市のグループ連絡会合同バレーボール大会が毎年実施され、これをきっかけにご利用者への面会や地域のスナック交流など新しい輪の広がりがみられています。また、ボランティアでは年に何度か訪問される方との繋がりや、他のグループの方への紹介などで施設内での交流も増えました。外出等による交流は個別支援も含め積極的に取り組みました。

(1) ボランティア

ア) 個人：6名 延べ 25回(習字・折り紙・包丁研ぎ・茶道)

イ) 団体：64名(琴と尺八の会・山賀流新舞踊会・松の会・おとめの会・たんぽぽの会・カパーフラオカイリマレイアーピキ・どんぐりの会・あおぞら・竹田地域自治協ふれあい部会)

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵生園

文責 施設長 西山 充

総括.

- (1) 支援区分の高いご利用者を積極的に受け入れると共に、ティータイム・くつろぎの場として第一作業室の有効活用、ゆったりとした入浴時間確保のため、希望者に午前浴を提供する等、サービスの内容とプログラムを見直しました。
- (2) ご利用者全員を対象に歯科医、歯科衛生士による出張歯科検診を実施し、必要な方には継続した口腔ケアを提供しました。
- (3) ご利用者・ご家族・職員合同の成年後見制度研修会を開催し、成年後見・任意後見に関する理解・知識を深めると共に、実際の利用に向けた啓発・支援を行いました。
- (4) ご利用者個別使用の家電製品について、真生園と共同でワット数、使用時間調査を行い、データに基づく家電製品ごとの料金を設定し、有料化に踏み切りました。
- (5) 2015年度改修工事として、空調機器更新、電気式給湯器への更新、給湯配管更新、キュービクル増設、汚水管改修、トイレ全面改修、ナースコール更新（PHS タイプ）工事を実施し、長年の懸案事項であった居住環境が大幅に改善されました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	(施設) ・老朽化した施設の改修	①建築基準法不備指摘箇所(厨房裏増築部、食品庫)撤去工事は、次年度以降に見送り ②空調機器更新、トイレ改修、電気式給湯器への更新等の改修工事を実施(2015年11月～2016年5月)
	(施設) ・地域との交流促進	①福祉体験学習を市内小中高等学校で実施(6校/延12回) ②クリーン但馬大作戦参加(6月/5名)、竹田自治協議会主催グランドゴルフ大会参加(9月/2名) ③天空の城音楽祭参加(4月)、神戸聖隷杯グランドゴルフ大会参加(5月)、神戸聖隷創業40年記念イベント開催(8月)
サービス	・機能改革 (②は地区中期計画)	①入所希望面談用アセスメントシート作成(4月)、知的障害者勉強会実施(7・10月)、面談後に委員会にて受入検討会を実施(随時) ②個室の使用マニュアルを作成し周知(5月)、第一作業室を午後のティータイム・くつろぎの場として有効活用(6月より)、ゆったりとした入浴時間確保のため、希望者に午前入浴を提供(9月より)

	・安全管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規作成マニュアルから目的を明確化し記載</li> <li>②火災・水害・地震対応マニュアルを作成し、マニュアルに沿って訓練実施</li> <li>③事故・ヒヤリ報告の分類と担当者を通じての個別助言実施、PTによる助言機会を設定</li> </ul>
	・権利擁護に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規任意後見制度利用2名、任意代理契約利用2名 新規後見制度保佐審判1名、後見審判1名、利用者・家族・職員合同の成年後見制度研修会実施（9月）成年後見制度基礎研修参加（3月/4名）、実務研修参加（2月/2名）</li> <li>②虐待防止チェックリスト調査実施（8月・11月）、虐待防止標語を職員朝礼時に唱和</li> <li>③個人情報管理に関する勉強会実施（7月・2月）、総務課、支援課の書庫分類整理実施</li> </ul>
	・家族との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家族へ個別支援計画を送付（32名）、家族を含めた担当者会議を実施（9名）</li> <li>②家族会との合同行事実施（清掃奉仕（7月）、研修会・バーベキュー（9月）、茶話会（11月））</li> </ul>
	・市内精神障害者の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①精神デイケア実施（月2回/延63名）、関係者ミーティング開催し情報共有（9月・3月）</li> </ul>
経営	・増収への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>①受給者証更新時に障害支援区分見直しへの働きかけを実施（5名）</li> <li>②利用者個々に応じたカレンダーにより生活介護サービスを提供</li> </ul>
	・機会損失の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職制会にて対目標値月次実績報告と経営課題を検討、職員会議にて四半期報告実施</li> <li>②給付費請求相互チェック・牽制体制を強化</li> </ul>
	・経費削減・オプション一部見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全体集会にて定期的に利用者・職員へ光熱水費の経費削減に向けた意識啓発を実施</li> <li>②個別使用の家電製品有料化を開始（10月より）</li> </ul>
人材育成	・法人理念の理解と浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>①朝礼時に讃美歌、聖書、日ごとの糧を唱和</li> <li>②法人基本理念と恵生園基本方針を唱和</li> <li>③キリスト教福祉講座参加（10.11.12月/1名）</li> </ul>
	・職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業計画を具体的に推進するため、各委員会に全職員が参加し月次計画に基づき実践</li> <li>②職員個々の経験年数に応じた研修参加予定表を作成し研修に参加</li> <li>③知的障害等研修内容の伝達研修を実施（2回）、高次脳機能障害に関する基礎知識習得（8月）</li> <li>④但馬地区職員を対象にした点字勉強会を開催（4回/延38名）</li> </ul>

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
・ 個別支援の充実	①家族会総会欠席家族へ同意書送付 (32名)、返信 (27名)、 7月～中間モニタリング、1月～終了モニタリングの取掛り実施 ②他事業所の体験利用 (2名) 相談支援事業所と連携し、家族面談を実施 (2名) 個別の課題に基づき関係者会議開催 (7名)
・ 日中活動の充実	① 壁面作り (5・7・8・9・11・2月)、土曜レクリエーション試 行 ②クリスマス祝会に演奏ボランティア来園、ボランティア3グル ープの定期的活動継続 ③利用者との合同委員会開催 (6・3月)

ii) 施設入所支援事業

課題	実施内容
・ 重度・高齢化への 対応	①要介護認定調査 (2名) ②但馬長寿の郷PTによる個別リハビリ支援を提供 (31名)、 利用者・職員向けリハビリ勉強会を開催 (5月・10月)
・ 口腔ケアの充実	①口腔ケア用品・義歯使用状況把握チェック実施 (4・5月)、 出張歯科検診実施 (7月/23名・9月/25名) ②継続した口腔ケアプログラムを提供 (24名)
・ 医療・栄養面の充実	①利用者・職員を対象に糖尿病勉強会開催 (8月) ②利用者購入品の消費期限等食品チェック実施、 感染症発生時使用の汚物・吐物処理キット確認 ③お薬手帳の確認と服薬管理リスト作成 (7月)、 服薬マニュアルを作成し周知 (10月) ④健康づくり・給食委員会を開催 (1回/月) ⑤栄養マネジメント (モニタリング) を実施 (延 303名)
・ 地域生活移行支援	①グループホーム見学 (1名)、体験利用 (1名)、 他の障害者支援施設を体験利用 (1名) ②移行希望者へは相談支援事業所と連携して支援実施

iii) 短期入所事業

課題	実施内容
・ 利用率の向上	①特別支援学校PTA進路説明会に参加 (9月)、特別支援学校進 路実習者を受入 (2名)、制度外での宿泊体験受入 (延 20名) ②相談支援事業所へ個室利用に向けた働きかけ実施 (5名/延 48 日利用)

## iv) 相談支援事業

課題	実施内容
・関係機関との連携	①行政・相談事業所と必要時の情報共有・支援連携実施 ②南但馬自立支援協議会へ参画（全体会議・運営委員会・しごと部会）、但馬圏域障害者相談支援事業担当者会議へ出席
・相談支援の確実なフォロー	①計画相談作成対象外の方への相談・面談サポート継続 ②定期モニタリング時期把握、実施間隔について行政と連携

## 2. 研修

内部研修は各委員会が企画し、自ら講師となり「教える」「伝える」ことを通して「自らも学び理解を深める」という相乗効果がありました。外部研修は、成年後見制度研修会に積極的に参加し、ご利用者・ご家族に説明対応できるよう知識向上に努めました。また、リーダー育成や対人援助勉強会に積極的に参加し、コミュニケーション技術等を学びました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新任オリエンテーション	4月	対人援助に関する勉強会	4.5.7.9.10.12.1.3月
セクハラ・パワハラ勉強会	4.1月	法人創業40年記念講演会	6月
リスクマネジメント勉強会	4.1月	難病法と障害福祉制度を理解するための研修会	6月
請求に関する社会福祉制度勉強会	4月	但馬地域栄養士会総会ならびに研修会	7月
リハビリの大切さ	5月	介護職員専門研修（口腔ケア・食）	7月
サービス管理責任者の役割研修会	5月	副主任・主任研修	7.8月
虐待防止特別報告について説明	5月	発達デコボコ体験講座	8月
身体拘束廃止勉強会	6.3月	高齢障害者ケアマネジメントに係る研修会	8月
危険物勉強会	6月	但馬地区研修（会議の進め方）	9月
点字勉強会	6.9.10.3月	地域で暮らしていくために知っておきたいこと	9月
知的障害勉強会	7月	キリスト教福祉講座	10.11.12月
苦情受付・対応手順勉強会	7月	障害福祉施設リーダーゼミナール	10.12.1月
個人情報保護勉強会	7.2月	鈴木ひとみ講演会	11月
糖尿病予防勉強会	8月	苦情解決セミナー	11月
高次脳機能障害研修会	8月	社会福祉法人の「地域公益	11月

		的活動」推進セミナー	
成年後見制度研修会	9月	安全運転管理者等講習	11月
P Tによる福祉用具についての研修会	10月	経営計画策定支援（トータル指導コース）	10.11.1.2月
身体拘束廃止勉強会	11月	介護実践リーダー研修	11.12月
知的障害研修会	11月	課長研修	11月
ノロウイルス対策勉強会	1月	リスクマネジメント研修	12.1月
		相談支援従事者現任研修	1.2月
		上級一般職員研修	1.2月
		成年後見制度実務研修	2月
		成年後見制度基礎研修	3月（2回）
		兵庫県強度行動障害支援者養成研修	2月
		普通救命講習会	2月
		総合職員研修	2月
		地域移行・地域定着支援事業研修会	2月
		朝来市内の病院・福祉施設防火研修会	3月
		リクルートプロジェクト研修会	3月
		但馬病態栄養勉強会	3月
		障害者総合支援法等関係事業者説明会	3月

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
2件	・工事後の環境変化について ・成年後見制度の説明について	2件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
14件	8件	87件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
通報訓練	緊急連絡網連絡訓練	4月
避難訓練	日中想定避難訓練（厨房出火想定）	6月
水害予防対策	さくら川清掃	6月

避難訓練	夜間想定避難訓練（厨房出火想定）	10月
通報訓練	但馬地区災害連絡訓練（大地震想定）	1月
避難訓練	福祉村合同避難訓練（立雲の郷）	3月

#### 4. 地域交流

「天空の城音楽祭」「神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会」

地域のイベントやグラウンドゴルフを通じて、地域の皆様との交流を深めました。

「福祉体験学習」

朝来市内の小中高等学校にて、ご利用者、職員が点字や手話の出前授業を行いました。

「あったかプラザでの作品展示」

展示コーナーにご利用者の手芸作品を展示し、来館者と交流する機会を設けました。

##### (1) ボランティア

ア) 個人：小笹 慶子様 編物教室  
 浦野 澄江様 生花寄贈  
 内山 強様 折り紙教室  
 西川 豊様 将棋ボランティア  
 橋口 扶美子様 外出支援ボランティア  
 東 忠弘様 似顔絵ボランティア  
 北垣 三代子様 出前喫茶ボランティア

イ) 団体：カナリヤコーラス様 ご利用者と歌唱活動 (延 11名)  
 おとめの会様 ハンドマッサージ活動 (延 15名)  
 たんぼぼ様 ハーモニカ演奏・歌唱活動 (延 42名)  
 耳うさぎ様 書籍読み聞かせ活動 (延 12名)  
 朝来ハーパーズ様 ハープ演奏ボランティア ( 3名)  
 かご編み教室様 かご編み活動 ( 2名)  
 和田山高校吹奏楽部様 クリスマスコンサート ( 27名)  
 和田山高校生徒様 外出ボランティア ( 7名)

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 あったかプラザ

文責 責任者 西山 充

総括.

- (1) お城まつり実行委員会主催「天空の城音楽祭」、神戸聖隷但馬地区主催「法人創業40年記念イベント」での模擬店出店等を通じて、地域の多くの皆様と交流を深めました。
- (2) 和生園ご利用者の施設外就労として、接客業務体験の場を提供しました。また、朝来市精神デイケア「うめぼしの会」ご利用者の憩いの場として活用いただきました。
- (3) 竹田地区の法人内各施設にて出前喫茶を行い、外出困難なご利用者に喫茶の雰囲気を楽しんでいただくと共に、受託販売品の移動販売を実施しました。
- (4) 「茶房やっさ」の新メニューとして、「ピザ」、「肉うどん」等を開拓し販売しました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	介護予防等拠点整備事業の機能を継続	①和生園のご利用者に施設外就労として、接客業務体験の場を提供（毎営業日） ②精神障害者デイケアを実施（延63名利用）
	憩いの場として活用	①展示パネルを活用し、趣味のサークル等の作品展示と福祉関連事業所のPRを実施（通年） ②カルチャースクール講師募集するも申込みなし ③天空の城音楽祭に協賛し地域と交流（4月）、神戸聖隷創業40年記念イベント開催（8月）
	サービスの充実	①新メニュー開拓（コーラフロート、抹茶セット、ピザ、肉うどん、肉うどん定食） ②出前喫茶開催（真生園/7月、恵生園/8月・3月、平生園/12月）
経営	環境整備の改善	①自転車置場老朽化対策を朝来市と検討の結果、撤去決定（2015年度朝来市予算にて）
	広報	①ブログにて地域情報を含む情報発信実施 ②業者委託で携帯LINEスタンプ申請するも、承認受けられず不採用 ③店前の宣伝看板設置等については、黒田建築設計事務所と検討中 ④和田山中学校の要請に応じ、トライやる・ウィークで実習の場を提供（6月）
	運営の改善	①出前喫茶で受託販売品の移動販売を実施（6回）

育 人 成 材	学習機会の提供	①夏期食品衛生講習会に1名参加（7月）
------------	---------	---------------------

## 2. 研修

食中毒の予防と食品衛生の知識向上を図りました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
		夏期食品衛生特別講習会	7月

## 3. リスクマネジメント

### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件			

### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件		0件

### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
未実施		

## 4. 地域交流

神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会、神戸聖隷40年記念イベントのビンゴゲーム景品に「但馬牛定食」「うどん定食」を提供しました。

### (1) ボランティア

ア) 個人：近隣地域の方による除雪作業（冬季）

イ) 団体：なし

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 真生園

文責 施設長 種谷 啓太

総括.

- (1) 設備整備関係で5月に新館外壁修繕工事を終え、12月からは給湯・空調改修工事にはいり、施設内は少し落ち着かない状況が続きましたが、施工業者の理解協力もあり、比較的日常性を確保した上で工事ができています。(竣工は2016年5月予定)
- (2) 職員の確保ができずに年間を通して職員2.0人/利用者1人の人員体制加算となり収入が減少しました。それに伴い同性介護の維持などサービス提供に関わることの変更を行いました。
- (3) 利用者の余暇活動的なものは施設内での提供がほとんどとなり、外出などには余力がありませんでした。この事につきましては継続課題とします。
- (4) 虐待防止については、2015年度作成しました虐待判定基準表を使用し、利用者のケースに当てはめ、職員の行動マニュアルを作成し対応、法人総合職員研修にて発表しました。
- (5) 地域での活動や地域での認知を高めていく事については、地区では職員が中心となり取り組んできましたが、利用者の関わりがなく、利用者の社会参加という視点が少し欠けていました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	重度障害者の地域生活移行	①グループホームの事業者説明会を開催(6月) ②利用者1名が秋葉台グループホームへ体験宿泊
	医療的支援への対応	①医療的支援の高い利用者8名をユニット化し、看護師1名を配置 ②新たな吸引等実施に係る資格取得者はなし
サービス	個別支援の充実	①現行支援体制と業務内容の見直しを行い、業務の効率化を模索し試験的に実施
	支援の振り返り	①職制の職員を対象に虐待・不適切ケア評価基準表に基づくOJTの実施(6月)。困難ケースに同評価表を活用し、支援マニュアル作成の上、支援を提供
経営	利用率の向上	①但馬地域内全相談支援事業所、公的医療機関を訪問し、機関紙、パンフレットを配布(6~7月) ②相談支援事業所、和田山特別支援学校を対象にオープン施設見学会を実施し2名が見学(7月) ③毎月の職制会、職員会議で月次事業実績を説明
	オプション金額の適正化	①報酬改定に伴う食費の見直し実施(4月) オプション料金を見直し、新料金で運用(10月)
	設備整備	①新館外壁補修工事を実施し、完了(5月) ②既存の非常放送設備修理不可に伴い更新(10月)

人材育成	基本理念に基づく支援	①毎朝礼時に、讃美歌、聖書の朗読及び、法人基本理念の唱和を実施 ②キリスト教福祉講座へ2名参加（10～12月）
	職員の資質向上	①エルダー的指導者を配置。業務到達点の明確化のために指導者チェックリストの作成に着手 ②寮リーダーの役割表を作成し、主任補佐業務を通じ権限移譲の実施
	専門性の向上	①虐待防止研修に係る内部研修3回、外部研修に1回参加。全国身体障害者施設協議会権利擁護特別委員会へ支援課主任を派遣 ②高齢者の基礎的理解を中心に研修会に参加し、伝達研修を通じ研修を共有

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
個別支援計画に基づく支援	①モニタリングチェック表を作成し、支援計画に係るモニタリングを実施 ②（新）月次報告書を運用開始（4月）し、個々の個別支援の進捗状況を管理し、必要に応じスーパーバイズの実施
日中活動プログラムの工夫	①主任、副主任、寮リーダーによる委員会を継続し、都度の業務の見直しを実施 ②利用者個々の要望を利用者自治会と共に聞き取りし、支援計画書に反映。順次、オンリーワンサービスを提供

ii) 施設入所支援事業

課題	実施内容
利用者の生活環境の向上	①毎月、利用者懇談会で生活環境に関する意見交換を実施。改善策を利用者自治会3役と事業所が協議し対応 ②毎月、苦情解決委員（利用者代表を含む）による「何でも相談日」を実施。運営委員会にて情報共有と対応を実施
生活プログラムの改善	①浴回数、食事提供時間の見直しの検討を行うが、支援員数の充足が出来ず、具体的実施には至らず

iii) 短期入所事業

課題	実施内容
新規利用者の開拓と利用定着	①但馬地域全相談支援を訪問し事業所案内及び短期入所利用促進を依頼。6月以降、短期入所利用の2名を確保

iv) 日中一時支援事業

課題	実施内容
通所利用者の利用継続	①延211人の在宅障害者の方が、入浴サービスの利用を目的として定期的に利用

v) 真生園診療所

課題	実施内容
高齢利用率の高進	①定期健診結果に基づく個別面談を延 41 名、管理医師により実施
利用者の基礎疾患の悪化	②延命措置を含む緊急時の対応について、13 名（現在、延 45 名）の意思確認を実施 ② 健康診断結果に基づく個別面談記録を他職種協働で作成し、情報共有の上、チーム支援を実施
衛生管理者（管理医師）との協働	①衛生委員会に衛生管理者として出席し、ストレスチェック制度に関し情報提供と助言 ②管理医師の体調不良により、予定していた研修は未実施

2. 研修

内部研修では「虐待・不適切ケア評価基準表」を活用して、事業所内における支援の振返りを実施するとともに、伝達研修を通じ障害特性に視点をあて、実務的研修を実施しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新任・新人職員研修	4	障害福祉施設新任職員研修	6
対人援助勉強会	4・5・7・9・	介護職向け研修	6・7
	10・12・1・	日本キリスト教社会事業同盟	6・10
	3	社会福祉援助基礎研修	7
新規採用職員研修	5	相談支援従事者初任者研修	7
虐待防止研修会	5・6	サービス管理責任者研修会	9
点字勉強会	6・9・3	地域ケア従事者研修会	10
主任・副主任研修	7・8	介護実践リーダー研修	11・12
認知症に関する勉強会	7	近畿地区身体障害者施設協議 会研究大会	11
会議の進め方・取り組み方	9		
紙おむつ講習会	10	リスクマネジメント研修	12
キリスト教福祉講座	10・11・12	リスクマネジメント研修	1
フォローアップ研修	10	社会福祉士実習教育支援者研 修	2
経営計画策定支援 「トータル指導コース」	10・11・		
	12・1・2	兵庫県障害者虐待防止・権利 擁護研修	2
新任・新人職員中期研修	11	福祉人材育成研修	2・3
課長研修	11	社会福祉施設等防火研修会	3
ノロウイルス対策研修	12	障害者総合支援法等関係事業 者説明会	3
知的障害に関する研修会	1		
虐待防止研修	1		
上級一般職員研修	1・2		
成年後見制度研修会/実務編	2		
普通救命救急講習会	2		

総合職員研修	2
成年後見制度研修会/基礎編	3

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		0件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
117件	4件	8件

服薬関係 30 件、転倒・転落事故 27 件、受傷 14 件、経食関係 13 件 発生  
 医療機関を受診し処置を要した件数 2 件（骨折 1 件、医療チューブ自己抜去 1 件）

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	さくら川周辺清掃	6
避難・通報・消火訓練	日中想定（新館洗濯室より出火想定）	6
避難・通報・消火訓練	夜間想定（本館 1 階ボイラー室より出火想定）	11
避難・通報・消火訓練	緊急連絡網通報訓練	1
避難・通報・消火訓練	福祉村防災連絡協議会/合同避難訓練（立雲の郷）	3

### 4. 地域交流

- ・和田山中学校「トライやるウィーク」へ受入れ申し込みを行うが、希望者はなし
- ・但馬地区地域交流部会への参画と協働。（神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会、朝来市内小・中学校対象福祉体験学習、あったかプラザ感謝祭）

#### (1) ボランティア

##### ア) 個人：5名（延19回）

綿貫墨石/書道クラブ指導 東 忠弘/似顔絵ボランティア  
 石村真紀・小林みね子・福本聖美/音楽と朗読会

##### イ) 団体：7団体（延12回/延人数159名）

天理教朝来支部/除草ボランティア  
 広畑キリスト教会/繕い物ボランティア・お話ボランティア  
 朝来市社協/サマーボランティア 朝来市役所職員/窓拭き清掃  
 ワイワイ・ドリーム・ネットワーク/外出支援 和田山高校/花いっぱい運動  
 竹田地区自立支援協議会ふれあい部会/清掃ボランティア

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 和生園

文責 施設長 久木田 憲彦

総括.

- (1) 就労継続支援B型事業では和生園での肩ベルト作業の生産数向上による高工賃の維持と第2和生園での楽しみながら生産活動を行う場としてプログラムの差別化を図り、利用ニーズを反映したプログラムを実施することができました。
- (2) 就労移行支援事業では関係機関との連携の下、新たに3名の利用者が実習を行いました。雇用契約を締結できたのは1名で、企業の協力以上に個々の特性に応じた職場開拓の厳しさを痛感しました。
- (3) 補助事業を活用して新規自主製品の開発のためのスチームオープンレンジと、送迎及び就労移行で活動するための車両を整備し支援の充実に努めました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課 題	実 施 内 容
中期計画	就労継続支援B型事業の再構築	① 但馬地区サービス展開部会、法人経営計画策定支援研修にて検討
	地域との関係強化	① 和生園だより（年度報告掲載）を秋葉台・竹田地区にて隣保回覧（4月） ② 地区イベントに参加・出店 4月：竹田音楽祭          7月：秋葉台夏祭り 8月：竹田地区夕涼み会 9月：竹田地区グラウンドゴルフ大会 10月：竹田秋祭り協賛、山東町文化祭出展
サービス	ニーズに応じたサービス提供	① ニーズ調査を実施し支援に反映（6月・12月） ② 関係機関とも連携した家庭訪問により継続利用・定着支援を実施 ③ 主・従事業所のプログラムの差別化によりモチベーションの維持・向上に努める
	高工賃の維持・向上	① 肩ベルト生産数アップ（31本/1日）により工賃向上（25円/時給） ② 肩ベルトの自動へり返し機導入により効率化を実現するも素材の複雑化により不良の削減には至らず ③ 兵庫県の補助事業に採択されベーカリー新機種の導入と、新規取引業者の協力による新商品開発によりインターネットサイトへ登録

サービス	社会経験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 事業ごとの月次目標の設定と共有を図る</li> <li>② 就B全員での一泊旅行を実施（3月）</li> <li>③ 兵庫県知的障害者施設協会綱引き大会に参加し他施設と交流（12月）</li> <li>④ 朝来警察署の協力による安全講習を実施（2月）</li> </ul>
	安心・安全な施設づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新機器導入に伴い作業場内の通路等の確保に努める</li> <li>② 毎月の職員会議で事故報告はもとよりひやり・ハット報告を行い状況と改善策を共有</li> <li>③ 感染症流行時期にうがい・手洗いを励行するとともに、感染時の対応表を掲示し職員間で共有</li> </ul>
	権利擁護の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全体会議にて利用者の権利と義務についての説明と実習者受け入れ等の協力を依頼</li> <li>② 成年後見制度基礎研修へ8家族が参加（3月）</li> <li>③ 虐待防止チェックリストを実施し職員会議にて報告し意識改革を促進（8・2月）</li> </ul>
経営	安定した経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 適正な利用者数を確保し利用促進のための取組を行うも安定した利用率には至らず</li> <li>② 基準に沿った加算算定のため月次の進捗状況を確認</li> </ul>
	設備整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本財団より就労移行営業車両採択され整備（2月）するも送迎車両は不採択</li> <li>② 兵庫県の補助によりベーカリー機器を整備（9月）</li> <li>③ 糊付け機を整備（7月）するも空調設備は未着手</li> </ul>
人材育成	法人理念の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 朝礼時の聖書朗読、理念・方針唱和に加え、パート会議でも理念・方針を唱和</li> <li>② キリスト教福祉講座へ2名参加</li> </ul>
	資質向上のための研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 管理職が対人援助勉強会へ参加</li> <li>② 法人上級一般職員研修にて利用者支援を再確認</li> </ul>
	専門性向上のための研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業多忙な中、計画的に外部研修に参加</li> <li>② パート会議にて勉強会を実施</li> </ul>

(2) 各事業の課題・状況

i) 和生園（就労継続支援B型）

課 題	実 施 内 容
高工賃の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 肩ベルト生産数10%増により平均時給も10%増</li> <li>② 機器導入に伴う工程の見直しと目標の数値化による作業配置の取り組み開始</li> </ul>
事業所内環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自動へり返し機導入に伴い作業場内配置の変更と作業ラインの見直しを実施</li> </ul>

ii) 第2和生園（就労継続支援B型）

課 題	実 施 内 容
プログラムの充実	① 月1回の余暇プログラムの実施 ② 企業への納品・自主製品の移動販売等への利用者参加 ③ 通所時等のマナーについて個別に支援 ④ 新規利用者への家庭訪問によるアセスメントを実施 ⑤ 掲示したカレンダーへの行事記入によりモチベーション維持・向上
工賃向上のための取り組み	① 新機種導入と新規取引業者の協力により新商品を開発し、新たな販路を開拓 ② 就労移行と連携して受注する作業を選択して実施

iii) 第2和生園（就労移行支援）

課 題	実 施 内 容
就労に向けた支援	① 就労アセスメントでのDVDの活用と教材を月2回プログラム化して実施 ② 施設外就労（接客業務）を定期的の実施し視覚化マニュアルを作成 ③ 必要経費を予算化し計画的に生活技能向上のプログラム（調理・裁縫等）を実施 ④ 既就職者への個々の定着支援は実施するが、定期的に集まる機会は未実施
関係機関との連携強化	① 関係機関との連携により実習・就労先（3社）を開拓し実施するが、新規利用者の実習先開拓は難航 ② 特別支援学校3年生の就労アセスメントを5名実施し、うち1名が次年度新規利用予定

2. 研修

年度当初に研修計画を作成し各職員の資質向上に努める。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
対人援助勉強会	通年	就労支援連絡会議研修会	5月
主任・副主任研修	7月	援助基礎研修	7月
内部向け研修（会議の進め方）	9月	南但食品衛生協会研修会	7月
外部向け研修（地域で暮らす）	9月	相談面接技術研修 中級	7・8月
キリスト教福祉講座	10～12月	兵庫県知的障害者施設協会 施設長虐待防止研修	7月
経営計画策定支援受講	10～2月	対人支援職のための セルフケア研修	8月

課長研修	10月	発達障害者支援セミナー	10月
上級一般職員研修	1月	相談支援専門コース別研修	10月
普通救命講習	2月	精神保健福祉研修会	10月
法人総合職員研修	2月	サービス管理責任者 ブラッシュアップ研修	2月
マイナビプロジェクト研修	3月	障害者雇用促進研修	2月
成年後見制度研修	2月	南但馬自立支援協議会研修会	3月
成年後見制度基礎研修	3月	病院・福祉施設等防火研修会	3月

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
8件	利用者関係(3)、職員対応(4)、異物混入(1)	7件	1件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
53件	3件	70件

※特記事項：本部報告事故（転倒事故による受診3件）

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	作業場より出火想定、消火器使用訓練	10月
通報訓練	但馬地区一斉の夜間緊急連絡網訓練実施	1月

### 4. 地域交流

- ・4月：竹田音楽祭へ出店し、利用者2名自主製品を販売し交流を図る。
- ・5月：地域交流部会主催のグラウンドゴルフ大会に利用者3名参加し交流を図る。
- ・7月：秋葉台夏祭りに共催・出店し、地区住民との交流を図る。
- ・8月：地域交流部会主催の竹田地区夕涼み会へ参加し、地区住民との交流を図る。
- ・9月：竹田地区老人会主催のグラウンドゴルフ大会に利用者3名参加し交流を図る。
- ・10月：竹田秋祭りに協賛し、地区へ電源を供給する等の協力を行う。

#### (1) ボランティア

- ア) 個人： 4名 第2和生園自主製品・イベント協力、野菜寄贈
- イ) 団体： 76名 あじさいの会（年10回：給食サービス）  
東谷昭和会（7月：草刈り、清掃奉仕）  
秋葉台3区有志（12月：外回り清掃）

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホームもみの木・かしの木  
 文責 施設長 久木田 憲彦

総括.

- (1) 利用者の高齢・重度化に伴い、相談支援事業所と連携して退所後のサービス提供を検討し、2名の方がそれぞれ自宅に近い事業所へ移行されました。また、自立生活を目指すためのサテライト型住居の設置を検討しましたが該当者が自立生活へ移行されたため中断することとし、次なる希望者のモチベーション維持・向上に努めました。
- (2) 定員確保に向け実習・体験利用を積極的に受け入れ、次年度の定員充足に努めました。
- (3) 支援の標準化を目指し障害特性理解のための内部研修を実施しましたが、職員間のコミュニケーション不足等により円滑に推進することができませんでした。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	グループホームの事業展開	① 但馬地区サービス展開部会にて竹田地区での展開を検討
サービス	ニーズ把握と個別支援計画	① モニタリングに加え各利用者の日々の状況に応じた支援を実施 ② 入退所等において家族との連携した支援を実施 ③ マニュアルを世話人連絡会にて周知するも統一には至らず ④ 大幅な支援内容の変更については相談支援事業所と連携した支援を実施
	社会経験活動の実施	① 個々のニーズに応じた日課表・支援マニュアルを作成し実施 ② 緊急時以外自力での外出・通院できるよう支援 ③ 年末に忘年会で外食を実施
	地域関係の構築・強化	① 区の行事に積極的に参加 クリーン作戦、旅行、夏祭り、防災訓練、運動会
	安心・安全な施設づくり	① ノロウイルス対応キット・手順書を各ユニットに設置 ② 市内一斉防災訓練へ要援護者として参加（9月）
	利用者の健康管理	① 必要に応じて職員が受診に同行し主治医と連携 ② 共通の献立による食事提供と定時の血圧測定を実施

	・権利擁護の取り組み	① 利用者連絡会にて利用者の権利と義務についての説明と実習者受け入れ等の協力を依頼 ② 成年後見制度基礎研修案内するも家族の参加なし ③ 虐待防止チェックリストを実施し意識改革を促進(8・2月)
経営	・経営基盤の安定	① 年度途中の退所者3名(もみの木1名、かしの木1名、かしの木Ⅱ1名)による収入減 特別支援学校実習受け入れにより卒業後に利用開始予定(もみの木1名、かしの木Ⅱ3名) ② 各ホームの食材等の一括購入による経費削減
	・設備整備	① サテライト型住居設置に向け物件を確保するも対象者の退所により中断
人材育成	・法人理念の理解	① 世話人連絡会で法人基本理念、グループホームもみの木・かしの木基本方針を唱和 ② キリスト教福祉講座へは不参加
	・専門性の向上	① 世話人連絡会にて外部講師による自閉症スペクトラム研修を実施(5回)

(2) 各事業の課題・状況

i) グループホームもみの木

課題	実施内容
・高齢化・重度化への対応	① 家族との連携により恵生園へ1名移行(6月) ② 相談支援事業所との連携により具体的な計画を策定
・社会化訓練の実施	① 自立生活に向け休日の食事調理へ向けた支援を実施 ② 自立生活に向けた個別支援計画を策定するも具体化せず

ii) グループホームかしの木

課題	実施内容
・高齢化・重度化への対応	① 家族・相談支援事業所との連携により自宅近くのグループホームへ移行(8月) ② 医療機関、相談支援事業所との連携による計画を策定
・体験利用、体験実習の受け入れ	① 和生園利用者の体験利用は未実施 ② 恵生園利用者1名、真生園利用者1名、地域より2名の体験利用を受け入れ ③ 出石特別支援学校でのキャリア教育推進事業に参加し、関係機関への周知を実施

iii) グループホームかしの木Ⅱ

課題	実施内容
・ 社会化訓練の実施	① 自立生活希望者への社会化訓練のプログラム化まで至らず ② サテライト型住居を検討するも、自立生活へ移行（8月）
・ 体験利用、体験実習の受け入れ	① 和生園利用者の体験利用は未実施 ② 特別支援学校の体験実習受け入れ実施（3名） ③ 出石特別支援学校でのキャリア教育推進事業に参加し、関係機関へ周知し見学者を受け入れる

2. 研修

外部講師による継続した内部研修を実施したため外部研修へは不参加。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
自閉症スペクトラム研修	4・5・6・7・10月		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
8件	利用者の障害特性（6）、外部業者（1）、設備（1）	2件	6件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
7件	0件	0件

※特記事項：うち転倒による事故6件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・消火訓練	和生園にて消火器使用訓練	10月
秋葉台避難訓練	市内一斉避難訓練に利用者8名参加	9月

4. 地域交流

- ・ 地区の行事には希望する利用者が積極的に参加し、地域住民との交流を行う。
- ・ 区長、民生委員へ要援護者として登録し、市内一斉避難訓練に参加し支援を得る。

(1) ボランティア

地域住民の方より、ホーム周囲の草刈りや積雪時の除雪の奉仕をしていただく。

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 北但広域療育センター

文責 施設長 中江 紀子

総括.

- (1) 理学療法士が確保でき、生活介護事業においてご利用者に毎日リハビリテーションが実施できる体制を整えることができました。また児童発達支援事業において、就学前児の利用が多くなり新たに新規者の受入れ枠を作り利用率向上に努めた結果、利用率は昨年を大きく上回りました。
- (2) 保育所等訪問支援や関係機関との連携会議等を通じて、ご利用者が地域で過ごしやすい環境づくりへ各事業が前向きに取り組むを行うことができた一年でもありました。
- (3) 第三者評価を受審し、施設全体の弱み、強みが明らかになり、情報の流れを明確化し、マニュアル整備や業務の標準化の必要性に気づけ、施設運営の指針を得る機会となりました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	相談支援事業の但馬圏域集約	①相談支援事業に関する集約の検討は行われず
	障害理解の啓発	①クローバー豊岡ブランチにおいて、地域、企業等に向けたコミュニケーション講座の実施。発達障害理解のための各種講座を支援者向け、保護者向けに実施。すまいるにおいて、家族向け講座の実施
サービス	支援の質を向上	①研修会への参加を奨励。外部講師を招き、すまいる職員対象に連続講座を実施
	各事業における権利擁護の支援	①相談員を中心に自立支援協議会等の成年後見制度研修会、触法事例の地域生活支援研修会等へ参加 ②虐待防止に関する伝達研修を職員会議で実施
	療育センター内各部署の連携強化	①部会議で、各部署より現状報告を毎月実施。事業別目標達成状況の確認
	適切で専門的な支援の提供	①言語聴覚士、作業療法士が、グループ療育に入り、保育士と連携した支援を構築。また個別支援を実施。重心児童に対しては、理学療法士も含め、三療法士が交替で個別支援を実施 ②すまいるにおいて、学童児に対して具体的な人への関わり方やルールを理解をグループ別実施

経営	利用の安定と増加	①木曜日送迎を二便とし、利用者確保を促進 ②グループに入る前の幼児の療育の場を新設
	データ管理リスクの改善	①外付けハードディスクを各部署に設置し、重要データのバックアップを実施
	経費削減の意識づけ	①経費削減エコ委員会を立ち上げ、エコ川柳などで職員全体への啓発活動を開始
	残業の削減	①職員の残業削減のため、朝礼や会議での「ライフ・ワーク・バランス」の啓発
人材育成	法人理念の理解	①法人理念および療育センター基本方針の朝礼での唱和を継続 ②職員会議に越智理事長を招き、法人理念の講和を実施
	専門性の向上	①児童発達支援管理責任者の資格取得（1名） ②新採用臨時職員に外部研修への参加を実施 理学療法士に姫路市総合福祉センターおよび長寿の郷での研修を実施

(2) 各事業の課題・状況

i) 指定障害児通所支援事業 すまいる

課題	具体策の進捗状況等
利用率の改善	①10月より部屋・時間を調整し、待機児の療育を実施。 ②保護者学習会（おひさまテラス）への参加促進のため、個別に声掛けを実施。保護者への障害特性と療育の必要性への理解促進
利用児の生活環境の整備	①保育所等訪問支援事業で学校や園を訪問するとともに、学校や園から「すまいる」を見学訪問して頂くことで情報共有を促進 ②療育の時間内に家庭での困り感などを聞き、一緒に考え、必要な物を作るなど家庭との具体的な連携を実施

ii) 障害児者通所支援事業 トゥモロー

課題	具体策の進捗状況等
利用率の改善	①事前に利用者のお休みを把握した場合は、他の利用者の方に対し積極的に声掛けを実施(利用者確保)
利用者が主体的に活動できる支援を実施	①ゲーム等の日中活動では、絵や文字を大きくし、明るい色を使用するなど視覚的な支援での理解向上を実施。また作品作りでも筆を持つことが難しい方には補助具を作成するなど工夫し、主体的に参加をめざした支援を実施

iii) 相談支援事業

課題	具体策の進捗状況等
計画相談作成者のデータ整理と把握	①ケース記録の整理をするとともに、相談作成登録者一覧表を作成し、相談体制を再考する指標とした。また、月毎の計画作成・モニタリング者を二重チェックする体制を構築
相談員の負担軽減	①モニタリング管理を行うことで見通しを持って業務にあたることができるよう改善し、負担軽減を図ったものの、人員不足により十分な負担軽減には至らず ②困難ケースについて基幹相談支援センターとの連携を推進
相談支援事業の見直し	①計画相談が安定し、障害児計画相談の増加が見込まれる中、相談支援体制について豊岡市や基幹相談支援事業所との話し合いは実施するも進展せず

iv) ひょうご発達障害者支援センター クローバ 豊岡ブランチ

課題	具体策の進捗状況等
相談支援体制構築に向けた調整	①豊岡健康福祉事務所との意見交換会へ参加や県障害福祉課と市町相談窓口の確認調整実施 ②朝来市の発達支援窓口設置に向けての情報提供実施・但馬圏域障害者相談支援事業担当者連絡会議にて周知・情報提供の実施
家族等の特性理解、支援の充実	①朝来市家庭療育支援へのコンサル、ペアレントメンター派遣やペアレントメンターの集いを実施。「虹の会」や自閉症スペクトラム特性基礎・支援講座の実施
地域、企業等に向けた普及啓発の実施	①一般企業への特性理解のためのコミュニケーション講座を実施。就業・生活支援センターと企業訪問、個別調整会議の実施

v) 風（ふう）発達クリニック

課題	具体策の進捗状況等
経営の安定	①受診希望者は増加するが、地域支援も増え、予約が2ヶ月待ちとなり、昨年度並みの受診者数であり、大幅な増収には至らず

2. 研修

新採用職員への外部研修、中堅職員への外部講師による施設内研修を実施。全職員への研修参加を奨励しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月

キャリアパス研修会	5月	トータルハーモニー研修	5,6,8,2月
法人主任副主任研修	7月	摂食・嚥下研修会	5月
法人課長研修	11月	姫路市ルネス現場実習	7月
経営計画策定支援トータル指導コース	11,12,1,2月	強度行動障害研修	7,1月
発達障害者支援センター近畿ブロック研修	12月	発達障害サポーター研修	7,8月
総合職員研修	2月	PT研修	8,9,10,11月
		サービス管理責任者研修	9,11月
		罪を犯した知的障害者の地域生活支援研修会	9月
		新温泉長寿の郷研修	9月
		ASD基礎講座	10,1,2月
		新温泉PT研修	10月
		出石特別支援学校公開講座研修	10月
		長寿の郷リスクマネジメント研修	12月
		発達障害サポーター養成講座	12月
		家庭療育支援講座研修	12月
		しいの実作業所への虐待防止のための発達障害理解の研修	1月
		ペアレントメンター研修会発達障害研修	2月

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
1件	相談支援の対応についての内容(8月)	1件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
2件	0件	8件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	トゥモローが主の避難訓練	6月
避難・通報・消火訓練	すまいるが主の避難訓練	11月

### 4. 地域交流

- ①ペアレントメンターによる「すまいるカフェ」を実施し、保護者同士の交流の場を提供。
- ②恒例の「風まつり」を11月に開催し、利用者のおし物参加や近大ボランティアによる人形劇も実施。

#### (1) ボランティア

- ア) 個人：0名      イ) 団体：図書20名、託児35名、散髪10名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 エスポワールこじか  
 文責 施設長 伊崎 辰夫

総括.

- (1) 2015年度も、4月当初から利用枠が詰まった状態で始めることができたため、利用率78.7%と目標の76%を上回りました。昨年に比べると58名少ないですが、それでも例年より100名以上多い利用になります。また、在籍児童の利用計画作成が新規扱いとなり、今年度に限り収入は大幅に増加しました。
- ただ、今年度の見学と契約の状態は、但馬地域全体での5歳児健診後が多くなっているため、3～4歳の幼児の希望が少ない状態になっており、2016年度の開始早々は幼児枠が埋まらないことが予想されます。
- (2) 地域保護者の要望に応じて、1歳前後の早期療育に取り組み、北但広域療育センターの中江施設長がアドバイザーとして保護者相談に対応しましたが、発達が幼いため、集中時間が短い・要求の表出手段が少ない、同年代の子どもとの関わりがしにくいなど、こじかの療育ではあまり効果が認められないことから、2016年度の療育開始は2歳前後から行うこととしました。
- (3) 播磨地域福祉サービス第三者評価機構の第三者評価を受審しました。療育に特化した施設の評価基準が確立されていない状態でしたので、厳しいものとなりましたが、全体的な施設の強みと弱みが明確になり、改善すべき点が判明しました。
- また、保護者アンケートでは多くの感謝の言葉を頂き、スタッフのやる気へと繋がりました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

(保護者の悩みに寄り添うこと、早期療育の実施、個別対応療育、聖書勉強の機会、目標利用率の達成など概ね計画を遂行することができました。)

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課 題	実施内容
中期 計画	地域との共生	① 但馬圏域・市・町単位の委員会、協議会等へ参加し、地域資源としてのこじかをアピール。 実習生なし、見学者個人5名、団体2カ所
サー ビス	相談支援の充実	① 特性・子育て・虐待・家庭内・学校の問題等の保護者の悩みに、訪問・面談・電話等にて積極的に行い、また関係機関と連携し対応。 大森Drによる療育相談 12回実施

	保護者への支援	<p>①学習会開催 8 回（保護者延べ 34 名参加）  ・「子どもの特性の違い」・「コミュニケーション」  ・「ことばの発達」・「メンター相談会」  ・「療育の意味と役割」「子育ての工夫」  ・「就園、就学前の準備」</p> <p>②保護者茶話会 7 回実施、延べ 24 名参加</p> <p>③託児ボランティア 当初 12 名登録  新規ボランティア 3 名登録（利用保護者）  延べ 51 回利用</p>
	地域支援の充実	<p>①ひょうご発達障害者支援センタークローバー  豊岡ランチによる出張相談 6 回実施</p> <p>②南但馬・香美町自立支援協議会、養父市社会福祉協議会評議員、但馬地域特別支援連携協議会、地域歯科保健対策検討委員会に出席。  養父市・朝来市のびのび教室、療育支援講座、要保護児童個別支援会議、個別のケース会議等へスタッフを派遣</p>
	利用の安定と増加	<p>①7 月から幼児 1 日 3 グループ実施</p> <p>②目標開所日数 233 日確保</p> <p>③市町とのケース連絡会（健康課・福祉課・教育委員会）、2 市 1 町実務者合同連絡会、エスポワールこじか運営委員会、市町個別支援会議、太田垣 Dr によるカンファレンスの実施及び上記地域支援の充実②への参加。</p>
経営	法人理念の理解	<p>①朝礼時の聖書等朗読継続（2 週目）  マタイ福音書 14 章 33 節～ルカ 8 章 15 節</p> <p>②聖書学習会  内山牧師により 5 月、7 月実施</p>
人材育成	職員の専門性の向上を図るため研修参加等を奨励	<p>①相談支援従事者初任者研修 1 名受講</p> <p>②法人内・但馬地区内主催研修：9 回、述べ 35 名参加。法人外研修：6 回、延べ 7 名参加</p>
	職員の施設内育成	<p>①ビデオ研修 8 回実施  現場撮影による児童の特性把握とスタッフの言動、支援内容の確認。</p> <p>②専門分野の施設内研修未実施  （次年度実施日決定済み）</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 障害児通所支援事業

課題	実施内容
早期療育の実施	①1歳～2歳のダウン症児に向けた早期療育 10回実施（アドバイザー中江施設長）
個別療育の充実	①新規契約者 21名への専門家の評価を入れた個別 支援計画の作成。 ②9月、3月に半期毎の支援内容評価と次期支援計 画の作成済み。保護者面談（同意）の実施。 ③年齢、特性に合わせたグループ分けを実施。 ④欠席利用者への振替 45回実施。 発達検査 1回、S T個別 52回、P T個別 27回 ⑤園校訪問 45ヶ所 セッション参観 24ヶ所
就学児童への支援	①1年生療育 8名実施 ②就学児童の情報交換のため 2市1町（健康課・福 祉課・教育委員会）との連絡会開催。 学童相談日継続（1名利用）
待機児童への支援	①待機児童の個別療育は未実施 ②学習会の開催 8回（保護者延べ 34名参加）

ii) 相談支援事業

課題	実施内容
新規サービス利用計画、継続サービス 利用計画の作成	①新規利用計画作成 76件、 継続利用計画作成 234件、 家庭訪問 106件 実施
地域関係機関との連携	①但馬圏域障害者相談支援事業担当者連絡会、 朝来市要保護児童対策地域協議会個別支援会議、 朝来市発達障害児者支援連絡会に出席。 園校・他事業所等訪問実施。

2. 研修

（スタッフの専門研修が全くできなかったもので、次年度施設内研修を実施します。）

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
聖書勉強会	5・7月	相談支援従事者初任者研修	7～9月
真生園「感染症予防研修」	6月	手をつなぐ育成会「障害者差別 解消法に向けての地域の取り 組み」	10月
サービス事業「メンタルヘル ス研修」	7月	県民局「リスクマネジメント」	12月
真生園「認知症勉強会」	7月	南但馬自立支援協議会研修	12月

サビ管会議「個別支援計画の策定の意義とサビ管の役割」	7月	香美町自立支援協議会研修	3月
但馬地区研修「会議の進め方」	9月	兵庫県「障害者総合支援法関係事業者説明会」	3月
但馬地区外部向け研修「地域で暮らす」	9月		
総合職員研修「研究発表会」	2月		

### 3. リスクマネジメント

(苦情報告・事故報告なし。ひやりハットの件数も少なくなっているため、注意喚起を都度行いました。)

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	8件

#### (3) 防災対策

・10月火災想定避難訓練実施 ・1月地区合同緊急連絡網訓練 ・3月消防設備点検

### 4. 地域交流

(1) 託児ボランティア：登録15人(新規3名) 5家族利用：延べ51回利用  
 施設見学：個人5名 団体(朝来市民生委員13名、法人新採用職員19名)

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸聖生園

文責 施設長 加藤 成久

総括.

- (1) 事業全体について法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止に関する取り組みを日々の職員ミーティング・定例所属課会議で実施しました。年度内2回に分けてチェックシートによる振り返りと分かち合い、意見交換を実施しました。特に私達職員側が作り出す「場の雰囲気」がどれだけ利用者皆様の状態に影響しているかを改めて知らされました。
- (2) 2014年度に受審した「第三者評価」の結果、目指すテーマである「サービスの標準化」へ向けてのさらなる取り組みは具体的な結果を出すには至っていません。私達職員全員の総合的な協力体制の上に組み上がって、成り立つものである認識を強める事ができています。支援課長を中心に神戸市で遅れていた計画相談について、応援体制を組んで対応しました。この体制は神戸聖隷総合相談センターへ吸収され発展的に解消しました。
- (3) 年度を超えて取り組んできましたグループホームの立ち上げについては、友が丘のとなり町「多井畑東町」に土地・建物を購入し、建物改修を経て2016年2月に開所に至りました。「グループホームたいのはた東」は、法人、神戸地区事業所・施設に繋がる利用者、家族、職員、そして地域の皆様のたくさんの理解・協力を得て、体験利用枠1名を含む6名定員、5名（女性3名、男性2名）の入居者でスタート、2016年2月には地域自治会長様も参加くださり開所式、お祝い会が実施できました。  
 2015年4月からせきもり事業所を「神戸聖生園せきもり」（従たる事業所）として生活介護事業で統合しました。10名の利用者を迎え入れ、継続してサービス提供が出来ました。
- (4) 建物改修について、“神戸聖生園せきもり”は床の補強を実施しました。“神戸聖生園”は数の不足課題であった男女トイレをドライ床式、入口扉無で新しく設置しました。そのため一時的に利用者の更衣室確保ができなくなり、次年度の改修工事で設置します。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	神戸地区事業再編と連動した ・生活介護事業の準備 ・共同生活援助事業の準備	① 2016年2月1日共同生活援助事業（新規グループホーム）を開設。体験利用ができる仕組みを用意。 ② 生活介護事業一本化に向けた建物改修（トイレ新設）工事を実施。
	神戸地区事業再編 ・就労継続支援B型事業の準備 ・グループホームセンター化の準備	① 就労継続支援B型事業の再編を中心に、生活介護事業も関連して再編準備実施継続 ② グループホームを共通で見るサービス管理責任者の育成や職員勤務の共通化等を部分的に実施

	長期修繕計画の具体化と計画実施調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 長期修繕計画からトイレ改修（新設）を実施。</li> <li>② 事業再編計画による建物改修計画策定を実施。</li> <li>③ 改修スケジュール及び内容の具体化実施。</li> </ul>
サービス	法令順守、権利擁護、虐待防止のための研修・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 請求内容(減算)の見直し実施。支援マニュアル書式の基礎原案作成実施。</li> <li>② 虐待防止全体職員研修を実施。</li> <li>③ 成年後見制度理解の勉強会(利用者)は未実施。</li> <li>④ 家族への権利擁護研修は未実施。実務連絡実施</li> </ul>
	サービス標準化の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 支援マニュアル整備は叩き台の作成実施。マニュアルの修正及び仕上げ継続実施。</li> <li>② 事業所内マニュアル整備は一部実施。</li> <li>③ 支援の共有化はその都度実施。</li> </ul>
	地域行事・イベント等への参加支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2班に分かれて日帰り旅行を実施。</li> <li>② 自治会夏祭り・こんにちはカーニバル・学習会等に参加。地域から求められる役割を担えるように地域活動参加を実施</li> <li>③ 須磨区自立支援協議会イベント(すまると・すまいんど・さくら祭り等)に参加。</li> <li>④ 神戸市スポーツ大会へ参加。</li> <li>⑤ ひっぱりリーグ(綱引き大会)に参加。</li> </ul>
	楽しい昼食時間の提供と特別食提供準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 給食委員会は1回実施。嗜好調査を継続実施。</li> <li>② 嗜好調査(アンケート)は継続実施。</li> <li>③ 栄養士による情報発信(献立表等)を実施。</li> <li>④ イベント食・特別昼食メニューは不定期で実施</li> <li>⑤ 刻み食等個別対応実施。介護食メニューの提供準備継続実施。</li> <li>⑥ 食事提供体制加算減算の差額は園負担で実施。</li> </ul>
	設備の老朽化に伴う改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アサヒファシリティーズによる定期点検実施。</li> <li>② 火災警報器等設備交換を実施。</li> <li>③ A棟側グランド階段の改修工事実施。</li> <li>④ 厨房空調設備改修は次年度に実施予定。</li> <li>⑤ 自主管理・修理は必要に応じて実施。</li> </ul>
経営	仕事の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オプション送迎支援の継続実施。</li> <li>② 神戸明生園と連携、短期入所時の日中利用実施。</li> <li>③ 261日(平日の祝祭日を開所)の営業実施。</li> <li>④ 月平均10日公休を計画的に取得実施。</li> <li>⑤ 満足度調査は未実施。次年度に実施</li> <li>⑥ 神戸聖生園せきもり、年5日の営業日拡大実施。</li> </ul>
	利用率の確保及び向上と支援者の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オプション送迎支援の継続実施。</li> <li>② 神戸明生園と連携、短期入所時の日中利用実施。</li> <li>③ 261日(平日の祝祭日を開所)の営業実施。</li> <li>④ 月平均10日公休を計画的に取得実施。</li> <li>⑤ 満足度調査は未実施。次年度に実施</li> <li>⑥ 神戸聖生園せきもり、年5日の営業日拡大実施。</li> </ul>

	法令順守の徹底	① 減算日の再チェックと過誤請求の対応実施。 ② 複数チェックを継続実施。
人材育成	実習生受入れと実習プログラムの整備と充実	① 実習担当者の異動に伴い対象校へ調整実施。 ② 実習指導者の勤務内の時間調整実施 ③ 実習期間中の他事業所見学・訪問を実施。
	専門性の向上	① 内・外部研修・勉強会への参加実施。 ② 研修後の事業所内発表及び報告会を実施。 ③ 利用者へグループホーム勉強会と学習会(交通安全教室)実施。地域生活で必要な学びの提供 ④ ヒヤリ・ハット報告書式一改善は未実施。事例検討会を実施。さらに積極的活用を継続実施 ⑤利用者支援の課題から課題研究の提案実施。「ダウン症利用者の高齢化に伴う支援」 ⑥人事考課制度の試験活用実施。自己研鑽に繋がる活用を継続実施
	法人理念の具現化	① 法人基本理念・祈り・讃美歌の唱和を実施。 ② 365日の聖書朗読を実施。 ③ 聖書朗読者による「今日の一言」発表継続。 ④ 毎週(火)礼拝を実施。 ⑤ キリスト教福祉講座へ参加。

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
個別支援計画の充実(共通)	① 「個別支援対応マニュアル」の叩き台作成実施。 ② 対応困難ケースの支援説明と同意は一部実施。今後継続実施 ③ アセスメント票の更新は未実施。利用者の生活能力を確認し支援内容との整合性を確かめ、本人及びご家族の状況や意向を確認する機会として定期的に継続実施。
日中活動及びプログラムの拡充(生活介護特化に向けて)	①メニュー拡充・マニュアル作成と共有化は一部実施 ② 自主製品の開発は、重度化、利用者の関係性配慮など支援上の課題が多く集中した取組みが困難。実施方法見直しを継続実施。 ③ 周辺地域の清掃活動・散歩・公園利用等による地域交流を実施。 ④ 須磨区自立支援協議会活動への参加継続を実施。 ⑤ 地域住人の外部講師による活動の継続実施。 ⑥ グループホーム勉強会・その他勉強会を実施。 ・地域生活を意識した勉強会の開催を今後も計画実施する。 ⑦ 日帰り旅行の実施。

職員間の連携及び神戸聖生園せきもりとの協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各部署間の協力体制を持つことができた。</li> <li>② 利用者支援に於いて活動班を超えて支援協力を実施。</li> <li>③ 神戸聖生園せきもりとの利用者及び支援者交流は一部実施</li> <li>④ 神戸聖生園せきもりと共有作業の提供を実施。 ・作業やプログラムを通して今後交流を図る。</li> </ul>
看護業務の提供と充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 神戸聖生園せきもりへの看護師訪問は不定期実施。 ・次年度は定期的訪問を実施する。</li> <li>② 測定結果(上半期・年間のまとめ)の資料データ整理実施。 ・年間のまとめと看護師による生活アドバイス等を提供する。</li> <li>③ 嘱託医の定期訪問を実施。</li> <li>④ 「健康だより」を毎月発行。</li> <li>⑤ 常備薬類の交換を実施。</li> <li>⑥ 感染症対応についての内部研修会は未実施。健康だよりへの記事として反映実施。</li> </ul>

ii) 就労継続支援B型事業

課題	実施内容
個別支援計画の充実(共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「個別支援対応マニュアル」の叩き台作成実施。</li> <li>② 対応困難ケースの支援説明と同意は一部実施。今後継続実施</li> <li>③ アセスメント票の更新は未実施。利用者の生活能力を確認し支援内容との整合性を確かめ、本人及びご家族の状況や意向を確認する機会として定期的に継続実施。</li> </ul>
作業及びプログラムの拡充(一部共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 移行に向けた利用者の実習・作業体験を一部実施。</li> <li>② 職員の他事業所見学は一部実施。事業移行を見据えた作業活動(緩め)の確保やアイデア習得の見学を継続実施。</li> <li>③ 作業種及びプログラムの選択肢と拡充を実施。</li> <li>④ グループホーム勉強会を実施。宿泊体験活動を継続実施</li> <li>⑤ 交通安全講習会を実施。地域生活を送る上で必要な知識やマナー、約束事など学習会の提供を継続。</li> <li>⑥ 日帰り旅行を実施。</li> <li>⑦ 周辺地域の清掃活動・散歩・公園利用等による地域交流を実施。</li> <li>⑧ 須磨区自立支援協議会活動への参加継続を実施。</li> </ul>
作業環境整備と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業マニュアル作成は原案の提案実施。環境整備は利用者との関係性や作業性を考慮して実施。</li> <li>② 活動場所やスタイル等から作業班と生活班の区別化実施。</li> <li>③ 利用者には解かる説明を心がけ、自助具の工夫等の支援実施。</li> </ul>
企業との関係強化と開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業提供企業への挨拶回りを実施。</li> <li>② 営業活動及び新規作業の開拓・協力等を実施。</li> <li>③ 作業内容及び契約の見直しと締結に関しては未実施。一定の作業量の確保や関係性の継続に繋がる契約の再考を継続実施</li> <li>④ 目標工賃達成指導員・職業指導員が役割内容を認識し必要な活動が出来るよう時間や書式等の整備継続実施。</li> </ul>

神戸地区事業再編の調整	① モニタリングに於いて事業移行に対する意思確認を実施。 ② 対象者の調整等は、今後も継続的に実施。 ③ 移行後の作業量確保と提供方法は共同受注を通じて一部実施。 ④ 事業再編部会(ワーキング部会含む)への参加を実施。
-------------	--

## 2. 研修

(法人内部・外部研修に参加、自主的で積極的な運用には迫っていない。)

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
人事制度運用委員会	5・6・10・11・ 12・2・3	市民福祉大学・新任職員研修	6
発達心理学講座	6・7・8・9・ 10・11・12・ 1・2・3	全国知的障害者施設協会 施設長会議	6
経営計画策定研修(全4回)	10・11・1・2	県知協研修・虐待事案報告	7
一般上級者研修	1・2	サービス管理責任者研修 相談支援従事者研修	7・8・10
課長研修	11	市知連研修 ・マイナンバー研修	9
キリスト教福祉講座	2	福祉のつどい	9
成年後見制度研修会 (サービス管理責任者対象)	2	市知連研修集団給食提供に関 わる研修会	10
法人総合職員研修	2	事例検討会議	10
成年後見基礎研修 (一般職員対象)	3	須磨区感染症対策研修	10
		市知連研修・法令順守	10
		地域広域活動セミナー	11
		地域みんなで支え愛	11
		地域生活チャレンジ研修	12
		市内特定相談支援従事者研修	1,2
		医と食とところをつなぐ研修会	1
		口腔ケア研修	2
		県知協新任職員研修	2
		事例から学ぶ疾病サインと対 応・メンタルヘルス	3

## 3. リスクマネジメント

### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
14 件	0 件	16 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
<del>避難</del> ・通報・消火訓練	3園合同避難訓練	10
<del>避難</del> ・通報・消火訓練	避難訓練	12
<del>避難</del> ・通報・消火訓練	せきもりは定例で実施	毎月

4. 地域交流

- ・自治会のイベント(夏祭りや学習会)に積極的に参加、求められる役割を担えるように協力、努力している。また、地域の年中行事にあがっている「おいでやすカーニバル」も須磨友が丘4園と本部、地域自治会、区社協が協力して実施。
- ・地域の活動である「あいさつ運動」や「門灯点灯」に協力実施。

(1) ボランティア

- ア) 個人：延べ 159名
- イ) 団体：延べ 19団体

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームながみね  
文責 施設長 加藤 成久

総括.

- (1) 法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止に関する取り組みは、法人・神戸聖生園等で実施した研修や資料をもとにサービス管理責任者を通じて周知を図りました。
- (2) 2014年度から利用率が高まったことで全体の収入は安定してきましたが、個々の利用率はあまり変化ありませんでした。利用者の高齢化とホームの場所（急な坂道の上にある）が抱える状況により、通勤や外出が困難になっている利用者がありますが、僅かでも利用機会を増やす努力を継続します。また、借地期限が2017年10月に迫ってきており、建物の移転を含めた利用者の将来ビジョンを具体化します。「候補地・候補物件の情報収集とプランニング～実施」2016年度は、この課題を最優先に取り組んでいきます。
- (3) 建物補修項目に挙げていた玄関スロープ・非常階段について、思うような補修ができませんでした。2016年度早々に着手し安心・安全の提供を図ります。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	職員組織体制についての提案	①職員体制と勤務の見直し未達成。 ・事業所の借地期限課題の具体的対応を継続実地、 ・同場所での継続利用は利用者の状況から見て困難個別に先のビジョンを深めていく事を継続。 ②センター化に向けた人員の確保・勤務体制の見直しを継続実施。
	建物の維持管理	①玄関スロープ・非常階段改修資材を購入実施。 ・次年度に入り早急に着手。 ②次の候補地及び物件の検討・企画立案継続して実施。土地・建物等の不動産情報の収集及び、本人・家族への説明と了承を継続実施。
サービス	法令順守・権利擁護・虐待防止のための支援	①成年後見制度の取り組みは個別に一部実施。 ②虐待防止の伝達研修を含む取組み継続実施。 ③定期・不定期訪問を実施。予定していた訪問回数は未達成。
	利用者の体調に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いを実施。 ②傷病時・緊急時の付添いを実施。2月には緊急入院する人が出たため対応。（現在は退院） ③ホームの場所と本人適性について検討継続実施。

	ホームの安心安全 (サービス管理責任者の働き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①サービス管理責任者の定期訪問は未達成。</li> <li>③地域との関わりに関しては新展開はなし。 ・世話人の参加できる活動範囲で継続実施。</li> <li>③課題に対し速やかな対応を実施。</li> <li>④大規模避難訓練は未実施。口頭・行動による避難経路の確認を実施。 ・通報訓練等を含めた訓練・震災時の行動確認等緊急対応について次年度継続実施。</li> </ul>
経営	安定的な収入の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用率向上の働きかけを継続実施。</li> <li>②週末帰省短縮(ホーム利用促進)の働きかけ実施。</li> <li>③日中支援加算の請求による収入増は継続実施。 ・帰省予定のない方は2名、具体的に検討を行う。</li> </ul>
	建物の修繕・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>①非常階段・玄関アプローチ・勝手口階段の補修資材購入を実施。自主的補修としたが時間を持てなかったため、次年度早々に着手する。</li> <li>②物品購入内容に対しその都度検討を実施。</li> <li>③敷地内の除草・清掃等出来る範囲で実施。</li> </ul>
	バックアップ体制の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バックアップ施設の緊急対応体制を実施。</li> <li>②支援者共有情報(支援マニュアル)作成は未実施。重要課題として次年度着手する。</li> <li>③世話人・支援員の補充活動は進展なし。</li> <li>④予定表提出徹底は未達成</li> <li>⑤年2回環境美化・除草は一部実施。</li> </ul>
人材育成	専門性の向上と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研修情報の提供を実施。</li> <li>②定期ミーティング・支援会議は未実施。 ・業務整理を図り時間確保を図る。</li> <li>③バックアップ職員にはホーム情報を共有。</li> </ul>

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個別支援内容の支援達成度を確認。</li> <li>②業務・事業報告と職員間の情報共有は世話人支援員間で実施</li> <li>③家庭訪問は未実施。家族との連絡は世話人を通じて実施 ・移設を含めた説明もあるため次年度に実施する。</li> <li>④ホーム支援に関わるマニュアル整備は未実施。 ・次年度の実施課題として着手する。</li> <li>⑤本人・他事業所を含めた調整会議は未実施。 ・移設を含めた支援が必要になるため次年度に実施する。</li> <li>⑥日中活動先訪問や、普段の連絡調整は世話人を通じて実施</li> <li>⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックは未達成。世話人・支援員の記録を不定期な確認とチェックを実施</li> </ul>

帰省状況の把握とホーム利用日数増加	①帰省状況の把握は報告書を通じて実施 ・バックアップ先への報告が遅延傾向である為、定期的な連絡・訪問確認を行っていく。 ②家族との定期的な連絡は世話人を通じて実施。 ・世話人による連絡に留まる。 ③利用日数増加については働きかけを継続実施。
余暇の提供支援とコーディネート	①各種イベントへの積極的な参加を実施。 ②余暇活動に於いて外出先の提案を実施。

## 2. 研修

(日中の外部研修については参加難しい。事業所内部研修の伝達研修で実施)

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
権利擁護・虐待防止について説明と資料配布	4		
法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止の伝達研修	隔月		

## 3. リスクマネジメント

### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
2件	0件	0件

### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	避難経路・災害時の行動について確認	5
避難・通報・消火訓練		

## 4. 地域交流

- ・護国神社のお花見
- ・ハロウィンのお菓子配布
- ・ゴミステーションの清掃など

### (1) ボランティア

ア) 個人：0名 (世話人の繋がりボランティアは多数あり)

イ) 団体：0名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホームしおや  
 文責 施設長 加藤 成久

総括.

- (1) 利用者のグループホーム利用率は今年度96%に到達。本人及びご家族の協力もあり週末帰省を工夫（土曜日の朝帰省、日曜の夕方に帰ってくる）してもらうことにより達成しました。これにより収入面は高い状態を維持できました。2016年度も働きかけを継続し、事業の安定を進めます。
- (2) 法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止に関する取り組みについて、法人・神戸聖生園等で実施した研修や資料を基にサービス管理責任者を通じて周知を図りました。限られたごく少数の職員で支援を行うため、法令順守等の意識付けと支援については常に意識して伝え続ける必要があります。今後も、「地域に開かれたグループホーム」と認識していただけるよう支援を行います。
- (3) 建物の耐震性強化・スプリンクラーの設置義務化を控え、ホームの将来の検討が必要です。また利用者の状況から夜勤体制の見直し、整備、確実な職員配置の検討を実施しました。2016年度へ向けて新夜勤体制を構築します。またグループホームのセンター化を具体化させる動きを推進していきます。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	職員組織体制についての提案	①職員体制・給与・勤務形態等の見直しを実施。 ・年俸制を廃止、時間給(臨時職員)扱いに変更する。残業等の連絡及び確認を細かに行うよう指導が必要。 ②センター化に向けた人材確保のため募集を実施。 ・勤務調整不調により採用には至らず。勤務体制の変更に伴い人材確保が急務。
	建物の維持・管理の依頼・協力	①洗濯機の排水溝新設を実施。 ②玄関扉の補修は未実施。 ・自主的修繕として考えていたが時間が持てず着手できなかった。2016年度に着手する。
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①成年後見制度の取り組みは1名の利用者に成年後見人(NPO法人きずな)が就く。 ・利用料の滞納状態となっていた利用者に就いたので計画的に返済することが決まっている。 ②虐待防止・身体拘束解除へ向けた取り組みを継続。 ③定期・不定期訪問を実施。予定していた訪問回数は未達成。

	利用者の体調に応じた支援提供	<p>①定期受診の付添い等を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独で受診する方には初診を付添い病院側に本人の特徴や傾向について事前説明を行うようにした。</li> </ul> <p>②傷病時・緊急時の付添いを実施。</p> <p>③利用者の状況に合わせた送迎を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの利用も含めて実施。</li> </ul>
	安心・安全な生活の提供 (サービス管理責任者の働き)	<p>①定期的訪問(4回/月)は未達成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務上都合により訪問回数を見直す必要あり。</li> </ul> <p>③地域との関わりに関しては進展持てず。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世話人の参加する活動に今後も委ねる。</li> </ul> <p>③課題に対し速やかな対応を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の起床時間・小遣いの使用方法・危険行為等に対して注意・支援を必要に応じて対応していく。</li> </ul> <p>④避難訓練は未実施。避難経路の確認等に留まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練・震災時の行動確認等緊急時の対応について2016年度に確認を行う。</li> </ul>
経営	利用率の確保	<p>①利用率96%を達成。</p> <p>②週末帰省の期間短縮を依頼実施。</p> <p>③日中支援加算を検討するが実施には至らず。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の支援体制の確保が進まず実施できず、次年度体制を整えば実施に向けていく。</li> </ul> <p>④体験利用は検討するが実施は見送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の構造及び耐久性の問題として体験利用者の部屋が用意できない。</li> </ul>
	建物の老朽化と修繕・コスト削減	<p>①老朽化・改修箇所に関して家主に相談し適宜実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震構造及び消防設備(スプリンクラー)の強化を控え、移設を含めた検討に入る必要あり。</li> </ul> <p>②自主的補修を適宜実施。</p> <p>③玄関扉の補修は未実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度で実施する。</li> </ul>
	支援者の給与体系見直し	<p>①勤務体制の見直しを実施。夜間支援体制を整える。</p> <p>②職員給与体制の見直しを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年俸制から時間制(臨時職員)扱いへ変更。</li> </ul> <p>③センター化に向けた人材確保を図るべく職員勤務と給与体制の整理を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集を継続し夜間支援体制を実施できるようにする。</li> </ul>
	バックアップ体制の継続	<p>①バックアップ施設(神戸聖生園)の支援体制は継続実施。</p> <p>②ホーム支援マニュアルの整理は進展せず。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は業務的に時間を持つことが困難であったため次年度に実施する。</li> </ul> <p>③ホーム周辺の除草・落ち葉掃き等適宜実施。</p>

人材育成	専門性の向上と情報共有	①研修情報の提供を実施。 ②クリスマス会（家族会合同）は未実施。 ・年間予定で意識的に定期実施することが必要。他の業務に追われ予定が立たなくなる。 ③定期ミーティング・支援会議は未実施。 ・業務整理を図り時間確保を図る。 ④バックアップ職員にはホーム情報を必要に応じて共有。
------	-------------	--

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の支援達成度を確認。 ②ケア会議は未実施。電話での対応や支援指示を実施。 ・2015年度は時間及び勤務調整が非常に困難であったが、2016年度に実施する。 ③家庭訪問は未実施。 ・移設を含めた説明もあるため2016年度に実施する。 ④ホーム支援に関わるマニュアル整備は未実施。 ・時間が持てなかったため2016年度着手する。 ⑤本人・他事業所を含めた調整会議は未実施。 ・移設を含めた支援が必要になるため2016年度に実施する。 ⑦年2回の日中活動先訪問は未実施。 ・移設を含めた支援が必要になるため2016年度に実施する。 ⑧ケア記録・業務日誌等の定期チェックは未実施。 ・2016年度に実施する。
帰省状況の把握とホーム利用日数増加	①帰省状況の把握は適宜電話連絡を実施。 ・バックアップ先への定期的な連絡・訪問は実施されている。 ②家族との定期的な連絡は未実施。 ・世話人による連絡は実施しているに留まっている。 ③利用日数増加については働きかけを実施。
余暇の提供支援	①季節に応じたイベントの提供は状況に応じて継続実施。

2. 研修

(日中の外部研修については参加難しい。事業所内部研修の伝達研修で実施)

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
権利擁護・虐待防止について説明と資料配布	4		
法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止の伝達研修	隔月		

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
1件	0件	1件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	避難経路・災害時の行動について確認	5
避難・通報・消火訓練		

### 4. 地域交流

- ・塩屋台夏祭りへ参加外出
- ・自治会清掃

#### (1) ボランティア

- ア) 個人：一名（世話人の繋がりに関わりを持ってくださるボランティアあり）
- イ) 団体：一名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームたいのはた東

文責 施設長 加藤 成久

総括.

- (1) 新しく多井畑東町に法人神戸地区5ヶ所目となるグループホームを開設しました。住民説明会を重ね、住民の方々からグループホームや入居者への不安や思いを聴取し、意見交換したことを反映した上で、2015年10月改修工事に着工、12月末完成、2016年2月1日に開所しました。3月には地域の自治会長、入居者家族、理事長、施設長、職員、5名の入居者と共に開所式の時を持つことができました。体験利用者の受け入れはまだ開始しておらず、2016年度開始に向けて準備を進めます。
- (2) 法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止に関わる取り組みや研修の実施に於いては、開所前に職員研修の一環として周知を図りました。利用者の安心と安全を守り、地域のお役に立てるホーム運営を目指します。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容（実績としては2月・3月の2ヵ月）

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	職員組織体制についての提案	①事業運営に必要な職員確保・勤務形態を構築。 ・夜間支援体制継続のため夜勤職員募集継続 ②センター化に向けた勤務体系を合わせて勤務職員募集。 ③事業開始3ヵ月前から職員研修・他事業所(ホーム)の見学・体験勤務を実施。
	建物の維持・管理	①建物本体は改修工事实施。防火設備の充実・個室の設置実施。 ・備品修繕・使い勝手を図るため棚・物干し場など自主制作を次年度も継続実施。 ・裏庭の除草・剪定など、周辺に配慮し定期実施。
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守・権利擁護・虐待防止の研修実施。利用者支援マニュアルの整備開始 ②スタッフ会議(毎月第3金)を実施。 ③開所前、成年後見制度理解に向けた研修を実施。
	利用者の体調に応じた支援提供	①定期受診時の支援・付添いを実施。 ②傷病時・緊急時の付添いを実施。 ③利用者の安全確認・通勤経路定着に必要な送迎を実施。

	安心・安全な生活の提供 (サービス管理責任者の働き)	② 距離的に近く訪問は折に触れて実施。 ②2015 年度は 2 月・3 月分、2016 年度から多井畑東町の準会員として自治会費を納める。 ・地域清掃やゴミステーションの掃除当番など地域での役割を今後も果たしていく。 ③問題や相談に速やかな対応を実施。 ④消防設備機器の取扱い研修を実施。
経営	利用率の確保	① 2 ヶ月経過。段階的入居を実施した。 ②本人・家族に週末帰省の短縮と協力を要請。 ② 日中支援加算は未実施。 ④体験利用者の受入れ時期を 6 月で調整。使用時のルール・契約書等の準備開始。
	コスト削減	①消耗品や調味料などのコスト削減を指示。 ・生活開始にあたり不足しているものが多かったが概ね整う。2016 年度は必要性を更に吟味していく。 ②水光熱費等の節約を指示。 ・実際金額を 2 月・3 月で精査。
	支援者の給与体系見直し	①勤務体制は夜勤入り(A)・明け(B)・日勤(C)で構成。 ②臨時職員・パート職員で構成。 ③日勤の仕事・役割など新たに設定。利用者支援を間接的に行う仕組みを構築。
	バックアップ体制の継続	①バックアップ施設(神戸聖生園)の勤務体制継続。 ②バックアップ職員へ支援内容の提示と支援協力を求め送迎・見守り支援を実施。 ③除草作業・剪定など環境美化を実施。
人材育成	専門性の向上と情報共有	①専門研修の情報提供と参加 ③ 開所にあたり個別に連絡をとって実施。 ・2016 年度からは、年 2 回の家族会を実施していく。 ③毎月第 3 金 14:00～定期職員ミーティングを実施。 ④ホームの業務日誌を毎日 FAX 報告で確認し共有。

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・定期的な支援達成の確認。 ②世話人・サビ管・職制を含めたケア会議の実施。 ③家庭訪問実施(モニタリング・個別支援計画説明)。 ④ホーム支援に関わるマニュアルの整備・充実。 ⑤利用者支援に必要な調整会議の実施。 ⑥日中活動先の定期訪問(2回/年)。 ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックの実施。

帰省状況の把握・勤務体制の確立と ホーム利用日数の増加	①週末帰省、夏季・年末年始の帰省状況の把握。 ・利用者予定表の提出及び勤務表作成に伴い前もって確認。 ②家族との定期的な連絡を実施。 ④ 日数増加に必要な支援を実施。 ・帰省の取り止めなど急遽変更となった勤務に対してバックアップ施設で対応。
余暇の提供支援	①季節に応じたイベントとして4月の花見を実施。 ・今後は、誕生月の外食・バーベキューなど家族や地域を巻き込んだイベントを計画。 ②月1回で「小さな礼拝」（歌とお話とおしゃべり）の時を実施

## 2. 研修

（概要を記述：本年度は主に開所前の人材育成研修を実施）

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
法令順守・権利擁護	11・12	感染症対策研修	1
成年後見人制度	1		
消防設備機器取扱い	1		
夜勤勤務体験研修	12・1		

## 3. リスクマネジメント

### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	件	0件

### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	消防設備機器取扱い（職員）	1
避難・通報・消火訓練	避難経路等の確認訓練（入居者・職員）	2

## 4. 地域交流

- ・住民説明会（2015年3月・7月・11月）
- ・住民内覧会（2016年1月）
- ・近隣挨拶回り（2016年2月）
- ・開所式（2016年3月）

### (1) ボランティア

- ア) 個人：0名
- イ) 団体：0名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 せいれいやさかだい

文責 施設長 高瀬 菜穂

総括.

- (1) 関係法令によってシミズ事業所と林タオル事業所の統合を断念し、安全性を向上する為、7月に林タオル事業所の活動場所を2階に移転しました。利用者ニーズに応じた安定的な事業運営を目指して、事業再編部会では、神戸聖生園、神戸友生園、せいれいやさかだいの三園を対象に絞り事業再編の方向性を検討しました。
- (2) 法人内施設や他法人との連携の下、年間を通じて障害者支援講座を10回開講し、5法人11事業所が参加し、知的障害・自閉症の特性理解を深めました。意思形成支援の重要性を学び、個々の専門性向上と地域の支援力の強化に取り組みました。
- (3) 友が丘事業所では、独居高齢者を含む地域住民とのサロン活動が定着し、安定した交わりが保てました。地域の高齢者への軽作業の提供による居場所づくりを目標に掲げましたが、安定的な作業量の確保が課題としてあります。地域の事業者や民生委員との懇談など地域ニーズの把握に向けた取り組みを開始しました。
- (4) 神戸聖生園からの給食提供について神戸市より指導を受けました。安全性を最優先し、10月から株式会社ラフトに委託開始。可能な限り利用者の意向を反映できるよう給食業者との調整を綿密に実施しましたが、調理形態や提供品目に制限があり、利用者の満足につなげるためには、更なる改善が必要な状況です。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・利用者ニーズに基づく事業再編	①ニーズ調査を基に利用者3名が友が丘事業所へ移行し、健康活動や生活活動に軸足をおいた支援を提供 ②事業再編部会にて友が丘三園の利用者ニーズの明確化と方向性検討 ③7月に林タオル事業所2階に移転
	・親亡き後の生活支援の具現化	①グループホームたいのはた東に2名の女性利用者入居(2月) ②家族会主催のグループホーム運営に関する学習会実施(9月)
	・地域に開かれたサービス提供	①地域ニーズの把握に向け、地域事業者や民生委員との懇談会・見学実施。 ②毎月1回、サロン活動を実施。地域高齢者との日常的な交流活動継続実施

サービス	・人権擁護の推進	<p>①面談や家族会を通じて成年後見制度の活用推進。新たに単身生活者1名（本人申し立て）のNPO法人との連携着手</p> <p>②虐待防止に向け、毎月の職員会議にて支援基準を協議、支援観の共有、職場風土づくり実施</p> <p>③第三者委員との利用者交流は、月4回実施</p>
	・つながりを創る支援力の強化	<p>①利用者を取り巻く複合的な社会問題の理解については事例報告を通じて多問題家族の情報共有</p> <p>②特定相談支援事業所との調整会議を含め26回の他機関との調整を通じて社会資源の活用支援、関係機関との連携強化</p> <p>③地域ボランティア新たに2名が継続的支援に参加</p> <p>④地域の支援力向上を目的に障害者支援講座を10回実施（5法人11事業所、262名が受講）</p>
	・利用者主体の支援	<p>①学習を基に障害特性に配慮した情報提示やコミュニケーションツールの活用推進</p> <p>②日常生活における選択活動について取り組みを実施、意思決定支援の充実を模索</p>
	・リスクマネジメント	<p>①地域や協力企業との連携の基、避難訓練実施。</p> <p>②外出時の利用者所在不明対応マニュアル作成</p> <p>③ヒヤリハット報告を毎月の職員会議で情報共有、分析が課題</p> <p>④非常用備品の整備、マニュアル作成、次年度の課題</p> <p>⑤林タオル事業所に防火壁・誘導灯設置（7月）</p> <p>⑥友が丘事業所に誘導灯設置（8月）</p>
経営	・利用率の維持向上による安定的収入の確保	<p>①生活介護は、新規利用者2名は安定的な利用率維持。年度途中の法人内他事業所から移行者も安定利用にて利用率向上。</p> <p>②就労継続B型利用者1名9月に退所。12月に1名利用開始。サービス目的と利用者ニーズとのミスマッチ課題。</p> <p>③半日活动（22回）の利用率は、60%。</p> <p>④SS中の送迎サービスは定着。利用率に反映</p> <p>⑤支援学校からの体験実習受け入れ、2名が次年度から利用開始</p> <p>⑥支援区分の見直しによる区分変更（5名）</p>
人材育成	・法人理念に照らしたキリスト教理念の具現化	<p>①毎週月曜日、法人理念唱和と職員会議における理念の共有</p> <p>②法人キリスト教福祉講座受講（2名）</p> <p>③牧師によるキリスト教福祉講座（内部研修・5月）</p>

・専門性の向上	① 障害者支援講座を初任者中心に受講、支援の専門性向上に向け研鑽 ②事例検討会については、情報共有の域で次年度の課題 ③見える化支援について総合職員研修会にて発表・入賞 ④成年後見制度や権利擁護について内部研修及び外部研修受講
・メンタルヘルスの維持	①ストレスマネジメントの研修は未実施 ②年 2 回のヒヤリングの実施と適宜支持的面談実施

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護

課題	実施内容
・個別性に配慮した安心安全なプログラム提供	①壮年期利用者への健康活動の充実による姿勢の改善・筋力向上 ②送迎サービスの実施（述べ 1241回） ③あんま・マッサージ・指圧師によるマッサージ（述べ 183回）
・体力維持プログラム・健康活動の充実	①日々のウォーキング・筋力低下予防の体操継続実施 ②歯磨き支援の徹底と歯科健診によるチェック実施 ③歯科受診困難者の同行支援実施 ④嘱託医の訪問・看護師による血圧及び健康相談実施
・将来の生活像を見据えた支援	①グループホームでの生活に向け、生活力向上 ②アクションワークショップによる発信力の向上支援 ③移動支援や居宅介護の活用促進 ④福祉サービスの利用促進による支援の社会化促進

ii) 就労継続支援B型

課題	実施内容
・就労支援機能の充実	①体験実習に向け面談実施、意向確認。次年度実施 ②職員のスキルアップ課題 ③法人内事業再編部会にて共同受注ワーキングにて新規作業開拓 ④「施設外就労」を近隣事業者に提案するも合意に至らず
・障害特性に応じた作業環境の改善	①構造化による情報の制限 ②情報の個別化 ③成功体験の積み上げによる意欲醸成
・体力維持・健康活動の充実	①毎朝のラジオ体操や筋力トレーニングによる粗大運動を通じてボディイメージ醸成 ②歯磨き支援の徹底と歯科健診による歯疾患予防チェック ③嘱託医の訪問・看護師による血圧及び健康相談実施

2. 研修

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
障害者支援講座（知的障害・自閉症の障害特性の理解と支援力の強化・10回）	5月～3月	自立支援協議会事例検討	4月
人事考課評価者研修	5月,7月	感染症対策特別講座	7月
キリスト教福祉（全職員）	5月	北摂杉の子会研修セミナー（認知症研修）	7月
フォローアップ研修	5,10月	県知協施設長研修	7月
メンタルヘルス研修	7,8月	北須磨団地自治会主催・ささえ愛学習会	11月
ラインケア研修	7,8月		
成年後見制度実務研修	2月	ひょうごかぞくねっと中央研修会	11月
キリスト教福祉講座	2月	成年後見制度実務研修	1,2月
精神障害講座（鬱病）	2月	地域ケア会議	3月
総合職員研修研究発表会	2月		
成年後見制度基礎研修	10,3月		
上級職員研修	1,2月		

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	なし	件	件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
22件	4件	18件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	林タオル事業所	2月
避難・通報・消火訓練	シミズ事業所	3月
避難・通報・消火訓練	友が丘事業所	3月

### 4. 地域交流

友が丘事業所では、毎月1回「サロン活動」と称して地域の高齢者を招いて利用者とともに昼食作りに取り組むと共に看護師による血圧測定を実施。地域の介護事業者や民生委員との懇談や見学、情報交換を行い地域ニーズの把握に努めると共に、地域行事に積極的に参加し、情報収集や啓発活動に取り組んだ。

#### (1) ボランティア

ア) 個人：525名

イ) 団体：0名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸愛生園

文責 施設長 有川 洋司

総括.

- (1) 支援区分の高いご利用者を積極的に受け入れると共に、ティータイム・くつろぎの場として第一作業室の有効活用、ゆったりとした入浴時間確保のため、希望者に午前浴を提供する等、サービスの内容とプログラムを見直しました。
- (2) ご利用者全員を対象に歯科医、歯科衛生士による出張歯科検診を実施し、必要な方には継続した口腔ケアを提供しました。
- (3) ご利用者・ご家族・職員合同の成年後見制度研修会を開催し、成年後見・任意後見に関する理解・知識を深めると共に、実際の利用に向けた啓発・支援を行いました。
- (4) ご利用者個別使用の家電製品について、真生園と共同でワット数、使用時間調査を行い、データに基づく家電製品ごとの料金を設定し、有料化に踏み切りました。
- (5) 2015年度改修工事として、空調機器更新、電気式給湯器への更新、給湯配管更新、キュービクル増設、污水管改修、トイレ全面改修、ナースコール更新（PHS タイプ）工事を実施し、長年の懸案事項であった居住環境が大幅に改善されました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	サービスの質向上の取組	①IS09001 要求規格に基づいたマネジメントフロー、目標進捗管理表を整備。また、模擬内部監査を実施。次年度認証予定。 ②満足度調査未実施。 ③研修制度構築委員会で作成した計画に沿った内部研修を実施。
	重度心身障害者の積極的な受入と貢献（地区）	①介護従事者による吸引等医療行為実地研修へ1名参加。 ②新規短期入所事業利用契約7名。入所利用者の介護度増、支援員の技量の影響により積極的な受け入れは未達成。
	施設整備・老朽化への対応	①保全計画に基づき、火災感知器、火災非常通報装置、PHS15 台を取替え。 ②施設機能については未検討。 ③建替（またはリノベーション）については、友が丘地区としても検討していくことを確認。

	地域貢献への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域に向けた研修会は未開催。</li> <li>②随時、地域住民に介護福祉機器等の情報を提供。</li> <li>③生きがい作りの場として積極的にボランティア活動を受入。</li> </ul>
サービス	利用者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者の思いに沿ったケアプランを立案、半年後及び必要時にモニタリングを実施。</li> <li>②ケアプランに基づいた支援を実施。</li> <li>③対象利用者への PT によるリハビリテーションの実施</li> <li>④「虐待防止チェックリスト」を年 2 回実施。不適切と思われる事例については、調査、面談を行い今後の支援、接遇の方向性を職制会議で検討のうえ周知。</li> </ul>
	人権尊重のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>①任意後見人選任 1 名、手続き中 1 名、取り組み中 2 名。</li> <li>②毎週月曜日の朝礼、各部署会議にて基本理念・基本方針を唱和。全体職員会議、新規職員研修にて虐待防止の取組みについて講話。</li> <li>③年間を通し接遇強化週間実施。</li> </ul>
	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員による毎月の福祉機器点検と業者による年 1 回の点検とメンテナンスを実施。</li> <li>②2 か月に 1 回緊急時対応訓練を実施。</li> <li>③リスクマネジメント委員会によるヒヤリハットの提出推進、アクシデント発生時にはリポート作成を通して原因の分析と対策を共有。気づき力向上を目的としたトレーニング実施。事故発生率の高い月（9 月、12 月）には注意喚起を実施。</li> <li>④火災、自然災害を想定した避難訓練を実施。</li> <li>⑤災害発生時の職員間の連絡網作成、外部への連絡体制は未構築。</li> <li>⑥非常備蓄食料 1 週間分及び感染予防対策備品等を常備。</li> <li>⑦災害時マニュアルを整備するが周知は不十分。</li> </ul>
経営	安定した介護給付費収入の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日々の健康管理、早めの受診により入院者数大幅減を実現(2014 年度のべ入院者数 617 名から 2015 年度のべ 370 名。247 名減)。</li> <li>②リハビリテーション加算対象者 2 名増。</li> <li>③入所・通所連携、情報共有により、短期入所利用中の生活介護利用 6 名増。</li> <li>④通所利用者受け入れ 1 日 12.8 名を達成。</li> </ul>

	コスト削減への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①リース・定期保守契約の見直しは未着手。</li> <li>②光熱水費の削減のための啓発は全職員には及ばず。</li> </ul>
人材育成	法人理念の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>①週1回朝礼にて、神戸愛生伝道所牧師によるメッセージを実施。</li> <li>②毎週月曜日の朝礼にて法人基本理念及び神戸愛生園基本方針を唱和。</li> <li>③法人開催のキリスト教福祉講座へ参加。</li> </ul>
	課長、主任等、次世代人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全体職員会議、各部署会議にて組織図を共有しそれぞれの職責について確認。ラインを基本としつつも、部署を超越した協力関係・連携の重要性について確認。</li> <li>②法人内外研修に積極的に参加。OJTを含む園独自研修についても積極的に実施。</li> <li>③リーダー、委員会委員長、エルダーの経験を通して人材育成を実施。</li> <li>④職制会議、職制連絡会にて管理職、リーダーとしての考え方を意識して共有。</li> </ul>
	専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活支援員、看護師、栄養士、調理員の各専門研修に参加。</li> <li>②育成、フォローの為にエルダー職員へ定期面接を実施。</li> <li>③嚙下検査、看取り、介護技術、リスクマネジメントについての勉強会、グループ研究発表を実施。</li> <li>④定期的に介護技術自主勉強会を開催。</li> </ul>
	社会的使命の遂行と社会資源の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実習生、体験学習生を積極的に受入。</li> <li>②ボランティアを積極的に受入。</li> <li>③人材育成、確保を意識した実習指導、ボランティア対応の実施。</li> </ul>
	労働環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>①超過勤務状況の把握と労働者へのヒアリングを実施。</li> <li>②天井走行リフト3基導入。</li> <li>③労働者の疲労蓄積度自己診断チェック及び職業性ストレス簡易調査表でのストレスチェックを実施（各年2回）。</li> </ul>

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
安心、安全な介護の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>①定期的に介護研修を実施。月1回自主勉強会を開催。</li> <li>②2名嚥下検査受診し食事形態を変更。</li> <li>③生活支援員の動線、備品等の管理効率向上のために、配置、収納方法を改善（通所）。</li> <li>④生活プログラムの内容、時間、勤務形態を見直し、本格導入に向けて試行実施（入所）。</li> <li>⑤天井走行リフト3基増設（入所）。</li> <li>⑥エルダー制による新着職員トレーニングを実施（入所）。</li> </ul>
日中活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①音楽レクリエーション、個別ニーズ対応、近隣外出、日帰り遠方外出、創作活動を実施（通所）。</li> <li>②利用者及び職員体制の状況により、個別ニーズへの十分な対応は出来ず（入所）。</li> <li>③介護体験実習生をイベントや外出のボランティアとしての受け入れ（通所）。</li> </ul>

ii) 施設入所支援事業

課題	実施内容
中間施設としての役割の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域移行支援を実施するも当該利用者の状況により取り組みとして不十分。</li> </ul>
生活空間の環境改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>①朝の10分間清掃を実施。</li> <li>②防臭の基本を徹底。</li> <li>③設定した基準に基づいた温度・湿度調整を実施。</li> </ul>
体調の見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>①体調不良者の診察、投薬治療の実施、状態に応じて他院への診療情報を提供。</li> <li>②神戸市内の感染症発生動向情報を把握し、基本的感染対策を実施。</li> <li>③1日2回体調を崩しやすい利用者のバイタルサインを測定。看護師と生活支援員との連携による状態の見守り、急変時に対応。</li> <li>④新たな協力病院を模索するも、未決定。</li> </ul>
穏やかな終末に向けての取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①看取り支援について学習会を開催。</li> <li>②エンディングノートを作成。活用については次年度持越し。</li> </ul>
「ハートフルキッチン」の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>①7月に嗜好調査を実施。</li> <li>②誕生日会食を充実し献立のリクエストに対応。</li> <li>③利用者の体調に合わせ食事の提供。</li> <li>④マニュアルに基づき備蓄品を管理し日常の献立に活用</li> <li>⑤調理技術向上に向け内部実践を充実。</li> <li>⑥レシピ集の作成に向けマニュアルを作成。</li> </ul>

iii) 短期入所事業

課題	実施内容
利用ニーズ増加への対応	①新規契約 7 名。緊急利用の方が主となり、待機者の解消には至らず。 ②入所利用者の介護度増、支援員の技量の影響により積極的な受け入れ増、勤務体系見直しは未達成。
重度障害者の受け入れ	①介護従事者による吸引等医療行為研修へ参加。看護師の勤務体制変更により、看護師を含む有資格者による朝の経管栄養対応を増加。 ②短期入所居室に天井走行リフト 1 基設置。

iv) 神戸愛生園診療所

課題	実施内容
重度化・高齢化による機能、抵抗力の低下	①口腔ケアのセミナーを開催。 ②年 2 回の健康診断を実施。 ③インフルエンザ予防接種（270 名）、肺炎球菌ワクチン接種（1 名）の実施。 ④随時健康相談を実施。 ⑤健康診断結果表の発行（7 月）、再検査者へ結果表発行（9 月、3 月）。
状態の観察と変化への対応	①症状に応じた適切な治療を実施。
職員の健康管理	①職員への健康指導を実施。

2. 研修

年度始めに研修構築委員会と主任会にて研修計画を立案。職員体制が厳しい中で多くの研修に参加できるように努めましたが、年間を通して一度も研修に参加できなかった職員も多く、研修を通じたスキルアップ・モチベーションアップに繋げることはできませんでした。支援員が受講した研修のフィードバックも不十分で、システム構築が課題です。

内部研修については、主に経験年数の浅い支援員対象として介護技術習得を目的とした研修を実施することができました。通所を中心に実施した自主勉強会と併せて、安全、安心な介護の実践に生かしたいと考えます。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新任職員独自研修	4・6	障がい福祉施設新任職員研修	6
介護の基本研修	4 月（3 回）	救急安全講座	6
緊急時対応訓練	4・8・12	介護技術ステップアップ研修	6・7・8・9・11・12・1

オムツ勉強会	7	主任者研修「自分の業務負 荷を減らす」	7
介護技術勉強会（気付きト レーニング）	8・12・2	口腔ケアと栄養ケア研修	7
口腔ケア研修	11	自立支援のための福祉用具 のポイント研修	8
利用者体験	4	介護職員等によるたんの吸 引等の研修（2号研修）	8・9
		全障協研究大会	7
		近障協研究大会	11
		須磨区感染症対策実務者連 絡会	7
		実習指導者研修	11
		チームアプローチ実践研修	9・10・11・12
		医療福祉介護分野の未来を 切り拓くロボットテクノロ ジー	10
		リスクマネジメント研修	1
		栄養士・調理師研修	1
		神戸市特定給食施設研修会 （栄養士・調理員）	7

### 3. リスクマネジメント

苦情については、予定連絡会、運営会議、家族会、通所連絡帳を通して伺い、情報共有、早期対応に努めました。2015年度は昨年度にも増して支援員の慌ただしさの改善を求める要望が多くありました。2016年度の体制を考慮し、年度後半から改善についての話し合いを重ねて試行を実施しました。慌ただしさの軽減には至らず、身近介護についての要望にも全て応じることができていないことが課題として残っています。

事故・ひやりハット報告については、薬に関する事案が最も多く、長年の課題が解決できていません。マニュアルの確認と徹底が急務であり、注意喚起を続けていきたいと考えます。

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
33件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コール対応支援員を増やしてほしい。</li> <li>・特定利用者の支援員への態度</li> <li>・設備の改善</li> </ul>	31件	2件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
70件	3件	85件

### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
非常通報訓練	捏感知器を作動させて発報。火災受信機の見方、初期消火までの対応方法、避難誘導までの指示方法についての訓練実施。	1月
A棟協力夜間想定避難訓練	上記に加え、職員の自衛消防隊及びA棟住民による搬送救助協力等、総合訓練を実施。	8月
三園合同避難訓練	総合訓練実施、火災時の友が丘三園の連携確認。	10月
消防設備保守点検	年2回の設備総合点検、外観・機能点検及びスプリンクラー設備点検実施。	5月、6月 12月

### 4. 地域交流

北須磨団地A棟管理組合役員会への出席、消火訓練の共同開催、花火大会への地域住民の方々のご招待、近隣教育機関の実習受け入れや活動への参加、地域行事への参加等積極的に地域交流を図りました。

#### (1) 行事等

- ・神戸総合医療専門学校運動会参加（4月）
- ・神戸市立多井畑小学校見学（5月）
- ・北須磨団地A棟管理組合自治会役員会参加（7月）
- ・須磨友が丘高等学校職場訪問
- ・須磨 網敷天満宮 天神祭の神輿来園（7月）
- ・六甲学院夏の奉仕活動受け入れ（8月）
- ・北須磨団地ふるさと祭り参加（8月）
- ・花火大会開催（8月）
- ・おいでやすカーニバル開催
- ・神戸大学医学部保健学科名谷祭参加（10月）

#### (2) ボランティア

- ア) 個人： 延べ365名
- イ) 団体： 11団体 延べ346名
- ウ) おいでやすカーニバル： 個人ボランティアと15団体 合計159名

#### (3) 実習生

延べ277名（神戸総合医療専門学校による体験実習77名と教員養成課程「介護体験」85名を含む）。

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 すま障害者地域生活支援センター  
 文責 施設長 有川 洋司

総括.

- (1) 法人の基本理念のもと、地域で生活する障害者(児)とその家族等からの相談に対し必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係機関との連携を図り適切な障害福祉サービスを利用調整するなど、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。
- (2) 須磨区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の特性に応じたテーマ別部会などを通じて様々な活動を実施しました。
- (3) 当該事業を受託運営して約2年が経過しました。法人理念に掲げる相談者の人権、意思を尊重しながら、地域の関係機関との信頼関係を大切に、障害のある方が住み慣れた地域で安心して生活を営むうえでの様々なニーズに柔軟に対応しながら、丁寧な相談支援を実施しました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	(地区) ・障害者総合支援法に対応し地域に根差した相談支援体制の整備	① 計画相談支援（サービス等利用計画）の作成推進を実施。（新規/更新 185 件、モニタリング 70 件） ② 障害支援区分認定調査を実施。（169 件） ③ 委託調査（勘案 308 件、移動支援 21 件、訪問入浴 2 件）を実施。（331 件）
サービス	・個々の相談者に寄り添った相談支援サービスの提供	① 相談者、ご家族、関係機関等からの多様なニーズに柔軟に対応。（5,544 件） ② 障害種別を問わず、児童から成人までライフステージに応じ生活全般の相談支援を、関係機関と連携しながら丁寧に実施。
	・権利擁護の推進	① 成年後見制度に関する相談や虐待（身体的、経済的）に関する相談等、内容に応じた相談支援を実施。（虐待相談 3 件）

経営	・委託事業の特性を踏まえた対応	① 障害支援区分認定調査を実施。(169件) ② 委託調査(勘案308件、移動支援21件、訪問入浴2件)を実施。(331件) ③ ①②の委託調査を担いつつ、可能な限り、計画相談支援(サービス等利用計画)の作成推進を実施。(新規/更新185件、モニタリング70件)
	・メンタルヘルス対策	① 毎朝、朝礼後にラジオ体操を実施。 ② 少数職場かつ支援の継続性が高い相談支援の特性を踏まえ、有給休暇の積極的取得を推進。 ③ 職員の精神的フォローを主とした面談を定期的実施。(6月、10月、2月)
人材育成	・キリスト教理念の浸透	① 毎月の職員会議、ケース会議時に全職員で法人理念を唱和し、法人理念に触れる機会を実施。 ② キリスト教福祉講座、法人総合職員研修に参加し法人理念の学びを深める機会を実施。
	・専門性の向上	① 専門性の向上を図るべく積極的に研修参加を実施。(33回、延べ43人)

(2) 各事業の課題・状況

i) 相談支援事業

課題	実施内容
基本相談支援の徹底 (困難ケースへの対応)	① 相談者、ご家族、関係機関等からの多様なニーズに柔軟に対応。(5,544件) ② 複雑な課題を抱えるケースにおいて、関係機関との連携による個別支援会議を実施。(7回)

<p>地域のニーズへの対応 (区自立支援協議会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 神戸市地域自立支援協議会 事務局会議に参画し、各区自立支援協議会から抽出された 11 の課題について協議を深め、2つのテーマ別部会「人材育成」「情報」の立ち上げを具体的に協議した(8月、10月、12月)</li> <li>② 就労支援部会：就労ニーズをお持ちの当事者向け就労支援セミナー(11月)、支援者向け事例検討会(3月)を開催し就労意欲、支援力の向上を図った。</li> <li>③ すまいんど部会：事業所自主製品の質の向上と販路拡大を目的に、アンテナショップ「Sumarche」の開催(毎月)、「すまいんど冬のギフトセット」製作、販売(12月)を実施した。</li> <li>④ まなぼ一部会：支援者の資質向上と障害理解と啓発を目的に、事例検討会(4月、10月、11月)、映画「シンプル・シモン」上映会(3月)を企画、実施した。</li> <li>⑤ ともいき部会：災害時の要援護者支援のあり方や地域交流を目的に、須磨海浜水族館ふれあい交流会(2月)を企画、実施した。</li> <li>⑥ 親子部会：発達の気になる子どもを持つ保護者の支援を目的とした動作法研修(5月、9月、1月)を企画、実施した。</li> <li>⑦ グループピアカウンセリング：発達の気になる子どもの保護者同士の交流を目的に、専門のファシリテーター(准教授)によるグループピアカウンセリング(年間7回、延べ15名)を開催した。</li> <li>⑧ 地域の障害者団体や民生委員、身体・知的障害者福祉相談員、関係機関を対象とした連絡会(8月、12月)を開催した。</li> </ul>
<p>制度改正に伴う今後の事業展開の模索</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① センター連絡協議会、機能強化専門員連絡会、コーディネーター連絡会への参加を通して、神戸市所管課と、相談支援の現状、制度の課題等について情報共有、意見交換を図った。(毎月)</li> </ul>

## 2. 研修

障害者虐待防止、障害者差別解消をはじめとする権利擁護関係を中心に、目まぐるしく変わる福祉制度についての研修会等、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図った。

内容	実施月	内容	実施月
法人新採用職員研修	5月	障害福祉事務担当者研修	5月
障害支援区分認定調査員研修	5月	DV支援関係機関合同研修	6月

障がい福祉施設新任職員研修	6月	発達障害特性理解のためのMSPA研修	7月
カンザスモデル ケアマネージャー養成研修	7月	相談支援スキルアップ研修	7月
相談支援従事者初任者研修	7、8、9月	災害時要援護者シンポジウム	8月
リーダー研修 ファシリテーター養成編	8月	発達障害の理解と支援について	8月
相談支援従事者初任者研修 (ファシリテーター)	9月	神戸市相談支援機能強化研修	9月
発達障害専門職事例検討研修	9月	高齢障害者ケアマネジメント研修	10月
マイナンバー制度について	10月	面接相談スキルアップ研修	10月
法人新採用職員フォローアップ研修	10月	高次脳機能障害研修	10月
障害者地域生活支援従事者研修	11月	発達障害者支援機関関係職員研修	11月
法人課長研修	11月	サービスコーディネーション研修	12月
発達障害者事例検討会	12月	知ろう！話そう！ ～私たちの自立支援協議会～	1月
相談支援従事者現任者研修	1月	思春期のこころの不調、病気を抱える子どもを持つ家族に対する支援研修	1月
地域移行支援チャレンジ研修	1月	市内特定相談支援事業者研修	2月
障害者差別解消法研修	2月	発達障害専門職事例検討会	2月
精神疾患の理解と対応研修	2月	成年後見制度基礎研修	3月

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		0件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	—	—

### 4. 地域交流

須磨区自立支援協議会の事務局として、地域の課題に応じたテーマ別部会活動を通じて関係機関との連携のもと様々な地域交流イベントを開催、参加した。

#### (1) ボランティア

ア) 個人：なし      イ) 団体：なし

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸友生園

文責 施設長 井上 待子

総括.

- (1) 利用者のニーズにあったサービス提供できるように昨年実施したグループ分けの定着化に努めました。その中で、利用者への支援の不十分さも課題として上がり、OJTやOFF-JTでの人材育成の強化を図りました。
- (2) 送迎サービスについて、法人内施設とのコラボレーションについて検討をしましたが、障害種別の違いが大きな障壁となり実現は不可能と判断しました。
- (3) 一般就労に向けた支援を充実させるため、就労支援を中心に行う職員の人材育成のため、就労支援機関との連携や法人外の就労移行支援事業所などの見学を実施し、就労支援スキルの向上と、日々の作業提供にもジョブコーチモデルを利用した支援が出来るように勉強会を開催しました。
- (4) 法人内の就労継続B型事業再編部会内の「共同受注窓口ワーキング」の取り組みを開始し、法人内の就労継続B型事業所との共同受注を試行的に実施しました。
- (5) グループホーム設置に向けて、家族会役員と協力し見学会を企画し、利用者、家族共にバリアフリー化されているグループホームの見学を実施しました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	新たな支援プログラム	① 1グループ 一般就労を希望される利用者に対して、作業能力を把握するためにワークサンプルを考案。対象利用者を実施。 ② 2グループ 個別プログラムの作成には至らず、個別のニーズ把握に留まる。
	地域生活での安心・安全への取り組み	① 新たな送迎希望者に対して送迎を開始。 ② 法人内施設とのコラボレーションについては検討した結果、障害種別の違いから効果が薄いと判断し単独で実施するになりました。
	施設老朽化等改修工事	① 電気設備（PHS、放送設備など）の工事完了 ② 次年度実施予定であったトイレ改修工事については、女子トイレからの水漏れがあったことから急遽年度内に工事实施することになるが、見積金額と実際の工事費に大きな差異があったため工事着工は次年度となる。

	グループホームの設置に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個別支援計画面談で将来構想としてグループホームのニーズを聞き取る。</li> <li>② 家族、利用者に具体的なイメージを持ってもらう為に、見学会を企画し実施。</li> </ul>
サービス	安心、安全、快適な環境整備の為に各種の修繕を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① トイレの改修工事を計画。</li> <li>② 作業場内の整理（コンテナ等の置き場を写真で明確にし、利用者が主体的に作業準備が出来るように整えた。）</li> </ul>
	将来構想に向けた情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個別面談でニーズを把握</li> <li>② グループホームの見学会実施</li> </ul>
	目標工賃達成への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新作業取得に向けた営業活動の実施には至らなかったが、他施設からの紹介等で新たな取引先が増える。</li> <li>② 現有作業を見直し、取引先企業数をコントロール出来るように調整を行うが、作業工賃確保が優先されるため安易に取引を辞める事ができなかった。</li> <li>③ オリジナル作業として、ルイボスティ販売を検討。ルイボスティを友生園ブランド化の実現に向けて原材料仕入れ企業と調整を行う。</li> <li>④ 印刷作業を縮小し、特殊な印刷ノウハウが必要な作業については受託せず、法人内の印刷を中心とした。</li> </ul>
	作業評価基準の改定	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新評価基準に基づき次年度上半期に試行。微調整を行った後、下半期に運用開始予定。</li> </ul>
経営	安定的経営の模索	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 4月に新規利用者1名と契約。 青陽須磨支援学校高等部の実習、見学の受け入れを実施。</li> <li>② 法定日数の270日営業。</li> <li>③ 広報誌による寄付（¥31,000）・その他寄付金（¥382,742）</li> </ul>
	・経費削減への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 定時退勤日を朝礼や職員会議で周知徹底。水曜日については定着出来ているが、月・金は残業になることが多かった。 終礼で残業の時間を申告し職制がコントロールする習慣がついた。</li> <li>② 事務仕事は職員間で調整しながら就業時間内に行うよう工夫した。</li> </ul>

人材育成	・ 内部研修の促進	① 一般職員企画による内部研修を2月に実施。利用者対象に「人間の生きがいとは何か」職員対象に「体験を通してキリスト教社会福祉とは」を元ケースワーカーで自らも障害を持つ森村氏を講師に迎える。 ② 就労継続B型事業所への見学は未実施。 ③ 手話勉強会を年7回実施。 ④ 臨時職員対象の勉強会を年7回実施。 ⑤ 全職員対象に「支援の基本を学ぶ(虐待防止)」講師に津田耕一氏を招き実施。
	・ 障害特性の理解	① 神戸大学地域連携事業の支援で「うつ症状について」研修を実施。
	・ 職員会議	① 正規職員会議(通称やる会議)を上半期は月1回実施。下半期は正規職員が1名だけになり職員体制が整わない月が多く、職制のみで打ち合わせを行った。 ② 全体職員会議を月に1回もち、その中で事故、ヒヤリハット、苦情などの事例を検討、また研修や外部会議に参加した職員から報告する時間を持った。
危機管理	虐待防止・苦情解決	① 10月・2月に委員会を実施。第三者委員の訪問日を委員会実施後設定し、利用者、職員の様子確認。休憩時間に利用者との交流を持って頂き相談しやすい関係性の構築に努めた。 ② 虐待防止チェックリストを2回実施。結果について聞き取りが必要な職員との面談を行った。
	防災対策の推進	① 地震発生を想定した具体的対策は未検討。 ② 水、食料、簡易トイレ50人分×1日分を購入。 ③ 避難訓練を2回実施。

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労継続B型事業

課題	実施内容
職務分析により効率化を図る	① 職務分析には至らず、職員間で調整しあって事務時間を作る。 ② 作業担当を決め、業務の明確化を図った。
利用者・家族の高齢化問題への取組	① 緊急性の高い利用者を職員会議内で抽出したが、抽出したすべての利用者に対しての検討が出来なかった。
書類の整理(総務)	① 項目ごとのわかりやすいファイリングは概ね完了。

新プログラムへの取組	① 個別プログラム内容について検討を進めた。 ② 作業能力を把握する為にワークサンプルの活用を開始。 ③ 土曜日開所日に調理実習を実施。
年間行事の策定	① 年間行事と職務分担を年度当初に決め、役割分担を明確にした。

## 2. 研修

職員のスキルアップを目的とした勉強会や内部研修に力を入れた。

その他、外部研修など必要に応じて職員を参加させた。

また、講師派遣依頼があった研修についても積極的に受け入れた。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
手話勉強会	7回実施	心の健康センター主催「支援に役立つ精神疾患の基礎知識」	6月・7月
臨時職員対象「基本理念について」	5月	中部在障主催「セルフケア研修」	7月
臨時職員対象「利用者支援を学ぶ」	6月	須磨区保健福祉部主催「感染症対策実務連絡会」	7月
臨時職員対象「ケース記録の書き方」	7月	キャナル主催「メンタルヘルスラインケア研修」	8月
全職員対象「支援の基本について」講師：津田耕一氏	10月	神戸就業・生活支援センター主催「ラーニングセッション」	8月・9月
臨時職員対象「自己覚知」	10月	キャナル主催「ラインケア研修」	9月
臨時職員対象「個別支援計画・モニタリング①」	11月	「マイナンバー研修」	10月
臨時職員対象「個別支援計画・モニタリング②」	12月	「スキルアップ研修」	10月
神戸地区施設対象「うつ症状について」神戸大学地域連携事業支援	1月	神戸市主催「スキルアップセミナー」	11月
臨時職員対象「個別支援計画・モニタリング③」	1月	「キリスト教福祉講座」	2月
職員実地研修「クロスジョブ神戸セカンド」	1月	市民福祉大学主催「社会福祉中堅職員研修」	2月
		法人研修「総合職員研修」	2月
		須磨区自立支援協議会「事例検討会」	3月
		JC-NET 主催「JC ネット会議」	3月

＊講師派遣

1. サービス管理責任者「就労分野」ファシリテーター
2. 須磨区自立支援協議会事例発表
3. 須磨区自立支援協議会「事例検討会」ファシリテーター
4. 姫路市地域自立支援協議会「事業者部会」講師

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
6件	職員の対応についての苦情（6件）	6件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
7件	0件	5件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	神戸友生園避難訓練	3月
避難・通報・消火訓練	友が丘3園合同避難訓練	10月

4. 地域交流

神戸総合医療専門学校学生の体験実習及びボランティア受け入れ  
多井畑小学校3年生の福祉体験授業

(1) ボランティア

ア) 個人：51名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸光生園

文責 施設長 吉本 ひろみ

総括.

- (1) 生活介護事業では新たなプログラムとして「ボールエクササイズ」を取り入れました。講師の指導のもとでご利用者の身体機能の維持・向上を目的として個別支援計画で必要とされた方への支援として始めました。また、地域のデザイナーと協働し、ご利用者の個性を活かした新しい自主生産品の試作に取り組みました。創作活動にも引き続き力をいれ、後期からは月に一度講師によるアドバイスを受ける機会を設けました。作品展にも多くの方が意欲的に出品され、受賞されました。
- (2) 3年目となった「手作り味噌」は前年度の約倍量を生産しましたが、年度末ではほぼ完売となりました(645個)。もう少し長い期間販売ができるように更に仕込みを増量(約900個分)しました。神戸市の「ふれあい商品・商品力向上支援制度」を利用し、味噌を使ったレシピブックを試作しました。長年取引のあった「アンテナ作業」が取引終了となりましたが、法人全体での共同受注システムを活用し後半は安定した作業量の確保ができました。
- (3) 2015年度は年間を通じてほぼ4名の利用がありました。新規実習先も開拓し雇用(2016年度)にまで繋がりました。他にも2名が雇用・内定と実績を上げることができました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	地域での自立生活支援(地区)	① グループホームの円滑な運営をバックアップ施設として支え、利用者の緊急対応、余暇支援、医療面での支援調整等を実施 ② センター機能の構築に向けてグループホーム部会のサービス管理責任者ワーキングで試験的に世話人会議への参加を実施
	事業展開の再検討(地区)	① 「就労継続B型」では引き続き神戸地区の事業再編部会と連携し共同受注ワーキングに参加し、作業量を安定的に確保
	施設老朽化対策(改修)	① 1階作業場の内、生活介護事業エリアの床張替及び内装改修、1階の照明・2階の一部の照明をLED化、食堂内装改修を実施 ② 2階男女トイレを1か所ずつ温水洗浄便座に改修

サービス	満足度調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 満足度調査を実施（調査対象者数 93 名 回答者数 70 名 回答率 75.3%）回答者の 70～75%の方がサービス・職員・施設環境について満足という結果</li> <li>② トイレが冷たい、寒いというご意見が多かったので改善を検討</li> </ul>
	マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 前年度作成した業務マニュアルの見直しは実施</li> <li>② 支援マニュアルはサービス管理責任者会議に於いて統一化を目指し取組み途中</li> </ul>
	創立 30 周年記念事業を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10 月 3 日に垂水レバンテホールで記念コンサートを実施し、利用者の活動を披露、ゲストに和太鼓松村組が演奏</li> <li>② 記念品としてトートバッグ、ポストカード、キャンドルを利用者と製作し配布</li> </ul>
経営	利用率の安定維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就労移行事業は平均利用者数 3.3 名、平均利用率 54.6%（目標 33%）、多機能全体では平均利用者数 81.3 名、90.3%</li> <li>② 送迎サービスの拡充（ルート変更及びおおまち便の活用により 5 名増員）、個別送迎実施</li> <li>③ 暦日－8 日の「法定開所日数」を実施（△2 日）</li> </ul>
	設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業用車両老朽化に伴い 2015 年度の共同募金受配事業に車両購入費用を申請（2016 年度事業内定）</li> </ul>
人材育成	キリスト教理念の浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 朝礼時、讃美歌の斉唱・月曜日は基本理念の唱和、火曜日から金曜日は施設基本方針を唱和</li> <li>② 法人キリスト教研修への職員参加</li> <li>③ 毎週の礼拝の牧師のメッセージを通して、キリスト教思念に触れる機会を持つ</li> </ul>
	専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実習指導者講習を 1 名受講</li> <li>② 内部研修、外部研修に積極的に参加し支援力の均一化に取り組む</li> <li>③ 専門実習として神戸女子大学 3 名、神戸学院大学 2 名、関西国際大学 1 名を受入実施</li> </ul>
	虐待防止・人権擁護の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 接遇向上委員会（たのしい光生園を作る会）の活動を継続し、利用者支援における接遇やより良い支援を考える場とし、月 1 回事例検討会を開催</li> <li>② 同委員会で新たに虐待防止スローガンを作成し、朝礼時に唱和</li> </ul>

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労移行支援事業

課題	実施内容
関係機関との連携	① 北部就労推進センター、西部就労推進センター、ハローワーク神戸、職業センターとの連携を行い、就労支援を実施（年度内2名の就労実績・内1名就労A）
関係機関との連携	① 神戸・三田地域障害者雇用連絡会議、及び神戸地域障害者雇用・就労支援ネットワーク会議に各2回参加。就労の動向や法制度（就労継続支援B型のアセスメント・障害者差別解消法等）の確認、各関係機関との情報交換・連携を実施 ② 自主生産品を販売委託している高齢者事業所を実習先として新規開拓、雇用へ繋がる（次年度雇用内定） ③ 就労先への定期的な訪問を行い、定着支援を強化
新規利用者の確保	① 青陽西養護学校、青陽須磨支援学校、いなみ野特別支援学校等、近隣の学校や地域生活支援センターと連携し、積極的に実習を受入 ② 就労移行支援事業のパンフレットを作成、随時活用

ii) 就労継続支援B型事業

課題	実施内容
作業提供の充実	① 個別の作業環境の整備、意思確認や理解しやすいプログラム提供などを実施 ② アンテナ作業は取引先の都合により取引終了（年間50万減）共同受注ワーキングを活用した新規の安定した作業を確保 従来取引のある企業との連携による作業の確保 ③ 味噌の増産を実施（前年度の1.5倍）。固定客が増え販売安定 神戸市「ふれあい商品」商品力向上支援制度の助成を受け、料理研究家と味噌料理のワークショップを開催し、味噌レシピブックの試作をデザイン会社と協働で作成 ④ 固定の地域住民からの依頼により除草作業を実施
安定した工賃の確保	① 共同受注ワーキングにより従来からの取引先からの大量発注への対応が可能になり、また研修先での情報交換、従来からの取引先を通じての新規開拓（伊川谷除草（株）エクシング）など新規作業を獲得し、目標工賃（13,500円）達成（13,579円/月額）

iii) 生活介護事業

課題	実施内容
プログラムの多様化と支援の充実	① オプションプログラム 音楽レクリエーション・トリム（月4回）、お茶サークル（家族参加型）・フラワーアレンジメント（月各2回）（継続）おぷ ② 個別支援計画に基づく身体機能維持目的のプログラム 講師によるボールエクササイズ（月2回）（新規）、職員指導に

	よるエクササイズ（月2回） ③ 個別プログラム 和太鼓・ウォーキング・スヌーズレン・ADL訓練を実施 ④ 日中活動として、緩衝剤袋詰め・園芸・さをり織り・創作活動・キャンドル製作を実施 ⑤ おおまち：おやつ作りプログラム（月1～2回）、創作活動を実施
地域とのつながり	① ミニバザー、アンテナショップ（月1回）での自主生産品の販売活動 ② 「ハートでアートこうべ 2015」作業体験会に出店し、『手作りハガキ体験』で地域の小学生と利用者の交流の機会を得た ③ 地域のデザイン会社と協働し、地場産業との融合をテーマに新商品開発に取組み、2016年度も継続
健康面への配慮・体力向上	① 体力づくりとしてウォーキング・フィットネスマシンでの屋内運動を継続、機器を増設し肥満対策に取組み減量 ② おおまち：2階スペースでストレッチ&リラクゼーションプログラムを実施（月2回） ③ 口腔ケア・ADL（身辺自立）訓練を継続実施（週1回） ④ 嘱託医師による内科検診、歯科医による歯科検診、予防医学協会による健康診断を実施
職員の知識・技能の向上	① 創作活動に特化した施設への見学（すずかけ作業所） ② 姫路独協大学でスヌーズレン現任訓練実施

## 2. 研修

利用者支援の専門性に関わる内容の研修、人権擁護・虐待防止の観点から接遇向上にも力を入れました。また、自立支援協議会の各部会の活動については地域の事業者との連携の重要性の点から積極的な参加を心掛けました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
発達心理学講座	5, 7～3	垂水区相談支援者会議	5,9,11 1,3
人事制度運用委員会	5,8,12	自立支援協議会学習部会	5,11,2
新任副主任研修	7	スヌーズレン現任訓練	9
メンタルヘルス・セルフケア	7	就業支援基礎研修	8,9
メンタルヘルス・ラインケア	8	自立支援協議会防災部会	9,10,12 1,3
主任・副主任研修	8	マイナンバー制度説明会	9
マイナンバー制度事務職員説明会	10	強度行動障害支援者研修	1,2
経営計画策定支援講座	10,11,1,2	障害のある人のアートと著作権に関する相談会	10

課長研修	11	全国知的障害者福祉関係職員研究大会〔高知〕	10
上級一般職研修	1,2	兵庫職業センター見学会	10
キリスト教福祉講座	2	自立支援協議会権利擁護プロジェクト講演会	10
総合職員研修	2	食品衛生責任者養成講習会	11
成年後見実務者研修	2,3	自立支援協議会就労支援部会	11,12,3
人権擁護・虐待防止全体研修 接遇マナー	3	中堅職員研修会	11
		県知的障害者施設協会播但地区職員研修会	11
		社会福祉士実習指導者講習会	11
		近畿セルフ協研究大会〔和歌山〕	12
		ゲートキーパー養成講座	12
		神戸大学地域連携事業研修会	12
		接遇・日常マナーリーダー研修	1
		上級一般職研修	1
		市町・虐待防止センター職員向け研修	1
		市内特定相談支援事業者研修会	1
		実習教育研修会(神戸女子大学)	2
		近畿地区知的障害者関係施設職員研修会〔京都〕	2
		社会福祉士実習教育支援研修	2
		就労サービス管理責任者ブラッシュアップ研修	2
		近畿社会就労センター職員研修会	2
		メンタルヘルス研修	3
		たんぼぼの家著作権セミナー	3
		働く人の健康管理研修会	3

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
4件	近隣住民からミニバザーちらし配布の件(1件) 活動中に出来たと思われるアザについて(1件) 行事の時の利用者の支援について(1件) 突然行事に参加をしないと言われた利用者の様子を尋ねられた件(1件)	4件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
76件	5件	35件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	2階厨房からの火災を想定し避難誘導訓練を実施。実際に火災警報器を鳴動させ、119番通報を行った。委託業者の厨房スタッフも参加した。	6
	2階厨房からの火災を想定した。火災警報器を鳴動。これまで午前中に訓練を行ったが今回は午後の活動開始直後に実施したのでより多くの方が参加できた。	10
避難訓練（おおまち）	おおまち西南側家屋より出火を想定し、東側駐車場スペースへ利用者の避難誘導訓練を実施	1

4. 地域交流

- ① 毎月第4火曜日のミニバザーは、活動の成果である自主生産品や野菜の販売・喫茶コーナーでの交流と地域の方々に定着し利用者の楽しみであると同時に様々な体験（買い物・販売・接客）の場となっています。
- ② 毎月第2金曜日の垂水区役所内でのアンテナショップは、垂水区の方にすっかり定着し顔見知りのお客様もできてきました。手作り味噌・さをり製品の販売も利用者が積極的に販売する意欲が出てきており、毎月開催日を楽しみにしています。

(1) ボランティア

- ア) 個人：延べ 44名
- イ) 団体：2団体（創生会、舞子福祉サークル）延べ 224名

(2) 垂水区自立支援協議会

ア) 各部会

- ① 就労支援部会：垂水区役所内でアンテナショップを月1回定例開催  
：昨年作成した「たるみっこギフト」の有効活用、個別支援計画の重要性、就労継続支援事業の制度に関する情報共有や工賃向上に向けての取組み事例など
- ② 防災部会：災害時における障害者・高齢者など要援護者に向けて「ヘルプカード」を作成、活用に向けての取組みを行いました。また地域の障害者・高齢者が一緒に活動できる場として、餅つき大会などを実施しました。
- ③ 学習部会：今年度は主に児童施設の見学、養護学校についてなど主に児童福祉分野について理解を深める取組みを行いました。

イ) たるみ桜の会

協議会の 8 事業所が合同で建設局管理地（平磯緑地）の清掃作業を請け負い、年 12 回の緑地清掃・年 2 回のひまわり街道の除草作業を実施。

(3) その他

ア) 施設開放

- ① 野田大町自治会等への会場提供（おおまち 2 階）を行い、地域住民への施設開放を実施（延べ 22 回）

イ) 実習

- ① 専門実習：神戸女子大、総合衛生学院（歯科衛生士）、神戸学院大学  
関西国際大学
- ② 進路実習：青陽西養護学校、いなみ野特別支援学校、のじぎく特別支援学校
- ③ その他：中学生の福祉体験学習（福祉ワークキャンプ）1 名

ウ) その他

- ① 東谷公園管理会合同清掃（年 5 回）  
東谷公園とトイレ清掃を管理会から請け負っており、委託作業とは別に管理会委員（地域住民）と合同で清掃を実施

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホームみなみたもん  
 文責 施設長 吉本 ひろみ

総括.

- (1) 2015年2月末に急遽1名が退所され前半4名の入居となってしまいました。1名の入居を調整し10月からは5名の入居となりその後は安定した運営が維持できましたが、目標には少し届きませんでした。しかし支援区分が高くなった方が2名おられ収入予算は達成となりました。
- (2) 夜間支援ができる世話人が3名となり、時折バックアップ施設からの応援が必要となりました。夜間支援員の補充が今後の課題です。
- (3) 入居者で高齢の方の通所施設利用への意欲低下、健康面への支援など、今後の対応も大きな課題となってきました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### 1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	権利擁護のための支援	① ご家族亡き後の対応として成年後見手続きが急がれる方がおられ、手続き進行中 ② 虐待防止については外部及び内部研修に参加
	マニュアルの整備	① 世話人・生活支援員業務マニュアル改定は未着手
	地域との連携	① 県営住宅内の自治会役員（書記）を担い、近隣住民との関係性を構築 ② 週1回、共用階段の清掃を入居者と共に実施
	防災対策	① 7月22日・11月11日に避難訓練を実施。ワンタッチ通報システムを試用 ② 11月15日に自治会主催の防災講習会に全員で参加 ③ 防災備蓄品を整備 ④ 消防設備点検を実施（6月26日）（12月9日）
経営	利用率の安定維持	① 前年度末、1名退所し9月まで1名欠員 ② 10月1日付で1名入所し安定した利用を続けたが目標の90%は未達成（88.1%）
	・バックアップ施設の体制整備	① 体調不良の入居者が日中活動事業所を休んだ時に神戸光生園から見守り支援として職員を派遣 ② 夜間世話人急病時に神戸光生園職員を夜間支援員として派遣

育成	キリスト教理念の浸透	① 理念の浸透を図るため、月1回の世話人会議で基本理念の唱和を実施
	専門性の向上	① 世話人会議時に、テキストを用い内部研修（4回実施）
	虐待防止・人権擁護の取組み	① 神戸光生園で実施した「接遇マナー研修」に参加

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
余暇の充実	① 日中支援員と月2回、土日のおやつ作りを企画するが後半はカロリーオーバーとなるため中止となった ② ガイドヘルパーの積極的活用の調整 ③ 「こぐまホーム」が集会所で開催する「歌の会」に参加（月1回） ④ 12月に全世話人・支援員と共に食事会を実施、3月にカラオケ大会を開催
ホームでの円満な人間関係の構築	① 入居者同士で大きなトラブルにならないよう、世話人会議、日誌や引き継ぎノートなどで情報共有を行い支援の統一化を図る

2. 研修

1人職場であり、利用者に対する困難な支援がある場合に虐待が起こりやすいことを十分に理解し、できる限り困った事を話し合い共有する事を心掛けました。特に世話人・支援員により利用者への対応の違いが出てこない様に毎月の会議で対応の統一を確認しました。内部研修では毎月の世話人会議の時間を利用し、テキストを利用してテーマごとに実施しました。また、神戸光生園と合同で接遇マナー研修に参加しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
地域で暮らすということ	9	全国 GH 等研修会宮城大会	8
グループホームとは入居者の暮らしを考える	9	法令遵守・職業倫理等に関する研修	10
グループホーム援助者が気を付けるべきこと	10		
援助者のメンタルヘルス	12		
接遇マナー研修	3		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
2件	1件	0件

※ 各 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報	7月22日・11月11日、キッチンから出火を想定、通報システムを試用し避難・通報訓練を実施	7・11
消火訓練	11月15日、自治会主催の消火器使用の訓練に全員で参加	11

4. 地域交流

2015年度は輪番の役員にあたっており、201号室分として書記を務めました。これまでわからなかった住宅内の状況が少しずつわかり、グループホームへの違和感も少しずつなくなってきつつあると感じました。また、週1回、日曜日に共用階段と廊下の清掃を行い、地域の一員としての役割を担いました。自治会の消火訓練では地域の方に混じって、水消火器を使い消火訓練も行い良い経験となりました。

(1) ボランティア

- ア) 個人：なし
- イ) 団体：なし

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸明生園  
 施設長 山本 隆志

総括.

- (1) 第三者評価を受けることにより、施設の課題が明確になり、マニュアル整備、記録の整理、個別支援の流れを確立することが求められ、取り組み課題として残りました。
- (2) 「生活支援」においては、老朽化した照明、空調、天井、ボイラー循環装置、トイレ床の改修を順次行いました。利用者の高齢重度化への対応策として、浴室内リフトの設置に向けた調査を行い、次年度の設置に向けた流れを作りました。
- (3) 「活動支援」においては、「わくわく木曜日活動」として個別支援の計画的な実施と充実を新たにチャレンジしました。しあわせの村内4施設にて「缶バッチ☆マグネット制作隊」を結成し、地域のイベントへと参画しました。日々の創作活動の発表の場として、6回目となる神戸明生園作品展を元町のギャラリーにて開催しました。
- (4) 虐待防止においては、継続的なチェックリストの実施、虐待防止スローガンの施設内掲示を行い、施設内の虐待を未然に防ぐ環境作りに努めました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

支援内容や質の向上についての検証までは踏み込めませんでした。物理的な環境整備や活動プログラムの見直しなどについては計画に沿ってほぼ実施できました。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	利用者の地域移行	①主任1名をケアホーム対応職員に選任し、物件の情報収集等ケアホーム開設に向けて取り組むが最終的に物件の確保が出来ず、開設に至らず。 ②未実施
	アメニティの向上	①2017年度を目途に入所定員を60名に変更予定。 ②空調及び照明設備の改修工事を実施。
	日中活動の充実	①利用者ニーズに基づいた活動プログラム実施日を設定し、実施（「わくわく木曜日活動」）。

サービス	日中活動の充実	①②「わくわく木曜日活動」の計画的な実施による個別支援の充実を図った。
	アメニティの向上	①男性浴室へのリフト設置に向け、理学療法士等の助言に基づく計画と見積もり取りを実施。 ②スケジュールの見直しを実施。
	サービス水準の向上	① 第三者評価の実施。 ②木曜活動において実施。
	人権擁護の推進	①虐待防止・接遇向上委員会の定期開催（2カ月に1回）及び、チェックリストの実施。 ②障害者差別解消法の学習実施。
経営	予算に沿った収入の確保	①空室の効率的な利用を実施。 ②送迎加算4名分週5日、1名分週1日を取得。
	設備の老朽化への対応	①男性浴室の改修については、浴室リフトと合わせた計画に修正。 ②積立実施。
人材育成	法人理念についての基本的理解と浸透	①朝礼での聖書とテキストの朗読を実施。基本理念の唱和を毎週月曜日に実施。 ②未実施。
	課題解決能力の向上	①支援調整会議において個別支援の内容を検討共有。 ②メールシステムによる情報共有を図った。
	専門性の向上	①支援検討会議での支援内容を検討。 ②家族会と合同で北摂杉の子会への見学研修を実施。 ③2.「研修」参照
	職制レベルの育成強化	①職制会議において課題共有。 ②建物活用委員会を開催し、必要設備の整理に着手。

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 生活介護事業

課題	実施内容
日中活動の充実	①個別外出、グループ外出、クッキング、一泊旅行などについて毎週木曜日に実施。 ②リハビリ、補装具等の生活機能維持の調整を図った。余暇活動について利用者の希望アンケートを実施し、活動に反映。 ③神戸明生園作品展を利用者参加のもと開催。 ④個別支援計画に基づき、理学療法士との連携、木曜活動を活用した公共交通機関の利用支援、余暇活動の拡充を実施。 ⑤スヌーズレン活動への参加対象者を再検討し拡大。 ⑥個別支援記録の整備等により、理学療法士との連携を強化し、関連業者との積極的な連携を実施。

社会参加の拡充	①水族園、潮干狩り、テーマパーク、一泊旅行（一部のみ）、公共交通機関の利用支援等を実施。
---------	--

ii) 施設入所支援事業

課題	実施内容
アメニティの向上	①男性浴室については、浴室リフトと同時期の工事予定とし、計画変更。 ②各食堂の電子レンジを活用し、食事の温度管理を実施。温冷配膳車の導入には至らず。
サービス水準の向上	①虐待防止・接遇向上委員会、木曜活動委員会を開催。 ②第三者評価結果を基に、活用セミナーを受講。
人権擁護の推進	①虐待防止・接遇向上委員会において、虐待防止スローガンを定期的に見直し、全体での意識向上のため施設内に掲示。チェックリストの定期的な実施。 ②虐待防止研修を2回実施。また、他施設での虐待事例等をタイムリーに情報発信。
感染症予防対策	①職員・利用者への予防接種を実施。 ②日常業務において、加湿空気清浄器の稼働、手指消毒の励行、手すり、床、トイレ等の消毒を継続。結果、インフルエンザ罹患者はゼロ。 ③引き続き殺菌力の強い消毒液を使用。
地域生活移行準備	①未実施 ②北区自立支援協議会のくらし部会に参加。地域生活移行当事者及び支援者による、実践発表研修を施設内で開催。

iii) 短期入所事業

課題	実施内容
利用率の向上	①空床管理については、自施設作成の表にてパソコン上で管理。 ②緊急枠の確保を継続し、可能な限り緊急時の受け入れを実施。

2. 研修

虐待防止や専門知識研修などの利用者支援に関する研修のほか、自己啓発やコーチングなど職員自身の社会人としての成長に繋がる研修への参加を図りました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
虐待防止研修	4月、12月	事務担当者研修	7月
成年後見の学習会	2月	サービス管理責任者研修	7月
第三者評価活用セミナー	3月	旭川荘セミナー	8月
地域移行研修	3月	自閉症セミナー	8月

		強度行動障害支援者養成 研修（実践編）	9月
		サービス管理責任者研修	9月
		栄養士研修	10月
		地域移行研修	11月
		県知協研修	11月
		セルフケア研修	1月
		障害者支援施設部会研修	2月
		強度行動障害支援者養成 研修（基礎編）	2月

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
4件	利用者への対応、職員間の情報共有	4件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
11件	7件	110件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報訓練	日中の出火を想定し、日中活動グループ単位での避難誘導	10月
避難・通報（夜間想定）	夜間の出火を想定し、遅出勤務者・夜勤者8名での避難誘導	2月

### 4. 地域交流

#### (1) ボランティア

ア) 個人：延べ54名                      イ) 団体：4団体 延べ123名

#### (2) その他

しあわせの村まつり、しあわせの村内カウンターショップ、北区社会福祉協議会地域交流イベント、神戸空港開港10周年記念イベント、しあわせの村ユニバーサルデザインフェア参加

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 ケアホームきたすま  
 管理者 山本 隆志

総括.

(1) 利用者の高齢・重度化に伴う健康面・体調維持に関わる課題に対して、バックアップ施設との密な連携に基づき、細やかな支援を行いました。今後は、システム化されたバックアップ体制をとれるような仕組み作りが課題として残りました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	高齢・重度化への対応	①介助度の高い方について、安全に入浴していただけるように、時間帯を複数名の支援者が勤務している時間帯に設定。 バックアップ施設より支援員が出向き、支援の調整等を実施。
	利用者の安全確保	①パッケージ型消火設備のパフレットを取り寄せる等、情報収集を実施。 ②③既存防火設備の強化については、消火装置と同時期の実施に計画変更。
	地域生活の定着	①自治会の清掃活動に年2回参加。 ②近隣の地域資源（理髪店等）を活用。
経営	予算に合った収入確保	①
	設備改修準備	①家主負担による外壁・屋根修理を実施し、家屋の耐久性を向上。家主との、継続利用の契約更新を実施した。
人材育成	専門性の向上	①未実施 ②虐待防止研修の実施 ③全職員会議により、地域生活の意味合いを再確認。 ④バックアップ施設との連携を整理する為、業務日誌及び支援記録の書式整理を行い、スムーズな情報共有を促進。

### 2. 研修

#### (1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
虐待防止研修	4月 11月		

(2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

ア) 苦情

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

ア) 事故報告

件数	うち本部報告	主な内容
0件	0件	

イ) ひやりハット報告

件数	主な内容
0件	

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難訓練	日中の出火を想定し、避難誘導を実施	8月

4. 地域交流

(1) ボランティア

ア) 個人： なし

イ) 団体： なし

(2) その他

自治会清掃活動 年2回

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 神戸市立ワークセンターひょうご  
 神戸市障害者就労推進センター  
 神戸障害者就業・生活支援センター  
 障害者就職拡大推進事業  
 所 長：谷上 久雄

### 総括

- (1) 法人の基本理念のもとに標記4事業を一体的・有機的に運営し、障害者が「一人でも多く、一日でも長く」一般就労できるよう、就職支援・定着支援を推進しました。
- (2) 訓練生の就職は2014年度より5名減の19名、一般登録者の就職件数は2014年度より43件減の116件でした（それぞれ就労継続支援A型事業所への就職を含む）。登録者については、新規登録者が減少している（2014年度138名に対し、117名）ことや、ハローワークからの就職件数は右肩上がりであることを考えると、支援機関を介さずに就職しているケース（就労継続支援A型への就職も多いと思われる）が増加していることが要因として考えられます。
- (3) 就労移行支援事業の制度的・構造的欠陥に対応するため、利用者確保に向けてPR活動の促進や見学・体験実習の積極的な受け入れをしました。2015年度は途中入所者を14名（2014年度12名）受け入れました。
- (4) 神戸地域における障害者就労支援の中核的施設として、労働・福祉・教育等の関係機関との連携に努めました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた以下の事業について、毎月、副主任以上で進捗状況を確認しながら推進しました。全体として概ね遂行できたと考えています。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

課題	実施内容
中期計画 ①一般就労した訓練生 相談者の居住の確保 ②就労の準備性を高める 自立訓練事業の検討	①法人内の部会・ワーキングを通じて、建て貸し方式のグループホームを中心に、開設時期・場所等について検討。建て貸し方式のグループホームの見学を実施。 ②自立訓練事業については、当センターでの新設よりも、既存の自立訓練事業所との連携を検討。また教育関係機関就労支援連絡会で、進路先として自立訓練事業に求められるものについて情報収集。
サービス 就労関係の特定相談 支援事業者の指定 申請・開設	法人内の相談支援事業部会に出席し、法人としての事業所立ち上げに関する提案書作成の過程に参画。神戸聖隷総合相談センターの中に2016年度4月から開設が実現。

経営 安定的経営の模索	ワークセンターひょうごでは開設日数の増加(年間 26 日の土曜日開所を行い、266/270 日営業)、就職による退所者に見合った積極的な欠員補充、二次募集の実施、特別支援学校との連携強化、普通学校への営業活動を実施。これにより就労移行支援事業の制度的・構造的欠陥に対応。
人材育成 中核施設としての職員の専門性の向上	内部研修の企画・実施、外部研修への積極的な参加、講師派遣を通じて職員の資質を向上。

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 就労移行支援事業 (神戸市立ワークセンターひょうご)

課題	実施内容
効率的な就労移行プログラムの検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>①希望職種に応じ、清掃・パソコンの個別・グループ訓練を実施。</li> <li>②延べ 77 人の体験実習、延べ 27 人の職場実習を実施。</li> <li>③就職後の余暇活動の充実を目的とし、土曜訓練のプログラムに外出活動を継続実施(年間 8 回実施)。また訓練生主体のプログラムを新たに実施(新入生歓迎会・クリスマス会・カラオケ・ボウリング)。</li> <li>④就労意欲向上のため、訓練生全員を対象に事業所見学会(㈱トーホーウイング)を実施。</li> <li>⑤男女間のコミュニケーションの取り方を学ぶため、訓練生向けの性教育を含めた講習会を実施。</li> <li>⑥スマートフォン、SNS のトラブル防止の研修会を実施。</li> </ul>
就労した卒業生の計画的なフォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就職後 5 年間の計画的な職場訪問による定着支援と事業所等からの要請による非定期的な支援を実施(対象 60 事業所、81 名)。</li> <li>②ファミリー会(卒業生の家族の会)を年 3 回開催し、家族から卒業生の状況を把握(延べ 78 名参加)。</li> </ul>
ジョブコーチ事業の推進	3 名のジョブコーチが積極的にジョブコーチ支援を実施(支援対象者 44 名、支援日数 225 日)。
安定的経営の模索(制度的欠陥への対応)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2016 年度利用希望者の募集(10 月)では 30 名の応募があり、うち 13 名の利用が決定。また 2014 年度に引き続き二次募集(12 月)を実施し、2 名が応募。学校との連携強化のため、進路指導担当教諭との連絡会を年 2 回開催。</li> <li>②各月日数マイナス 8 日に近い営業を目指し、年間 26 回の土曜日開所を実施(266/270 日営業)。土曜日の出勤率は 86.3%。</li> <li>③将来の当センター利用を視野に入れ、各種学校等からの見学者を 291 名、体験実習 41 名を受け入れ。また利用を前提とした体験利用者を 14 名受け入れ、うち 12 名が利用開始。</li> <li>④紹介用 DVD をリニューアル、クリアファイルとチラシを新調し、PR 活動に活用。</li> </ul>

ii) 相談支援事業（神戸市障害者就労推進センター）

課題	実施内容
登録者の状況把握と迅速なフォローアップの推進	<p>①一般登録者 538 名を対象に就労状況等について定期実態調査を実施（357 名から回答、返送率 66%）。うち 474 名に対しては登録確認を併せて実施。今年度よりワーク利用履歴のある登録者のうち、ロング作戦（職場定着支援）対象者以外の 219 名にも登録確認を実施。</p> <p>②個々の調査結果に基づき、今後 1 年間の支援方針を決定し、相談記録に入力。必要に応じたフォローアップを実施。</p> <p>③2013 年度から各地域センターもアンケート調査を実施。登録確認等の回答内容を共有。</p>
各地域就労推進センターや就労支援機関とのネットワーク強化	<p>①各地域障害者就労推進センター・神戸市との連絡会を毎月開催し、連絡調整の他、改正障害者雇用促進法に関する情報共有、ケース検討会を実施。</p> <p>②中部地域就労支援ネットワーク会議（中央・兵庫・長田・須磨区）を 3 回開催し、実務者レベルでの地域連携を強化。</p>
円滑な福祉サービス利用の支援	<p>今年度からサービス等利用計画が開始したが、就労系は大半がセルフプラン。就労継続支援 B 型の利用にかかるアセスメントや就労移行支援事業所の再利用の相談に対し、関係機関と調整。</p>

iii) 相談支援事業（神戸障害者就業・生活支援センター）

課題	実施内容
精神・発達障害者への支援	<p>①就業支援アドバイザー制度を活用し、精神科医の意見照会を実施。</p> <p>②在職者交流会で S S T（ソーシャルスキルズトレーニング）の手法を使ったグループワークを実施。</p>
多様化する定着支援ニーズへの対応	<p>①2010 年度開始の一般登録者への職場定着支援「ロングサポート」を推進。前期 62 名、後期 66 名に対し職場訪問等による定着支援を実施。</p> <p>②企画力、コミュニケーション力の向上等をテーマに在職者交流会を年 4 回実施し、職場定着を促進。</p> <p>③ほっとロビーを延べ 1044 名が利用。</p> <p>④アフターファイブ支援事業「ドリーム」を延べ 1039 名が利用。</p>
関係機関とのネットワークの強化	<p>約 70 の就労関係機関で構成する「ネットワーク会議」を 2 回開催し、虐待防止法・各機関の就労支援状況等について情報共有。</p>
就労移行支援事業所の支援力底上げ	<p>①経験の浅い職員を対象に就労支援基礎研修「ラーニングセッション」を共催（職業センター、市こころの健康センター）。例年よりも多い 63 名が受講。</p> <p>②施設長等で構成する「就労移行支援部会」（2010 度新設）を 2 回開催。新規参加機関からの事業紹介、各事業所の事業報告、就労継続支援 B 型アセスメントについての情報共有を実施。</p>

就業・生活支援センター機能の強化 (障害者就職拡大推進センター)	支援力の向上を目指し、面接相談スキルアップ研修を始め、各種研修を受講。
-------------------------------------	-------------------------------------

iv) 中部在宅障害者福祉センター

課題	実施内容
重症心身障害者対応の短期入所施設の整備	<p>①短期入所事業居室改修工事を9月より実施し、12月に完成。 (施工元：神戸市)</p> <p>②備品関係については、神戸市障害福祉課と協議の上、開設にかかる必要備品(ベッド、エアマット、テレビ等)を全て神戸市にて調達し、中部在宅障害者福祉センターにて管理。3月下旬調達完了。</p> <p>③4月開設に向けてのハード面の整備終了。</p>
障害者虐待防止についての周知徹底	<p>①兵庫県障害福祉課主幹を講師に招き、全職員を対象とした障害者虐待防止内部研修を実施。</p> <p>②虐待防止に関する外部研修を積極的に受講。</p> <p>③全体職員会議にて法人の基本理念を唱和し、理念に基づいた支援を行うよう周知徹底。また、法人内外の事案に対する説明と情報共有を行い、さらなる注意喚起。</p> <p>④各セクションの職員会議にて、支援の振り返りや勉強会を行い、障害者虐待への理解を深めるとともに、虐待の防止を徹底。</p> <p>⑤法人虐待防止チェックリストによるセルフチェックを年2回実施し、集計結果に基づいて振り返りやヒアリングを行い、改めて注意喚起を実施。</p> <p>⑥全職員から虐待防止標語を募集したあと、投票を行い、上位のものから啓発ポスターを作成し、施設内と事務所に掲示。</p>

2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加や講師派遣を通じて職員の専門性の向上を図りました。

(1) 内部研修 < 5テーマ・延べ12回開催。主な内容は以下のとおり。 >

内容	実施月	内容	実施月
就労支援の基礎知識	4	てんかん	9
生活保護	9	メンタルヘルス(セルフケア)	7・11・12
感染症対策	12	メンタルヘルス(ラインケア)	8・9

(2) 外部研修 <77 研修・延べ 130 名受講。主な内容は以下のとおり。>

内容	実施月	内容	実施月
面接相談スキルアップ研修	5・6・9・10	就業支援スキルアップ研修	6・9
就業支援担当者研修	5・8・11	スーパーバイザー養成講座	10・11
訪問型職場適応援助者スキル向上研修	9・12	発達障害研修	6・7・9
就業支援員担当者研修	8	面接相談スキルアップ研修	5・7・11
ラーニングセッション	8～9	職場適応援助者養成研修	2

(3) 講師派遣 <10 研修・延べ 12 回派遣。主な内容は以下のとおり。>

内容	実施月	内容	実施月
発達支援実践講座	7	障害者採用企業従業員研修	9
兵庫県社会福祉士会神戸地区ブロック研修会	9	神戸市立盲・養護学校教育研究協議会進路指導部会	12
障害者就業・生活支援センター事業等の職員研修会	1	改正障害者雇用促進法説明会	2

### 3. リスクマネジメント

中部在宅障害者福祉センター内の全事業所合同のせいれいキャナル虐待防止・苦情解決委員会を9月と3月に開催しました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
5 件	家族会費の受け渡し、実習案内、求人紹介等	5 件	0 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
7 件	0 件	4 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練。	5
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練。	10

### 4. 地域交流

(1) ボランティア

就労している障害者の居場所づくりと定着支援の観点から、毎週金曜日、青少年会館（三宮）で「ドリーム」を開催（49 回）し、ボランティアスタッフとして延べ 56 名から応援をいただきました。

ア) 個人：56 名                      イ) 団体：0 団体

(2) その他

- ・地域の小学校の特別支援学級からの見学を受け入れました。
- ・中央・兵庫・長田・須磨区所在の就労移行支援事業所等地域の関係機関で構成する「中部地域ネットワーク会議」を3回開催し、地域に根差した就労支援を推進しました。

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
ひょうご障害者地域生活支援センター  
所長：谷上 久雄

### 総括

- (1) 法人の基本理念のもと、地域で生活する障害者(児)とその家族等からの相談に対し必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係機関との連携を図り適切な障害福祉サービスを利用調整するなど、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。
- (2) 神戸市立中部在宅障害者福祉センター内の各相談支援事業を集約しワンストップ相談支援体制を整備して約3年が経過しました。
- このワンストップ相談支援体制を活かし、各相談支援部署との日常的な情報交換による連携、及び全体職員会議での各部署との情報共有（事業計画、事業報告、並びに取りくみ内容等）を通じて相互理解を図りました。その結果、生活相談から就労相談、発達相談等、各相談者のライフステージに応じた相談支援を適切かつタイムリーに実施することができました。
- (3) 兵庫区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活を続けるため、防災部会をはじめ各部会を通して、様々な取り組みを実施しました。
- また、障害者への理解促進を目的とした兵庫区庁舎内におけるアンテナショップ開設に向けて、事務局として関係機関との調整を行い、年度内にアンテナショップを2回試行的に開催し（2月、3月）、2016年度からの定例開催につなげました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた以下の課題について、下記の通り推進しました。全体として概ね遂行できました。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

課題	実施内容
中期計画 ・障害者総合支援法に対応し地域に根差した相談支援体制の整備(神戸地区)	① 指定特定相談支援事業者として、既存の委託業務（認定調査、勘案調査、移動支援、同行援護等）と並行しながら、障害福祉サービスを利用される方へのサービス等利用計画作成を推進(133件)。 ② 地域生活を希望される方への病院・施設からの地域移行・地域定着について、関係機関主催の会議等に参加。 ③ 障害児については、昨年度提示された神戸市からの方針に基づき、引き続きセルフプラン作成補助を中心に相談支援を実施。

<p>サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップ相談支援体制の実施</li> <li>・権利擁護の推進</li> </ul>	<p>① 2013 年度に、包括的な相談支援と相談者の利便性向上を目的に、2 施設長の所管に分かれる各相談支援事業を 1 施設長に統合し、ワンストップ相談支援体制を整え、約 3 年が経過。今年度も、より効果的な相談支援が提供できるように、他の相談支援事業との日常的な連携、並びに相互理解を目的とした事業内容等の共有を実施。</p> <p>② 成年後見制度や虐待に関する相談等、個別相談を通して、相談者の権利擁護を推進。</p>
<p>経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業の特性を踏まえた対応</li> <li>・メンタルヘルス対策の推進</li> </ul>	<p>① 既存の委託事業に個別給付事業（サービス等利用計画 133 件、勘案事項調査 592 件、認定調査件 208 件等）を加え、包括的な視点で効率的な事業運営を実施。次年度も引き続き、委託事業と個別給付事業のバランスの把握に努め、より効率的な事業運営を模索。</p> <p>② ラインケア研修(8、9 月)、及びセルフケア研修（11、12 月）を実施。10 月に全職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施し、各セクションで職場環境の改善に着手。</p> <p>12 月下旬より、正規職員 1 名が休職中。現在、メールによるやり取り、及び個別面談を通して職場復帰に向けて調整中。</p>
<p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教理念の浸透</li> <li>・専門性の向上</li> </ul>	<p>① 全体職員会議において、毎回、全職員で法人の基本理念の唱和を行い、法人理念の浸透に努めた。</p> <p>② 法人研修（役職別研修、等）へ積極的に参加。</p> <p>③ 内部研修の企画・実施、外部研修へ積極的に参加。また、職員の専門性の向上を目的に積極的に講師派遣を実施。</p>

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 相談支援事業

課題	実施内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本相談支援の徹底（困難ケースへの対応）</li> </ul>	<p>① 個別支援会議（10 件）、関係機関との連携によるケア会議等（85 件）を実施。</p> <p>② 朝礼時に、困難ケースを含むタイムリーな情報共有を実施。</p> <p>③ 毎月実施の職員会議にて、ケース共有を実施。</p> <p>④ 機能強化専門員による定期的なスーパーバイズを実施（6 月、10 月、3 月）。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のニーズへの対応（区自立支援協議会）</li> </ul>	<p>① 5 月に、全体会（事業報告、講演会など）を実施。</p> <p>② 神戸市自立支援協議会内の事務局会議に参加し、各区の地域課題の整理、及びテーマ別部会の設置に貢献。</p> <p>③ 運営委員会を年 6 回実施。</p> <p>④ 1 月に区協議会主催の施設見学研修会を実施（行先：医療福祉センターのぎく、シャトレミノン、参加者：18 名）。</p>

	<p>⑤ 防災部会：部会を年4回開催。昨年度、要援護者をスムーズにサポートできるためのツールとして作成したヘルプカードの書き方見本について検討を重ね、書き方見本を作成。また、2016年度開催予定の「防災ワークショップ（仮）」開催に向けて、行政機関をはじめ関係者との調整を実施。</p> <p>⑥ 社会参加部会：今年度は、危機管理マニュアルの作成を目的に部会を年5回開催（9月は特別に「薬とてんかん」についての研修を実施）。グループワーク形式で、実際の事例を通して対応方法などを話し合い、「みんなで作ろう危機管理マニュアル」を完成。</p> <p>⑦ 就労継続B型部会：部会を年5回開催。部会構成機関からニーズとして挙がっていた研修会（「感染症対策」「制度改正点について」、「障害者の権利擁護、虐待防止研修」、「成年後見制度について」、「困難事例検討会」）を実施。</p> <p>⑧ 活性化部会：部会を年4回開催。昨年度、部会に加盟している施設の利用者から出された「地域でささいなことを相談できる人がいない」という生活者目線での困り事をベースに、まずは地域の社会資源を知るための見学会の開催（中央むつみ会）、併せて「地域でささいなことを相談できる人をつくるために」と題して、「ワールドカフェ」方式を用いた話し合いの場を提供。</p> <p>⑨ 身体・知的障害者福祉相談員連絡会（3回） 相談員間の連絡調整と地域ニーズの把握、課題のとりまとめを実施。</p>
<p>・制度改正に伴う今後の事業展開の模索</p>	<p>毎月実施している神戸市と各職位別連絡会（センター長会議、強化員会議、コーディネーター会等）に参加し、情報交換・連携を実施。今後の支援センターの効果的なあり方について、引き続き神戸市障害者支援課と協議継続。</p>

## 2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

### (1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
メンタルヘルス（ラインケア）	8、9	生活保護制度について	9
メンタルヘルス（セルフケア）	11、12	障害者虐待防止研修	3

(2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月
新任障害福祉事務担当者に対する研修	5	障害支援区分認定調査員研修	5
障がい福祉施設（新任）職員研修	6	発達障害特性理解のためのMSPA研修会	7
Presentation Way 兵庫	7	ファシリテーション研修（基礎編）	7
兵庫県相談支援従事者初任者研修（5回）	7、8、9	リーダー研修	8
薬物等依存症についての学習会	8、12	神戸市地域移行推進事業協議会	8
マイナンバー制度基礎研修会	9	ファシリテーション研修（実践編）	9
相談支援・就業支援セミナー	9	発達障害専門職事例検討会	9、2
高齢障害者ケアマネジメント研修	10	高次脳機能障害研修	10
地域生活チャレンジ研修	11、12	主任者研修②「部下のやる気を引き出すコミュニケーション」	12
兵庫県障害者差別解消・雇用支援セミナー	12	日本相談支援専門員協会主催研修	12
神戸市地域自立支援協議会研修	1	兵庫県相談支援従事者現任者研修	1
市町・虐待防止センター職員向け研修	1	アメニティフォーラム20	2
視察研修（横浜市）	2	現場で活かせるスーパービジョン	2
精神保健福祉従事者研修	2	近畿地区障害児者相談支援推進・ネットワーク研修会	3
働き盛りの職場メンタルヘルス対策研修会	3		

3. リスクマネジメント

キャナル虐待防止・苦情解決委員会を開催し、予防・再発防止について意見交換を実施しました。また毎月の職員会議（地域生活支援センター・基幹相談センター・発達相談窓口）でも事故報告・ひやりハット事例を共有し再発防止に努めました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練	5
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練	10

4. 地域交流

(1) ボランティア

- ア) 個人： なし
- イ) 団体： なし

(2) その他

- ア) 平成 27 度兵庫区総合防災訓練（7月、里山地区）に参加し、訓練を通じて、災害時における要援護者の避難のあり方について地域住民と協働し交流を深めました。
- イ) 「中部地域障害者就労推進ネットワーク会議（中央・兵庫・長田・須磨区）」（神戸市障害者就労推進センター開催）の事務局メンバーとして参加し、関係各機関との連携を深めました。
- ウ) 障害者への理解促進を目的とした兵庫区庁舎内におけるアンテナショップ開設に向けて、事務局として「アンテナショッププロジェクト会議」（11、12、1、3月）を開催し、2月、3月の試行実施につなげました。

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
神戸市発達障害者中部相談窓口  
所長：谷上 久雄

### 総括

- (1) 法人の基本理念のもと、発達障害者とその家族等からの相談に対し必要な情報提供や助言を行なうとともに、関係機関との連携を図りきめ細やかな相談支援を実施しました。
- (2) 神戸市立中部在宅障害者福祉センター内の各相談支援事業を集約しワンストップ相談支援体制を整備して約3年が経過しました。

このワンストップ相談支援体制を活かし、各相談支援部署との日常的な情報交換による連携、及び全体職員会議での各部署との情報共有（事業計画、事業報告、並びに取り組み内容等）を通じて相互理解を図りました。その結果、発達相談から生活相談、就労相談等、各相談者のライフステージに応じた相談支援を適切かつタイムリーに実施することができました。
- (3) 発達障害の障害特性からくる日常生活を送るうえでの「困りごと」を的確に把握し、自立と社会参加の実現へ向けて支援すべく、外部研修への参加や関係機関との連携を通して、職員の資質向上を図りました。また、当事者の家族への支援のひとつとして、研究機関の協力のもと、ペアレントトレーニングを実施しました。
- (4) 日々の相談支援業務の実施や定例会議への出席に加えて、発達障害や当窓口業務への理解促進を目的とした研修会への講師派遣、並びに自立支援協議会（兵庫区、中央区）や相談支援事業所連絡会（長田区）等への参加を通して、関係機関との連携強化に努めました。また、2014年度に引き続き、中部発達窓口事例検討会（年2回）を開催し、具体的なケースを通して関係機関との顔の見える関係構築に努めました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた課題・対策について、下記の通り実施しました。全体としては概ね遂行できました。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

課題	実施内容
サービス ・ワンストップ相談支援体制の実施 ・権利擁護の推進	① 2013年度に、包括的な相談支援と相談者の利便性向上を目的に、2施設長の所管に分かれる各相談支援事業を1施設長に統合し、ワンストップ相談支援体制を整え、約3年が経過。今年度も、より効果的な相談支援が提供できるように、他の相談支援事業との日常的な連携、並びに相互理解を目的とした事業内容等の共有を実施。 ② 成年後見制度や虐待に関する相談等、個別相談を通して、相談者の権利擁護を推進。

<p>経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業の特性を踏まえた対応</li> <li>・メンタルヘルス対策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 委託費が固定されている中、他の委託事業（障害者地域生活支援センター、障害者基幹相談支援センター）との連携を図り、健全かつ効率的な運営体制を推進。</li> <li>② ラインケア研修（8、9月）、及びセルフケア研修（11、12月）を実施。10月に全職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施。各セクションで職場環境の改善に着手。</li> <li>③ 1名の臨時職員がメンタル不調のため、12月から約2ヶ月間休職。休職の間、本人や主治医との面談、並びに受け入れ体制の整備等を行い、2月から職場に復帰。次年度は、本人の希望を踏まえながら、配置転換含めて、本格的な職場復帰を目指して対応予定。</li> </ul>
<p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教理念の浸透</li> <li>・専門性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全体職員会議において、毎回、全職員で法人の基本理念の唱和を行い、法人理念の浸透に努めた。</li> <li>② 法人研修（役職別研修等）へ積極的に参加。</li> <li>③ 内部研修の企画・実施、外部研修へ積極的に参加。また、職員の専門性の向上を目的に、積極的に講師派遣を実施。</li> </ul>

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 相談支援事業

課題	実施内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄り添った相談支援の提供(困難ケースへの対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個別ケースの展開状況に応じて、随時、事業責任者を交えてケース検討を実施。</li> <li>② 発達相談に加え、生活支援や就労支援等多岐にわたる相談ケースについては、市発達障害者支援センターをはじめ、市更生相談所、管轄区の地域生活支援センターや就労推進センター、兵庫障害者職業センター等と連携し対応。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ニーズへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 限られた社会資源の中、これまでどおり、地域活動支援センター（発達型）、就労移行支援事業者（発達障害者向け）等と円滑な関係を構築し、丁寧な支援を実施。また、自立支援協議会（兵庫区、中央区）、事業所説明会（中央区）、並びに相談支援事業所連絡会（長田区）に参加し、地域のニーズ把握を行うとともに、各関係機関との顔の見える関係を構築。</li> <li>② 昨年度同様、神戸市と市内4窓口と協働のもと、当事者向けのプログラムとして、グループセッション（全6回を2クール、計12回）を開催し、社会生活を営むうえでのコミュニケーションスキル向上の機会を提供。また、家族向けのプログラムとしては、ペアレントトレーニング（全4回を2クール、計8回）を開催し、親子間のコミュニケーション改善の機会を提供。</li> </ul>

	③ 10月に兵庫区生活保護課職員向けの研修会に講師として参加し、発達障害の特性、及び発達障害者への就労支援の流れについて説明を行い、発達障害に対する関係機関への理解促進に寄与。
・新法施行に伴う今後の方向性の模索	① 毎月実施している神戸市と市内4窓口の各職位別連絡会（事業責任者、相談員）に参加し、情報交換・連携を図りながら、現状と課題に関して意見交換を実施。今後の窓口の効果的なあり方について、引き続き市発達障害者支援センターとの間で協議継続。

## 2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

### (1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
メンタルヘルス（ラインケア）	8、9	生活保護制度について	9
メンタルヘルス（セルフケア）	11、12	障害者虐待防止研修	3

### (2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月
みちしるべ神戸「働く力の集い」	4	C.A.C 就労フォーラム	6
発達障害特性理解のためのMSPA(発達障害の特性別評価法)研修	7	発達障害支援講演会	7
発達障害新人職員研修会	8	雇用フェスタ	9
発達障害の理解と合理的配慮について	10	面接相談スキルアップ研修	11、12
日本発達障害ネットワーク第11回年次大会	11	第21回年末特別企画研究会「障害者に就労の機会を！」	12
発達障害児者支援フォーラム	12	自閉スペクトラム症の臨床	1
発達障害のある方の就労について	3		

### (3) 講師派遣

内容	実施月	内容	実施月
ペアレントトレーニング	6、7、8 10、11、12	グループセッション	5、6、7、8 10、11、12
全市事例検討会（ファシリテーター役）	9、2	地域生活支援センターコーディネータ会議（発達窓口について）	1

### 3. リスクマネジメント

キャナル虐待防止・苦情解決委員会を開催し、予防・再発防止について意見交換を実施しました。また毎月の職員会議（地域生活支援センター・基幹相談センター・発達相談窓口）でも事故報告・ひやりハット事例を共有し再発防止に努めました。

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練	5
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練	10

### 4. 地域交流

#### (1) ボランティア

ア) 個人： なし

イ) 団体： なし

#### (2) その他： 特になし

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
神戸市障害者基幹相談支援センター  
所長：谷上 久雄

### 総括

- (1) 法人の基本理念のもと、障害者(児)とその家族等が住み慣れた地域で安心して生活するうえで必要不可欠な相談支援機能の充実に向けて、関係機関との連携を図り、市内における相談支援体制の整備を推進しました。
- (2) 会議やワーキングチーム等の調整、研修を企画運営し、神戸市内14支援センター及びその他相談支援事業者の統括、後方支援を実施しました。
- (3) 「課題整理プロジェクト」、並びに事務局会議に事務局の一員として参画し、各区で検討すべき地域課題、及び全市レベルで検討すべき課題の整理に携わりました。  
また、市協議会内における全市レベルの課題を検討する「テーマ別部会」の設置に関して、事務局一員として関わりました。2016年度以降も引き続き、具体的な検討の場に関わって行きます。
- (4) 神戸圏域における相談支援の中核的機能として、県下の他圏域相談支援事業者との定例会や兵庫県相談支援従事者(初任者)研修等の運営に参画し、関係機関との連携に努めました。
- (5) 神戸市障害者支援課と共催のもと、神戸市内の特定相談支援事業者向けの研修会を実施(年3回)し、神戸市内の相談支援体制の強化に努めました。
- (6) 高齢者福祉分野と障害福祉分野との連携を目的に、兵庫県との連携のもと、「高齢障害者ケアマネジメント研修」を開催しました(9、10月)。また、高齢者福祉分野の障害福祉への新規参入等による計画相談支援の拡充について、兵庫県、神戸市、並びに高齢福祉分野の施設長等と意見交換を行いました。介護保険法の改正に伴う業務過多の状況や各部署間の壁の高さなどにより、「時期尚早」との結論に至りました。ただし、制度上は実施可能であることが確認でき、今後タイミングを見計らい、再提案を考慮します。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた課題・対策について、下記の通り実施しました。全体としては概ね遂行できました。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

課題	実施内容
中期計画 ・基幹相談支援センターへの応募(神戸地区)	① 2013年度中に基幹相談支援センターの委託事業に応募し、その結果、事業受託完了(2017年度まで)。2015年度も引き続き、神戸市における基幹相談支援センターとして、神戸市内14支援センターの連携強化、統括的役割を担い、各地域センターの後方支援を実施。

<p>サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップ相談支援サービスの実施</li> <li>・権利擁護の推進</li> </ul>	<p>① 2013 年度に、包括的な相談支援と相談者の利便性向上を目的に、2 施設長の所管に分かれる各相談支援事業を1 施設長に統合し、ワンストップ相談支援体制を整え、約 3 年が経過。今年度も、より効果的な相談支援が提供できるように、他の相談支援事業との日常的な連携、並びに相互理解を目的とした事業内容等の共有を実施。</p> <p>② 成年後見人制度や虐待に関する外部研修等の情報を関係機関に提供することを通して、権利擁護を推進。</p>
<p>経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業の特性を踏まえた対応</li> <li>・メンタルヘルス対策</li> </ul>	<p>① 委託費が固定化されている中、他の委託事業（地域生活支援センター、発達相談窓口）との連携を図り、健全かつ効率的な運営体制を推進。</p> <p>② ラインケア研修（8、9 月）、及びセルフケア研修（11、12 月）を実施。10 月に全職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施。各セクションで職場環境の改善に着手。</p>
<p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教理念の浸透</li> <li>・専門性の向上</li> </ul>	<p>① 全体職員会議において、毎回、全職員で法人の基本理念の唱和を行い、法人理念の浸透に努めた。</p> <p>② 法人研修（役職別研修等）へ積極的に参加。</p> <p>③ 内部研修の企画・実施、外部研修へ積極的に参加。また、職員の専門性の向上を目的に、積極的に講師派遣を実施。</p>

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 相談支援事業

課題	実施内容
<p>・市内 14 障害者地域生活支援センター・その他市内相談支援事業者の統括</p>	<p>① 各職位別連絡会への参加（延べ 33 回） 事業責任者、機能強化専門員、コーディネーターごとの定例会議に参加し、統括的役割を担当。</p> <p>② 特定相談支援事業者への研修会を神戸市と協働で企画、実施（7 月、1 月、2 月の計 3 回）。</p> <p>③ 昨年度参加できなかった西区、及び灘区の相談支援連絡会（福祉事務所、地域生活支援センター、特定相談支援事業所等が参加）に出席し、各区の取り組み状況を把握。</p>
<p>・神戸市相談支援体制の後方支援</p>	<p>① 神戸市内 14 支援センター間の各テーマ（研修企画、視察企画、）別のワーキングに参加し、横断的な連携、後方支援を実施。</p> <p>② 新たに指定申請を検討している事業者への助言や相談支援従事者初任者研修の案内等を実施。</p>

	③ 高齢者福祉分野の障害福祉への新規参入等による計画相談支援の拡充について、神戸市等と話し合いを行ったが、現在のところは、「時期尚早」との結論。
・区自立支援協議会・市地域自立支援協議会・神戸市施策推進協議会との連携	① 各区の自立支援協議会総会に出席し、地域課題を把握。 ② 市自立支援協議会内の課題整理プロジェクト（6月、7月、2月）に参加し、神戸市における障害者の地域課題の整理を実施。また、市協議会内の事務局会議（8月、10月、12月）におけるテーマ別部会の設置に向けての協議に参画。 ③ 上記の事務局メンバーとしての活動を通して、地域課題について、神戸市施策推進協議会（1月実施）へ上申。
・他圏域との連携・情報共有	① 県下の他圏域相談支援事業者との定例会（毎月実施）に出席し、国の動向等最新の情報共有と意見交換を実施。 ② 兵庫県相談支援従事者（初任者・現任者）研修にコアメンバーとして参画し、関係機関との連携強化。
・制度改正に伴う今後の事業展開の模索	① 神戸市障害者支援課との定例打ち合わせ（毎月実施）や日々の情報交換等を通して、基幹相談支援事業の今後の展開について意見交換を実施。次年度は、新たな特定相談支援事業所立ち上げについて、神戸市とも協議の上、具体的な動きを模索。

## 2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加、講師派遣を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

### (1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
メンタルヘルス（ラインケア）	8、9	生活保護制度について	9
メンタルヘルス（セルフケア）	11、12	障害者虐待防止研修	3

### (2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月
兵庫県 障害者差別解消・女性障害者生活力向上支援セミナー	6	兵庫県相談支援専門別コース研修	8
高次脳機能障害～生活の中でリハビリを考える～	10	神戸市地域自立支援協議会研修会	1
兵庫県障害者虐待防止・権利擁護研修（市町行政職員対象コース）	1	兵庫区自立支援協議会研修	1
視察（横浜市）	2	障害者福祉施設等従事者（施設）向け研修	2

### (3) 講師派遣

内容	実施月	内容	実施月
兵庫県相談支援従事者初任者 研修 コアメンバー	7、8 9、10	高齢障害者ケアマネジメント 研修	9、10

### 3. リスクマネジメント

チャネル虐待防止・苦情解決委員会を開催し、予防・再発防止について意見交換を実施しました。また毎月の職員会議（地域生活支援センター・基幹相談センター・発達相談窓口）でも事故報告・ひやりハット事例を共有し再発防止に努めました。

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	チャネルタウンイーストの合同訓練	5
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練	10

### 4. 地域交流

#### (1) ボランティア

ア) 個人： なし      イ) 団体： なし

#### (2) その他

特になし

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
多機能型障がい者デイセンターひょうご  
(生活介護・就労継続支援B型)  
文責 施設長 西郷 昌一

総括.

- (1) 上半期は入浴サービス提供枠拡大を図るにあたり、パート職員の充足が叶わなかったが、下半期によりやく充足され、旧高齢デイ浴室を活用する形で拡大を図ることが出来ました。
- (2) 2014年度より継続して祝日営業・年間6日土曜日臨時営業を行い、より法定日数に近い日数を開業し、延べ利用者数を増やすことで、『地域社会への貢献』を目指したが、生活介護・就労継続支援B型両事業共、利用率は2014年度並みにとどまりました。
- (3) 利用者に重い障がいがあっても、個別支援計画に基づき、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう『質の高い思いやりのあるサービス』の提供に努め、神戸市満足度調査結果において、2014年度より継続して数値が良化しました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

2015年度も権利擁護に関わる取り組みを重点的に進め、職員の対応、態度、言葉遣いにおいて改めてサービス向上に努めた。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・医療部門の再編	①医療ケアの提供体制として、看護師を常勤換算で1名配置し、経管栄養維持管理1名、導尿2名、酸素吸入1名の利用者様を受入、ケアを提供。
	・利用者送迎の見直し	①北区星和台在住利用者の送迎経路に沿って在住の利用者様へ提供枠を拡大する等、インクルージョンひょうごとの共同運行を推進。 ②運転業務委託について、近畿タクシー(株)との契約を継続。
	・サービス管理責任者の育成	①法人サビ管会議へ出席。
サービス	・利用者主体の支援の実践	①毎週月曜日朝礼にて法人基本理念を唱和。 ②半期での個別支援計画モニタリング実施。 ③体の痛みの訴えに耳を傾けつつ医療ケアを実践。
	・権利擁護支援	①中部在障にて虐待防止研修に参加し、関係外部研修に参加。下関大藤苑の報道映像を視聴しながら、課題の共有。 ②成年後見制度に関する研修に参加。
	・地域生活支援における関係機関との連携・協力	①サービス等利用計画を軸とした地域生活支援。 ②新規利用希望者の掘り起こしや利用受入。

	・食事サービスの充実	①食事サービス検討委員会を毎月開催、嗜好調査を実施し、利用者の意見を調査。 ②月2回の選択メニューの実施。
	・快適空間の創造と日中活動の充実	①虐待チェックリストによる調査で利用者への適切な言葉遣いに係る意見交換を行い、コミュニケーションの快適さを追求。 ②ハートでアートこうべ2015に出展。 ③デイルームを移設し、提供スペースを拡大。 ④各行事担当の采配の下、2014年度より充実した活動を展開。
経営	・リスクマネジメントの強化	①服薬飲み忘れ事例の検証と手順の明確化。 ②送迎遅延や開業予定連絡漏れの対策実施。 ③災害備蓄品の保管場所整理。 ④タイムカード、超過勤務命令書の継続的な突合。
	・メンタルヘルス対策の取組	①中部在障全体でセルフケア、ラインケア研修を開催し、対象職員もれなく参加。 ②下半期にメンタルヘルスチェック実施。
人材育成	・キリスト教理念の理解	①法人キリスト教福祉講座へ参加。 ②最重度の障がい当事者の利用受入を努力。
	・職員の定着と育成	①年度末の離職者はゼロ。 ②求職者へ職場見学案内、職場体験を提供。 ③事業所独自初任者研修を開催。 ④各係、担当をメンバー同士、会議で話し合いながら分担。 ⑤KJ法を実践した会議。 ⑥法人人事制度運用委員会の取組。
	・専門性の向上	①腰痛対策講座へ参加し、研修発表。 ②法人総合職員研修研究発表の取組。 ③自閉症専門講座へは不参加。 ④関西福祉科学大・甲子園短大の実習生受入。

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
日中活動の充実	①今年度から感覚プログラムを実施。 ②毎週木曜午前中に新規ボランティアが活動継続し、利用者付添。 ③神戸大学院生の研究開発（記憶障害補完ツール）に利用者が研究参加。 ④音楽療法を週1回提供。 ⑤夏祭り、クリスマス会、喫茶外出、茶話会、日帰り旅行（USJ、マリニピア神戸、キリンビアパーク等）を実施。 ⑥近隣駅前商店街への外出付添。

生活介護事業利用率安定化	<p>①利用率 80.9% (対法定 78.9%・目標未達成見込)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期はインクルージョン移籍利用者の補充に終始した。下半期から、入浴サービス提供枠拡大を叶え、新規利用者受入を進めたが、入院による利用休止者により、大きな回復には至らなかった。</li> </ul> <p>②デイルームを移設し、提供環境を一新。</p> <p>③送迎車運行増発を見合わせ、増発したインクルージョンひょうごとの共同運行を強化。</p> <p>④アレルギー食や低カリウム食を提供。</p> <p>⑤全利用者へもれなく計画相談支援を提供されるよう確認。</p> <p>⑥機能訓練事業利用者への利用紹介。</p>
職員の身体負担度軽減	<p>① 介護ベッドをデイルーム⇔浴室間を移動することにより、トランスファーの回数を減。</p> <p>②浴室天井走行リフトの導入を神戸市へ相談。</p> <p>③腰痛対策研修に参加し、研修発表会を実施。</p>
援助技術の伝承	<p>①求職者職場体験にて、業務内容を詳細に説明。</p> <p>②大学実習生をボランティアとして受入。</p>
新デイルームでの事業開始	<p>①デイルーム設備・備品の環境整備。</p> <p>②お手洗いスペース 1 か所増。</p> <p>③昼食提供手順や排泄支援の変更。</p>

ii) 就労継続支援B型事業

課題	実施内容
安定した判りやすい活動スケジュールの確保	<p>①ムラカミ (有) より新たな作業を受注。</p> <p>②作業受注スケジュールとの兼ね合いで地域行事への出店は叶わず。</p> <p>③音楽療法時に希望者のみ作業活動に従事。</p> <p>④音楽療法を週 1 回提供。</p> <p>⑤日帰り旅行、クリスマス会を開催。</p>
工賃評定の見直し	<p>①新規評価基準は未実施。</p>
健康管理	<p>①低カリウム食を糖尿病患者に提供。</p> <p>②体重測定を定期的実施。</p>
社会生活力の向上	<p>①利用者間の円滑な対人関係を支援</p> <p>②同居家族が転居し、単身生活になった利用者 2 名へ毎月の生活諸経費の支払い状況確認について、支援センターと連携。</p>
就労継続事業B型利用率安定化	<p>① 2014 年度並みで利用率 100%超推移</p> <p>②空会議室活用や備品設置場所を環境整備することにより提供スペース拡大</p> <p>③全利用者へもれなく計画相談支援を提供されるよう確認。</p>

## 2. 研修

内部、外部研修は、継続して虐待防止関連の研修を重点的に取り組みました。

他、上記に繋がる専門的な介護・支援技術習得を目的とした研修にも参加しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
メンタルヘルス「セルフケア研修」	7、11	感染症対策講座（神戸市）	6
障害者虐待防止研修（中部在障）	2	障害福祉施設新任職員研修	6
		腰痛予防推進研修	8
		医療ケアが必要な方の対応に求められる医学知識	10
		障害者虐待防止研修（自立支援協）	8
		嚥下障害に関する知識と施設における口腔ケア	2
		県知協 新任職員研修会	2
		成年後見研修（自立支援協）	10
		障害者自立支援法関係事業者説明会	3
		組織におけるリーダー・中堅職員の役割について	8
		看護師研修会（市知連）	11
		緊急施設長研修会（虐待防止・県知協）	7
		障害福祉施設等従事者（施設長）向け研修	2

## 3. リスクマネジメント

### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
4件	他害 送迎車遅延 利用者持物整理 予定お知らせ漏れ	4件	0件

※予定お知らせ漏れについては、長期欠席者に対する家庭訪問やTEL連絡を強化。

### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
9件	2件	1件

※本部報告は車椅子より滑落と介助時骨折各1件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストとの合同訓練。	5
避難・通報・消火訓練	2階火元設定での訓練	10

4. 地域交流

ボランティアグループ いずみの会のメンバーに夏祭りやクリスマス会、秋の外出活動の付添やイベント手伝いをお願いした。

(1) ボランティア

ア) 個人：2名

イ) 団体：11名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 インクルージョンひょうご

(生活介護・神戸市重症心身障害者日中活動支援事業)

文責 施設長 西郷 昌一

総括.

- (1) デイルームを一新し、神戸市委託事業の在り方の変化に対応すべく、新規利用者 8 名、既存利用者の利用登録曜日増を受け入れたものの、利用を見込んでいた利用者の登録キャンセルにより、目標利用率には至りませんでした。
- (2) 神戸市障害者支援課との連携により、神戸市重症心身障害者日中活動支援事業の運営要綱が一部改正され、当事業所利用対象枠が拡大しました。
- (3) 重症心身障害者対応の短期入所事業開設を見据えつつ、宿泊活動の実施等を昨年度より継続し、利用者に重い障害が有っても、個別支援計画に基づき、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『質の高い思いやりのあるサービス』の提供に努めました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

今年度も権利擁護に関わる取り組みを重点的に進め、職員の対応、態度、言葉遣いにおいて改めてサービス向上に努めました。

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・医療部門の再編	①医療ケアの提供体制として、看護師を常勤換算で1名配置し、経管栄養維持管理1名、導尿2名、酸素吸入1名の利用者様を受入、ケアを提供。
	・利用者送迎の見直し	①北区星和台在住利用者の送迎経路に沿って在住の利用者様へ提供枠を拡大する等、デイセンターひょうごとの共同運行を推進。 ②運転業務委託について、近畿タクシー(株)との契約を継続。 ③マイクロバス老朽化に伴い、新車に入れ替えを実施。(購入費は神戸市負担)
	・サービス管理責任者の育成	①法人サビ管会議へ出席。
サービス	・利用者主体の支援の実践	①毎週月曜日朝礼にて法人基本理念を唱和。 ②半期での個別支援計画モニタリング実施。 ③体の痛みの訴えに耳を傾けつつ医療ケアを実践。
	・権利擁護支援	①中部在障にて虐待防止研修に参加し、関係外部研修に参加。下関大藤苑の報道映像を視聴しながら、課題の共有。 ②成年後見制度に関する研修に参加。

	・地域生活支援における関係機関との連携・協力	①サービス等利用計画を軸とした地域生活支援。 ②新規利用希望者を週延べ9名受入。
	・食事サービスの充実	①食事サービス検討委員会を毎月開催、嗜好調査を実施し、利用者の意見を調査。 ②月2回の選択メニューを実施。
	・快適空間の創造と日中活動の充実	①虐待チェックリストによる調査で利用者への適切な言葉遣いに係る意見交換を行い、コミュニケーションの快適さを追求。 ②ハートでアートこうべ2015に出展。 ③デイルームを移設し、提供スペースを拡大し、設備を充実。 ④各行事担当の采配の下、昨年度より充実した活動を展開。
経営	・リスクマネジメントの強化	①服薬飲み忘れ事例の検証と手順の明確化。 ②送迎遅延や開業予定連絡漏れの対策実施。 ③災害備蓄品の保管場所整理。 ④タイムカード、超過勤務命令書の継続的な突合。
	・メンタルヘルス対策の取組	①中部在障全体でセルフケア、ラインケア研修を開催し、対象職員もれなく参加。 ②下半期にメンタルヘルスチェック実施。
人材育成	・キリスト教理念の理解	①法人キリスト教福祉講座へ参加。 ②最重度の障害者の利用受入れを努力。
	・職員の定着と育成	①年度末の離職者はゼロ。 ②求職者へ職場見学案内、職場体験を提供。 ③事業所独自初任者研修を開催。 ④各係、担当をメンバー同志、会議で話し合いながら分担。 ⑤KJ法を実践した会議。 ⑥法人人事制度運用委員会の取組。
	・専門性の向上	①腰痛対策講座へ参加し、研修発表。 ②法人総合職員研修研究発表の取組。 ③自閉症専門講座へは不参加。 ④関西福祉科学大・甲子園短大の実習生受入。

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護・神戸市重症心身障害者日中活動支援事業

課題	実施内容
利用者主体の支援の発展	①法人総合職員研修研究課題『意思決定支援に基づいた食事支援』の取組。 ②夏祭り時の神戸医療福祉専門学校生11名との交流や、公共交通機関を利用して日帰り旅行を実施。

短期入所事業準備	①月1回宿泊活動をデイルームにて実施。業務スケジュール立案。 ②1月に改修事業完工。3月に福祉機器を中心に設備備品入荷。 ③求人採用3月末で専任職員1名充足せず。
重症心身障害者日中活動支援事業利用率安定化	①利用率65.2%（対法定60.3%） ・利用を見込んでいた利用者の登録キャンセルが年度通して影響し目標利用率に及ばず。年度途中の新規利用者2名受入による復旧を図ったが、微増にとどまった。 ②成人後の中途障害により、重症者でありながら療育手帳を取得出来ない当事者が利用対象になるよう、神戸市障害者支援課と連携し、運営要綱一部改正へ。 ③新規利用者1名について、『本人が愉しそう。』とご家族より年度途中に利用登録曜日1日増。
医療的ケアが必要な利用者の社会参加の工夫。	①公共交通機関を利用して日帰り旅行実施。 ②医療ケアが必要な利用者新たに4名受入。 ③近隣の健康ライフプラザにて利用者健康診断を実施。 ④認定特定行為業務従事者の実務者登録、事業所登録未実施。
個別支援計画作成プロセスの整備	①半期に1回モニタリングを実施。 ②食事支援と虐待防止に係る新たな記録様式を活用継続。
職員の身体負担度軽減	①新デイルームの設備を活動して介護省力化。 ②天井走行リフト導入検討は未実施。 ③腰痛対策研修に参加し、研修発表会を実施。
援助技術の伝承	①求職者職場体験にて、業務内容を詳細に説明。 ②大学実習生・専門学校生をボランティアとして受入。
新デイルームでの事業開始	①デイルーム設備・備品の環境整備。 ②お手洗い（紙パンツ交換等）と活動場所の分離。 ③リラクスペースの拡張と衛生管理向上。 ④昼食提供手順や排泄支援の変更。

## 2. 研修

内部、外部研修は、継続して虐待防止関連の研修を重点的に取り組んだ。

他、上記に繋がる専門的な介護・支援技術習得を目的とした研修にも参加した。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
メンタルヘルス「セルフケア研修」	7、11	感染症対策講座（神戸市）	6
障害者虐待防止研修（中部在障）	2	障害福祉施設新任職員研修	6
		腰痛予防推進研修	8
		医療ケアが必要な方の対応に求められる医学知識	10
		障害者虐待防止研修（自立支	8

		援協)	
		嚙下障害に関する知識と施設 における口腔ケア	2
		県知協 新任職員研修会	2
		成年後見研修（自立支援協）	10
		障害者自立支援法関係事業者 説明会	3

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
5件	側湾矯正装具装着ミス 送迎遅延 個人所有物持 帰り間違い 送迎代車使用お知らせ漏れ 尿漏れ	5件	0件

※送迎時～の記載は、代車使用時に TAXI 会社の看板が有り、グループホームの従業員が運  
転添乗職員も TAXI 会社の職員であると勘違いし、それを利用者ご家族へ連絡したこと  
による件。

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
16件	0件	3件

※ 利用者持物破損や送迎時に係る件が各 5 件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストとの合同訓練。	5
避難・通報・消火訓練	2階火元設定での訓練	10

### 4. 地域交流

夏祭りに神戸医療福祉専門学校の学生を 11 名受け入れ、利用者付添を担ってもらった。

#### (1) ボランティア

- ア) 個人：0名
- イ) 団体：11名

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 自立センターひょうご  
 文責 施設長 村山 盛光

総括.

- (1) 2015年度は、6名の退所者と、長期にわたる短期入所利用、入院が4名ありました。その多くが、ご利用者・ご家族の高齢化・重度化によるものです。  
 「自立センターひょうご」の使命である「心豊かに地域生活を続けていただけるよう支援する」ことについて、あらためて事業所としてのあり方と役割が問われた1年であり、また、法人としての事業展開、社会資源の整備を考えさせられました。
- (2) 利用者支援についてはご利用者が落ち着いて過ごすための環境整備を推進しました。個別スペース導入による居場所の確保、絵カード等を用いた視覚支援等、ハード・ソフト両面において試行錯誤を繰り返しながら、よりよい利用者支援に向けて取り組みました。
- (3) 職員育成に力を入れ、積極的な外部の専門研修参加、外部機関によるコンサルティング実施を通して、エビデンスに基づいた支援の実践、総合支援力の向上を目指しています。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	人材育成	①人事考課制度の積極的運用 * 共通要素評価、専門要素評価、目標管理制度 ②外部の専門研修への積極的参加
	理念の浸透	①職員会議にて基本理念唱和、法人歴史の学び ②利用者主体の支援
	将来に備えた取り組み	①利用者の将来の生活の意識調査 ②神戸地区としてのグループホーム将来計画策定
サービス	支援の充実	①個別支援の内容充実のため、個別支援計画書の様式見直し ②利用者情報共有の徹底
	権利擁護・虐待防止への取り組み	①虐待防止をテーマとした外部研修への積極的参加 および職員会議にて伝達研修 随時、施設長、課長による面談と主任によるOJT ②定期的、また随時グループミーティングによる情報共有 ③支援の振り返り（終礼時の情報交換、職員会議） ④下関における虐待事件の意見交換 虐待防止チェックリスト集計結果の振り返りと意見交換 ⑤成年後見制度実務者研修へ参加

経営	利用率の向上による経営安定化	<p>①支援センターからの紹介による利用者増1名</p> <p>②看護師と支援員の連携による利用者の体調把握と健康管理 家族へのサポート（相談、受診付き添い）</p> <p>③他事業所との連携による送迎サービスの充実 ・時刻、乗車希望の確認と調整</p> <p>④開所日の増加 *2014年度254日⇒2015年度259日</p> <p>⑤利用率の向上は未達成 *2015年度当初目標87.0%⇒2015年度実績81.7%</p>
	リスクマネジメントの強化	<p>①苦情・事故等における情報伝達、情報共有の徹底と組織的な対応</p> <p>②ひやりハット・事故事例の情報共有と再発防止策の徹底</p>
	メンタルヘルス対策	<p>①働きやすい職場環境づくり *シフト表による月間の勤務管理、有給休暇取得の目安の設定 *相談しやすい組織風土づくりの共有</p> <p>②セルフケア（基礎）研修実施（全職員参加） ラインケア（応用）研修実施（職制参加）</p>
人材育成	専門性の向上	<p>①自閉症者支援、高齢知的障害者支援、虐待防止、マイナンバー制度等の研修を重点的に多数の職員が積極的に参加 *利用者支援関係研修 延べ28名参加 *法人内事業所主催専門講座 延べ30名参加 *マイナンバー制度外部研修 延べ5名参加</p> <p>②伝達研修会の実施（虐待防止研修、現任訓練等）</p> <p>③各グループで事例検討会を随時開催</p> <p>④自立センターたるみとの交流、情報交換 *現任訓練受入（3名、各2日間） *現任訓練派遣（2名、各2日間）</p> <p>⑤NPO法人自閉症eサービスによるコンサルテーション（発達検査、訪問指導・助言）実施（2回）</p> <p>⑥専門書を購入し、自己啓発の促進</p>
	組織人としての研鑽	<p>①3Kの心「感謝」「謙虚」「共感」に根差した人材育成、OJT</p> <p>②人事考課・目標管理制度の積極的運用、面談実施</p>
	理念の理解促進	<p>①職員会議にて法人基本理念、施設基本方針の唱和</p> <p>②法人DVD鑑賞、40年記念誌の読み合わせによる法人歴史の学び</p> <p>③法人「利用者支援の手引き」読み合わせ</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
利用者主体の支援の推進	①サービス管理責任者、担当支援員によるモニタリング表の作成 個別支援会議に基づいた個別支援計画の策定 ②視覚支援の推進 ＊TEACCHプログラム、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を意識した見通しの持てるサービス提示 ＊ワークシステムに基づいた作業手順の統一 ③絵カード等を用いた活動の選択と参加の推進 ④グループミーティングでの利用者個々の活動参加目標の確認と情報共有
利用者満足度向上への取り組み	①個別支援計画書の見直しと再構成 ②利用者個々が落ち着いて過ごせる空間の創出 ③祝日プログラムの工夫 ＊近隣への外出、買い物、お菓子作り等余暇支援の充実 ④室内プログラムの充実 ＊グループ間の交流推進（レクリエーション、リラクゼーション活動等）
医療的ケアの充実	①兼務看護師の専任化（4月～） ②看護師と生活支援員の連携による健康把握 ③家族との情報交換による体調把握 随時家族からの相談受付、受診付き添い等のサポート 保護者会主催「おくすり、身体、受診のこと」研修会実施 ④医療機関との協力・連携による健康維持 ⑤ひょうごデイサービスセンターとの医療業務相互協力体制継続
快適な物理的環境の創造	①パーテーション、机、椅子、個別用整理棚等、環境再整備による物理的構造化の推進 ②③日中活動スペースのレイアウト変更による利用者個々の居場所の確保
将来に備えた取り組み	①将来についての意識調査実施 ②神戸地区グループホーム部会の進捗状況報告 保護者会との合同会議は未着手 ③事業所としての具体的なグループホーム建設計画検討は未着手

## 2. 研修

内部研修は、メンタルヘルス対策と虐待防止を実施・参加した。

外部研修は、自閉症者支援、高齢知的障害者支援等の専門研修を重点的に受講し、支援力向上を目指した。また、マイナンバー制度導入にあたり、事務職員の習熟を図った。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
せいれいやさかだい主催 発達心理学講座 (3名、10回)	5~3	自閉症 e サービス基礎講座	5・6・7・10
中部在宅障害者福祉センター メンタルヘルスセルフケア研修	7	全国知的障害関係施設長等会議	6
中部在宅障害者福祉センター メンタルヘルスラインケア研修	8・9	現任訓練 (自立センターたるみ) 2名	6・1
虐待防止研修	2・3	マイナンバー制度の概要と会社における対応について	7
		神戸市知的障害者施設連盟 職員部会研修会	7
		「仕事の渋滞、解消の法則！」	7
		てんかん基礎講座	8
		北摂杉の子会研修セミナー 「知的障がいのある人たちの 高齢化の課題と暮らしの支援」	7
		兵庫県知的障害者施設協会 緊急施設長等研修会 (テーマ：虐待防止) 2名	7
		兵庫県知的障害者施設協会 日中部会研修会 4名 「自閉症者への支援の在り方」	8
		福祉関係職員研修会 「人口減少時代を迎えた神戸 市政の課題」	8
		神戸市知的障害者施設連盟 「マイナンバー制度基礎研修 会」2名	9
		発達障害サポーター養成講座	9・10・1
		兵庫県手をつなぐ育成会 マイナンバー制度説明会 2名	9
		決算書と財務諸表分析の「基本」	9
		知的障害児(者)と重症心身障害	9

		児（者）のいのちとくらしを守る 会、福祉の集い（テーマ：虐待防止）	
		こうべかぞくねっと研修会 「親の役割・施設の役割とこれからの運動」	10
		施設見学（御影倶楽部）	10
		兵庫県手をつなぐ育成会 2名 「知的障がい者高齢化問題講演会」	11
		苦情解決セミナー	11
		全国知的障害者施設家族会連 合会全国大会	11
		兵庫県知的障害者施設協会 播但地区研修会 2名 （テーマ：重度・高齢知的障 害者支援）	11
		清心ホーム主催「見える化支 援」	12
		兵庫県社会福祉協議会 「退職共済制度について」	12
		近畿地区知的障害関係施設長 等会議	12
		兵庫県知的障害者施設協会 新任職員研修会	2
		神戸市手をつなぐ育成会 「高齢・重度者の暮らしを支 えて」	3
		障害者総合支援法等関係事業 者説明会 2名	3

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
7件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左膝下外側に痣が出来ていた件</li> <li>・9:30の開所時間に職員がまばらで受け入れ状態が悪かった件</li> <li>・トイレの尿臭がホールにまで来ていた件</li> <li>・エレベーター内で後から急に大きな声を出して挨拶し、驚かせた件</li> <li>・11月にも関わらず、上着を着せずに降所してもら</li> </ul>	7件	0件

	い寒い思いをさせてしまった件 ・着替えの肌着を持たせているに、着させていなかった件		
--	--	--	--

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
37 件	5 件	34 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイースト合同訓練	5
避難・通報・消火訓練	中部在障各階合同の避難誘導、消火訓練	10

4. 地域交流

- ・兵庫区自立支援協議会  
運営委員として参画  
社会参加を考える部会にて、近隣事業所と協力・連携して車両共同送迎を実施
- ・実習生の受け入れ  
神戸女子大学（1名）、総合衛生学院（6名）、神戸常磐大学（3名）
- ・フェスピック基金によるクリスマス会へ中部在宅障害者福祉センター利用者、職員招待
- ・日常活動のボランティアに加え、行事・祝日プログラム等にボランティアを依頼

(1) ボランティア

- ア) 個人：延べ 181 名
- イ) 団体： 1 団体延べ 78 名

(2) その他

- ・近隣公園の清掃

## 2015年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 ワークセンターわかまつ  
文責 施設長 井上 待子

総括.

- (1) 昨年度いっばいで従たる事業所「せきもり」が生活介護事業として移行し神戸聖生園の傘下に入ったため、改めて「ワークセンターわかまつ」定員30名としてスタートしました。4月から6月までは実利用者32名でしたが、7月から1名を加え、目標としていた実利用者33名になりました。
- (2) 利用者自治会を発足し、利用者自身が社会活動の内容など自分たちの活動を考えて決めていく取組みを支援しました。
- (3) 定例の職員会議で課長、主任が中心となり、「危険予知トレーニング」「ケアプランの作成」等の専門性に係る勉強会を実施し、職員の資質向上に努めました。
- (4) 下請作業において、靴箱折りの作業量の減少する中、外部作業所の賃貸契約の継続が貸主の都合により困難となり、賃貸契約が終了しました。今後の見通しも含めて作業の継続を検討しましたが、外部作業所を他に借りず、長年主力作業であった靴箱折り作業は終了しました。それに伴い、わかまつ内のレイアウトを大きく変更(内装工事も含む)をして8月からわかまつで全員が作業することになりました。
- (5) 約3年間「徳島屋」の弁当業者を利用していましたが、食の安心安全を第一に検討した結果、利用者と家族にも試食をしていただいた「朝日給食」に変更しました。

### 1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

#### (1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	わかまつの将来検討	①②黒田設計事務所を通して改修時の責任範囲を再確認。5月に神戸市障害福祉部管理係を訪問。 神戸市ファシリティマネジメントの取り組みの一環として、防水加工処理等が次年度の予算で行われることを確認。今後勤労市民センターとの共有部分も含め共同で修繕等行われる予定。
	安定した工賃・作業提供するための取り組み	① 販売促進に向け、わかまつ独自に Facebook を開始。新商品として、シュトーレンを年間通しての販売開始。 ② 靴箱折りが作業場撤退につき終了。神戸地区の他事業所と連携し新作業を導入。
	グループホームの設置に向けての取り組み	① ニーズ調査を実施。緊急性は大きく現れなかったが、グループホームたいのはた東に4名が入居希望し内1名が入居。 ② 法人内グループホームワーキングに参加。

サービス	利用者のニーズに即した支援	<p>① 個別支援計画の策定・同意、モニタリング面談、ケア会議を行ない PDCA サイクルの実践。</p> <p>② 2 か月に 1 回、第 2 土曜日を出勤日とし利用者自治会を実施。社会活動の行き先希望の聞き取り調査等を実施。参加率は土曜日でありながらも平均 82.8%。</p> <p>③ 利用者自治会時に満足度調査を実施。</p> <p>④ グループホームのニーズ調査から必要者のリストアップを実施。</p>
	人権を尊重した支援	<p>① 家族会にてみまもり通信の配布等による成年後見制度の推進・啓発。推進委員会主催の研修に家族参加を促し、2 名参加。</p> <p>② 5 月、8 月、1 月に法人共通の虐待チェックリストの実施。11 月に全社協版セルフチェックリスト実施。</p>
	就労継続支援(働く喜び)の提供	<p>①②外部作業所を撤退し、全利用者がわかまつ内で作業開始。共同受注ワーキングでの作業など新規作業導入。これらのことから作業グループの枠を超え柔軟な作業対応が可能に、また安定した作業量を確保。</p>
	リスクマネジメント	<p>① 5 月 20 日,11 月 12 日にジョイプラザとの合同防災訓練に参加。</p> <p>② 家族会にご協力いただき、帰宅困難時を想定し、保存食としてアルファ米 100 食分、乾パン 110g×48 缶、保存水 20×90 本=1800確保。</p>
経営	安定した訓練等給付費収入の確保	<p>① 法定日数 270 日に対して過不足なしの 270 日の開所。休日稼働として年に 6 回利用者自治会実施。延べ 10 回社会活動として余暇活動を提供。また、休日外部販売(お大師、おいでやすカーニバル等を含む)を 12 回。健康診断やクリスマス祝会を土曜日や祝日に実施。</p> <p>② 7 月から利用者 1 名が利用を開始し、登録 33 名。</p> <p>③ 低出勤率利用者にはアプローチを行なうが障害特性等の理由等から向上には至らず。</p>
人材育成	基本理念の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の聖書、日毎の糧の輪読。基本理念の唱和</li> <li>・法人主催キリスト教福祉講座参加</li> </ul>
	階層別職員育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内階層別(上級職員、主任、課長)研修参加。市民福祉大学新任職員研修参加。県知協中堅職員研修参加。</li> <li>・障害福祉施設リーダーゼミナールに参加するが、途中職員体制上不参加となり未修了。</li> </ul>

専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラインケア研修(基礎・応用)、感染症講座、商品向上支援セミナー参加。</li> <li>・内部研修:職制が講師となり職員向けに研修を実施。</li> </ul>
実習生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護員養成研修実習として須磨ノ浦女子高校 保育実習として神戸常磐大学、夙川短期大学 障害者施設実習として兵庫県立総合衛生学院受け入れ。</li> </ul>

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労継続支援B型

課題	実施内容
中工賃の配分維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸地区法人事業所内での共同受注作業は開始したが、独自での新規下請作業の導入はなし。</li> <li>自主生産品として、手作り封筒やポチ袋の作成及び販売開始。</li> <li>・神戸地区法人事業所家族会に協力を得て、定期的販売を実施。神戸明生園のおやつに焼菓子を定期納入開始。</li> </ul>
余暇活動、自治会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者自治会の役員を選挙にて選出。</li> <li>・利用者自治会にて社会活動の行き先等の希望を確認し、意見を実際の行き先等に反映。</li> <li>・クリスマス会の出し物を利用者自治会が主体的に決定。</li> </ul>
地域交流、地域貢献、啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月20日のお大師販売や地域イベントでの販売(すまると、一七市拡大版、須磨音楽の森、おいでやすカーニバルなど)への参加。ジョイプラザ 防災訓練に参加。池田小学校の半日(5年生)/1日(6年生)ボランティア活動体験の受け入れ。</li> </ul>

2. 研修

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
(内部研修)危険予知訓練(KYT)	7	(神戸ふれあい工房)商品向上セミナー	5
ラインケア研修(基礎・応用)	8,9	(市民福祉大学)新任職員研修	6
主任研修	8	(市知連)職員部会事業所見学会	7
(内部研修)支援のプロセス	8	(県知協)緊急施設長等研修会	7
(内部研修)潜在能力を引き出す20の原則	9	(長田区)感染症講座	10
マイナンバー研修	10	(市知連)職員部会 施設職員研修会	10
課長研修	11	障害福祉施設 リーダーゼミナール	9,10
上級職員研修	1,2	(運営適正化委員会)苦情解決セミナー	11
(内部研修)アセスメントについて	1	(県知協)中堅職員研修	11
総合職員研修	2	障害者差別解消法研修会	2

成年後見制度実務者研修	2		
キリスト教福祉講座	2		

### 3. リスクマネジメント

#### (1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
1件	・利用者が台車を押していて通行人と接触した件で、当事者(通行人)家族から対応が遅い、誠意がみえないという苦情。	1件	0件

※ 医療費をすぐにお支払することで対応

#### (2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
2件	2件	1件

※事故内容 接触事故：台車と通行人の接触 1件

物損事故：キーボード破損 1件

#### (3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	ジョイプラザの総合訓練に合同参加し、避難場所を独自に設定し、避難訓練を実施	5,11

### 4. 地域交流

イベント販売(年間を通して毎月20日のお大師での露店販売、年6回のすまるとしでの販売[須磨区役所ロビー]、4月：妙法寺川さくらまつり、5月：須磨音楽の森[須磨離宮公園]、11月：一七市拡大版[鉄人広場])などに参加して、地域の方と交流を持ちました。

#### (1) ボランティア

##### ア) 団体：6名(池田小学校)

一七市拡大版 2016 の一環として、長田区池田小学校の5年生(半日)、6年生(1日)をボランティア(体験)として受け入れ、利用者とはふれあいながら暮らしや思いにふれてもらい、長田地域の福祉施設のPRや作業内容を理解してもらうことができました。

##### イ) 個人：クリスマス祝会に8月に実習で来ていた神戸常磐大学生2名

こんにちはカーニバルでの販売応援に神戸女子大学生2名

2015年度 事業報告別表 1(事業実績)

特養・グループホーム・施設入所支援・(入所型事業)		定員数	利用率① (%)		地域生活移行 (人)	
			2015年度目標	2015年度実績【年間】	2015年度目標	2015年度実績【年間】
特養	平生園	60	97.0%	96.4%		
入所	恵生園	60	97.0%	96.2%	1	0
入所	真生園	60	97.5%	95.5%		
入所	神戸愛生園	50	98.0%	97.2%	1	0
入所	神戸明生園	70	94.0%	91.21%		
GH	わらしべ	18	99.0%	98.0%		
〃	グループホームもみの木	5	95.0%	84%		
〃	グループホームかしの木	7	80.0%	74.2%		
〃	グループホームかしの木Ⅱ	5	75.0%	63.5%		
CH	ながみね	5	80.0%	72%		
〃	しおや	4	100.0%	96%		
〃	きたすま	5	93.0%	93.44%		
〃	みなみたもん	5	90.0%	88.1%		

短期入所支援事業		定員数	利用率① (%)	
			2015年度目標	2015年度実績【年間】
高齢	平生園	10	100%	91.7%
障害	恵生園	3	25.0%	44.6%
〃	真生園	4	40%	62.3%
〃	神戸愛生園	5	80%	52.6%
〃	神戸明生園	10	90.0%	89.94%

通所介護・生活介護・児童デイ・重症心身障害者日中活動支援事業・日中一時支援事業 (日中型事業)		定員数	利用率② (%)	
			2015年度目標	2015年度実績【年間】
通所	さくらの苑	24	88%	73%
生活	恵生園	60	101.8%	102.1%
〃	真生園	60	100%	98.9%
〃	神戸愛生園	60	102.7%	103.4%
〃	神戸聖生園	37	90%	88%
〃	せいれいやさかだい	28	85%	110.7%
〃	神戸光生園	54	93.8%	91.6%
〃	神戸明生園	80	98.5%	96.15%
〃	デイセンターひょうご	25	81.5%	79.38%
〃	自立センターひょうご	60	87.0%	81.7%
〃	トゥモロー	10	75.3%	72.5%
重心	インクルージョンひょうご	20	64.0%	60.33%
日中	真生園	5	20.0%	11.8%
〃	神戸明生園	-	延べ 180日	延べ 83日
児童	すまいる	20	65%	72.6%
児童	エスポワールこじか	10	76%	78%
日中	豊岡市療育支援事業		0%	0%

定員を変更10→8に変更に合わせて目標値を61%→75.3%に修正

2015年度末をもって事業終了

2015年度 事業報告別表 1(事業実績)

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)		定員数	利用率② (%)		就職者数(人)		定着率(就職後6ヶ月)	
			2015年度 目標	2015年度実績 【年間】	2015年度 目標	2015年度実績 【年間】	2015年度 目標	2015年度実績 【年間】
移行	和生園	6	95%	86.9%	4人	3人	100.0%	100.0%
"	神戸光生園	6	33.0%	54.6%	1人	1人	100%	0%
"	ワークセンターひょうご	30	75%	77.4%	18人	19人	100%	100%
相談	神戸市障害者就労推進センター	—	—	—	110人	116人	—	—
"	神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—			—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)		定員数	利用率② (%)		時間給工賃(平均:円)		月配分額(平均:円)	
			2015年度 目標	2015年度実績 【年間】	2015年度 目標	2015年度実績 【年間】	2015年度 目標	2015年度実績 【年間】
障害	和生園	30	92.5%	93.9%	265円	292円	30,000円	29,470円
"	神戸聖生園	35	95.0%	85.61%	60円	55.1円	4,800円	4,415円
"	せいれいやさかだい	10	80.2%	67.9%	77円	68.2円	7,000円	6,816円
"	神戸友生園	30	100%	113.3%	145円	109円	10,800円	11,829円
"	神戸光生園	33	96.0%	95.1%	135.0円	159.0円	13,500円	13,579円
"	デイセンターひょうご	10	103.1%	100.37%	45.6円	37.06円	2,000円	1,984円
"	ワークセンターわかまつ	40	97.1%	96.1%	122円	116円	11,200円	10,615円

居宅介護支援・相談支援		支援内容・対象	支援件数(件)	
			2015年度 目標	2015年度実績 【年間】
居宅	平生園居宅介護支援事業	ケアマネージャー	1,632件	1,720件
障害	恵生園相談支援事業所	障害者	1,020件	1,588件
"	びあほくたん	障害者	500件	516件
"	神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	9,000件	7,940件
"	神戸市障害者就労推進センター	障害者		
"	ひょうご発達障害者支援センタークローバー・豊岡プラチ	発達障害者	560件	620件
"	神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	530件	663件
"	ひょうご障害者地域生活支援センター	総合相談・緊急対応	6,100件	5,275件
"	すま障害者地域生活支援センター	総合相談・緊急対応	4,800件	5,544件

生活援助・介護予防・職場開拓		件数		
		項目	2015年度 目標	2015年度実績 【年間】
障害	あったかプラザ(飲食店)	来店人数	7,500人	7,106人
"	障害者就職拡大推進事業	職場開拓活動	190件	427件

診療所		診療延べ数(人/日)	
		2015年度 目標	2015年度実績 【年間】
医療	真生園診療所	4000人	3,487人
"	風(ふう)クリニック	1,100人	1,159人
"	神戸愛生園診療所	7,300人	6,660人

注意: 利用率の計算方法

①入所型事業及び短期利用延べ人数÷(定員数×365日)

②日中型事業は 利用延べ人数÷{定員数×(365日-8日×12ヶ月)}

2015年度 事業報告別表 2(設備整備実績)

No.	施設名	施設 件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額 (千円)	財源			
							経理区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
1	恵生園	1	非常用放送設備更新工事	老朽化した非常用放送設備の更新	2016年1月29日	1,155	生活介護	介護給付費収益		0
2		2	恵生園 2015年度改修工事	①空調機器更新、②電気式給湯機器への更新、③給湯配管更新、④キュービクル増設、⑤污水管改修、⑥トイレ全面改修、⑦ナースコール更新(PHSタイプ)	2016年5月30日	42,240	生活介護 施設入所	介護給付費収益		0
3	真生園	1	新館外壁改修工事	壁面タイルの剥落防止に係る補修。 新館東西の2階壁面に広範囲で外壁の浮き及び所々においてひび割れ、白華等の損傷あり。	2015年5月30日	10,746	生活介護 施設入所	介護給付費収益		0
4		2	非常用放送設備更新工事	老朽化した非常用放送設備の更新。 設置後20年経過による老朽化。修理部品がない為、修理不可。	2015年10月2日	1,128	生活介護	介護給付費収益		0
5	わらしべ	1	浴室改修工事・照明LED工事	・浴槽が高く跨ぎ難い、広すぎ寒いといった部分等の解消と、全く使用していない浴槽やシャワー室の撤去。 ・照明LEDへ変更	2016年3月31日	19,980	わらしべ(認知症 対応型共同生活 介護)	介護保険事業収益		0
6	神戸聖生園	1	男女トイレ改修(新設)	元更衣室を拐取して新設トイレを設置	2016年1月	14,560	神戸聖生園 生活介護	修繕積立金 減価償却積立金 拠点区分間繰入金		0
7		2	グループホームたいのはた東 土地	神戸市須磨区多井畑東町24番14 宅地	2015年6月	21,817	神戸聖生園 生活介護	移行時備品積立金 移行時人件費積立金 減価償却積立金 その他積立金		0
8		3	グループホームたいのはた東 建物	神戸市須磨区多井畑東町24番14 居宅	2015年6月	9,143	神戸聖生園 生活介護	移行時備品積立金 移行時人件費積立金 減価償却積立金 その他積立金		0
9		4	グループホームたいのはた東 内装 改修	利用定員に合わせる居室新設、スプリンクラー設置と避難経路確保工事	2015年12月	12,021	神戸聖生園 生活介護	修繕積立金 減価償却積立金 拠点区分間繰入金	神戸市民間社会福祉施設等 補助金	3,600
10	神戸愛生園	1	自動火災受信機設備改修工事	保全計画に基づき、2015年度消防設備整備として更新	2016年3月30日	1,643	生活介護	介護給付収入収益		0
11		2	天井走行リフトの設置	職員労働環境設備と利用者安全確保のため 2012年度より順次設置	2016年3月31日	2,068	生活介護 短期入所	介護給付収入収益		0
12	神戸友生園	1	設備工事	電話設備・放送設備・自火報設備・TVアンテナ 設備等の更新	2016年3月30日	2,278	就労継続B型	障害福祉サービス事業収入		0

2015年度 事業報告別表 2(設備整備実績)

13	神戸光生園	1	内装改修工事及び電気設備工事(LED化)	1階作業場(生活介護エリア)床張替及び内装改修工事・男子更衣室改修・2階食堂老朽化に伴う保全工事・1階及び2階一部のLED化による省電力対策	2016年1月31日	15,692	神戸光生園生活介護	修繕積立資産・建設積立資産・支援費移行時特別積立資産・支払資金特別積立資産取崩		0
14	神戸明生園	1	公用車(ハイエース)の購入	利用者送迎用車両の購入	2016年1月15日	3,495	神戸明生園生活介護	施設整備等補助金収益及び運営資金	公益財団法人神戸やまぶき財団	3,000
15		2	空調(GHP)及び照明設備(LED)改修工事	男性棟空調設備(GHP)の老朽化に伴う入替工事及びLED照明への更新工事	2016年5月21日	43,200	神戸明生園生活介護	積立金取り崩し	総額43,200千円(設計監理費を除く)の内、13,000千円については2015年度に支払済、残額は2016年度に支払予定	0
16	せいれいやさかだい	1	林タオル事業所作業室防火壁設置工事	林タオル事業所の2階への移転に伴い、建築基準法に基づき、他用途との境界面に防火壁を設置	2015年6月30日	1,250	せいれいやさかだい生活介護	自立支援事業収入		0

※ 100万円以上のものを記載しています。